日南町告示第32号

令和８年第５回日南町議会定例会を次のとおり招集する。

令和８年５月25日

日南町長　中　村　英　明

記

招集年月日　　令和８年６月２日

招 集 場 所　　日南町役場庁舎　議場

〇開会日に応招した議員

大　西　　保君	櫃　田　洋　一君
荒　金　敏　江君	岡　本　健　三君
荒　木　　博君	岩　﨑　昭　男君
高　橋　洋　志君	近　藤　仁　志君
山　本　芳　昭君	

〇応招しなかった議員

な　し

令和８年　第５回（定例）日　南　町　議　会　会　議　録（第１日）

令和８年６月２日（火曜日）

議事日程（第１号）

令和８年６月２日　午前９時10分開会

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　会期の決定
日程第３　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　会期の決定
日程第３　一般質問

出席議員（９名）

２番　大　西　　保君	３番　櫃　田　洋　一君
４番　荒　金　敏　江君	５番　岡　本　健　三君
６番　荒　木　　博君	７番　岩　崎　昭　男君
８番　高　橋　洋　志君	９番　近　藤　仁　志君
10番　山　本　芳　昭君	

欠席議員（なし）

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長 …… 長　崎　み　よ君　　書記 …… 倉　光　祐　希君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	中　村　英　明君	副町長 ……	角　井　　学君
教育長 ……	青　戸　晶　彦君	総務課長 ……	渡　邊　輝　紀君
まち未来創造課長 …	出　口　真　理君	地域づくり推進課長	實　延　太　郎君
住民課長 ……	島　山　亮　子君	環境エネルギー課長	宇　田　聖　子君
福祉保健課長 ……	片　岡　慎　也君	こども若者未来課長	坪　倉　洋　子君
農林課長 ……	坂　本　文　彦君	建設課長 ……	相　見　正　章君

教育次長 ……	段　塚　直　哉君	会計管理者 ……	高　柴　博　昭君
農業委員会事務局長	淺　田　雅　史君	病院事業管理者 ……	福　家　寿　樹君
病院事務部長 ……	中　西　修　一君		

議長挨拶

○議長（山本　芳昭君）　皆様、おはようございます。

令和８年第５回日南町議会定例会の開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、全員御出席をいただき、誠にありがとうございます。あわせまして、執行部の皆様におかれましても、本定例会の開催に向け御尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。

町内では、田植作業もほぼ終わりつつあるようですが、先月１３日には平井鳥取県知事にも御参加をいただき、新嘗祭、田植式が印賀の大塚様の圃場で執り行われました。今後は、台風や近年の猛暑など予断を許さない気象条件も懸念されますが、先月の田植式で植えられた苗をはじめ、町内各地域の稲が順調に生育し、農家の皆様が豊かな実りの秋を迎えられますことを願っております。

さて、本定例会では、補正予算案をはじめとする各種議案が上程されております。加えて、６名の議員による一般質問も予定されており、町政に対する幅広い議論が展開されるものと期待しております。本会議が町民の皆様の信頼に応える実り多きものになりますよう、各議員におかれましては真摯な審議をお願い申し上げ、開会に当たっての御挨拶といたします。

午前９時１０分開会

○議長（山本　芳昭君）　ただいまの出席は９名です。定足数に達していますので、令和８年第５回日南町議会定例会を開会します。

本日の議事日程は、タブレット日程ファイルのとおりです。

タブレットの令和８年第５回定例会フォルダーの報告書フォルダーをお開きください。

地方自治法第１２１条の規定により、本定例会に出席を求めた者は、報告書のとおりです。

例月出納検査ファイルをお開きください。

本町の監査委員から報告のありました、令和８年５月１８日付の地方自治法第２３５条の２の規定による例月出納検査の結果については、報告書のとおりです。

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（山本　芳昭君）　日程第１、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員は、日南町議会会議規則第１２５条の規定により、議長において、４番、荒金敏江議員、５番、岡本健三議員の２名を指名します。

日程第２　会期の決定

○議長（山本　芳昭君）　日程第２、会期の決定を議題とします。

今期定例会の会期は、さきに議会運営委員会に諮問し、答申を得ていますが、その会期は、本日６月２日から６月９日までの８日間です。

お諮りします。今期定例会の会期は、議会運営委員会の答申のとおり、本日６月２日から６月９日までの８日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本　芳昭君）　異議なしと認めます。よって、会期は、本日から６月９日までの８日間に決定しました。

つきましては、今期定例会の運営について、格別の御協力をお願いいたします。

○議長（山本　芳昭君）　ここで執行部からの発言が求められていますので、これを許します。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　令和８年６月の定例議会開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げたいと思います。

最初に、６月に入りまして、大雨も含めて梅雨入りも間近になりました。大雨等によります新しい防災気象情報が５月２８日からスタートしております。気象庁が発表する警報、注意報などが見直されまして、大雨、河川氾濫、土砂災害、高潮の４つの災害について、５段階の警戒レベルに応じた情報へと統一されます。なお、避難におけます区分に変更はありませんが、レベル３の警報では、避難に時間がかかる高齢者等の、危険な場所からの避難する。レベル４の危険警報につきましては、危険な場所から全員が避難をするという意味ですので、御承知おきいただければと思います。また、６月に入りましてアユ釣りのシーズンとなりました。昨日ですが、待ち焦がれた釣り人が日野川で楽しむ姿がありました。豊漁となることを願っておるとこであります。

ここで、行政報告を、最近の動向、あるいは、今後の予定について報告をさせていただきたいと思います。

５月中の動きではありますが、先ほど山本議長からもお話しいただいておりますが、新嘗祭の田植式のほうを挙行しておりまして、天候も晴天に恵まれまして、早乙女さんにも御協力いただき、厳かな田植式が済んだということで報告をさせていただきます。

５月の２６日ですが、日南町の自治協議会、あるいは、自治会長会の合同会議を実施しておりまして、新たな取組等の紹介等をさせていただいておるとこであります。

また、５月２８日ですが、西部のポンプ操法大会出場の山上分団が今年出場されまして、それの練習の成果の総見というところで行いまして、順調な仕上がりというのを確認をさせていただいて、本番に頑張っていただければというふうに考えております。

また、５月の３０日ですが、食のバザール肉祭りということで、道の駅のほうで会場に行われまして、晴天にも恵まれて盛況だったというふうに認識しております。本部の発表のほうでは3,５００人来場ということでお聞きしておりまして、関係者の皆様に感謝申し上げたいというふうに思っております。

今後の予定ですけれども、６月の６日にはにちなんふくしフェスタが本町で行われますし、また、翌日の７日には西部ポンプ操法大会の本番がありまして、山上分団のほうが出場されます。活躍のほうに期待をしたいというふうに思っております。

それから、６月の２０日ですが、文化センターの３０周年の記念ということでありますので、そのイベントの開会があるところでありまして、また、６月２５日は、東京にあります地域活性化センターの地方創生実践塾というのが本町でありますので、一昨年もありましたけれども、再度、本町での塾が開催されます。

また、６月２６日は、例年のごとくでありますが、蛍観賞ということで、福万来ホタル乃国のほうのスタートということであります。多くの皆さんに日南町の蛍を見ていただくようになるといいというふうに思っております。

また、７月に入りますが、７月の１９日にまちづくり協議会の２０周年の記念式典を執り行います。１月の地震に伴いまして延期をしておりましたけれども、この日に式典のほうを行いたいというふうに思っておりますので、多くの町民の皆さんの御参加をお願いをしたいというふうに思っております。

また、最近の情勢についてでございますが、既に皆さん方御承知のとおり、中東の情勢を受けまして、国のほうでは補正予算というような編成に向けて入っております。現時点での情報となりますが、国民の電気、ガス料金の支援というのが中心になっておりまして、７月から９月の使用分ということを予定をされている状況であります。また、石油関連商品のナフサショックのほうが発生をしておりまして、商品の確保の不安、あるいは価格の上昇ということになっておりまして、町内の企業でもその影響が出てきており、対応のほうに向けて尽力していきたいというふうに思っております。現在、国、あるいは県の補正予算等にも注視していきたいと思いますし、また、全国の知事会のほうも、政府のほうに要望をされて活動を進めておられるということでの情報は把握しておりますけれども、いずれにしても今後の動向に注意をしていきたいというふうに思っております。

最後になりますが、本定例会議のほうに協議案件２件、補正予算７件のほうを上程をさせていただいております。御承認を賜りますようよろしくお願い申し上げて、冒頭の御挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

○議長（山本　芳昭君）　一般質問に入る前に、町長から出席を求められた説明員以外の所属長は、ここで退席をお願いをいたします。

日程第３　一般質問

○議長（山本　芳昭君）　タブレットの一般質問フォルダーをお開きください。

日程第３、一般質問を行います。

一般質問は、通告順にこれを許します。

２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　このたびの一般質問は、１１月に行われます日南町町長選挙と、外国人雇用等についての質問を行います。

まず、次期町長選挙に出馬されるかを伺いますが、昨日と本日の新聞報道で、町長は３選を目指して立候補する意思を固めたことが関係者の取材で分かった。また、中村氏は、本紙の取材に対し、６月議会の一般質問で結論を述べると話をされたとあります。したがいまして、質問は、前回の２期目の公約に対して、達成した項目、未達成の項目についてどのように評価されたのか。また、３期目に向けてどのような公約をされるのかをお伺いします。

２点目は、モンゴル交流について。３月議会において、ゾーンモド市とのオンライン会議でどのような内容を協議され、何が決まったのか。また、今後の取組はどのようにされるのかをお伺いします。

最後に、外国人材について。日南福祉会あかねの郷と日南病院の外国人介護人材の就業と研修状況及び生活環境等における課題点はないのか。また、町長は、今後、町内事業者向けの取組を行うと３月に話されましたが、その取組状況はどのようになってるかをお伺いいたします。以上であります。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　大西保議員の御質問のほうにお答えしたいと思います。

最初に、次期町長選挙についてという御質問であります。項目１が、出馬されるのかという御質問でございますが、再選を目指して立候補したいというふうに考えております。理由ですが、様々な事業がありますけれども、まだ道半ばというふうに考えておりまして、今進めている事業などを中心に、しっかりとした実現、計画、方向性を示していきたいというふうに考えております、ということであります。

２つ目の２期目の公約に対しましての達成項目、未達成の項目について、どのように評価されたのかという御質問でございます。

２期目についてでございますが、基本的には、共創と協働で進むまちというところで大項目を設定をさせていただきながら、６つの柱と１６項目ということで上げさせていただきました。最終的な評価の判断につきましては、町民の皆様というところであろうかなというふうに思っておりますが、本日は、自己判断的にどうかということの御質問だというふうに理解をした中での回答をさせていただければと思います。

１６項目めの中の達成または見込みっていうところが３件というふうに判断をしております。また、未達成につきましては１件ということで整理をして、その残りの１２件

が基本的には着手済みではあるが、一定の進捗というところも認められますが、まだまだ途上っていうところの判断をしておるところでございます。それが１２件ということの自己判断をさせていただいております。内容につきましての達成または達成見込みっていうところの３件でございますが、健康づくりや医療・介護・福祉という部分と、国保と介護保険料の税率据置き、そして、行革の推進と人材育成という区分を、そのように判断しております。また、未達成という項目でございますが、にちなん町民大学の推進というところで項目を上げさせていただいておりますが、まだまだ全町民というところまでは至ってないという判断をしております。しかしながら、人生学園だとか町民大学だとか、そういった部分のほうに継承をされているというふうに認識しておるところではございます。

３点目の３期に向けての公約というところでございますが、正直、現時点では取りまとめているということではありませんし、これから町民の皆さんの声をいただきながら改めて目標設定を定めていきたいというふうに思っておりますが、最終的には、この日南町が持続可能な町になることを求めていきたいというふうに思って、現時点では思っておるところでございます。

１項目めについての回答は、以上とさせていただきたいと思います。

次に、２点目のモンゴル交流におきましてのオンライン会議の状況についてという御質問でございます。

令和８年３月の会議では、主に就労に係る意見交換を行いまして、大きく３つの点につきまして確認ができたところでございます。まず、今、モンゴルの若者の間で人気の就業先は、気軽に短時間就労で収入が得られます韓国であるとかカナダであるとかオーストラリアで、日本の場合は、進学、教育の面で人気があるということでお聞きしております。

次に、海外就労への市長のお考えですが、技術や言語を学び、自国で活躍する人材育成としての捉えが強いようでございます。

最後に、昨年末、ゾーンモド市として、市民向けに日南町の人材確保のスキームについての勉強会をされておりまして、興味を示された市民もいましたけれども、長期雇用を希望する人やすぐに行きたいという人材はいなかったということであります。これらの状況を踏まえますと、モンゴルからの人材の受入れにつきましては、現時点におきましては具体的な進展が見込める状況になく、実現の可能性は高くないものと認識しております。今後につきましては、さきの勉強会継続の意向があることも含めまして、引き続き動向注視しつつ、慎重に対応するとともに、当面は文化交流を中心とした友好関係の維持と情報交換に努めてまいりたいと考えております。

次に、３点目の外国人材につきましてという項目の中の、日南福祉会と日南病院の介護の人材の就業、研修状況、生活環境におきます課題点という御質問でございますが、後段の日南病院の課題点につきましては、この後、病院事業管理者のほうから答弁をさ

せます。

まず、日南福祉会についてですが、この春採用となりましたミャンマーからの特定技能生４名でございますが、現在、特養部門のほうで勤務をしていただいております。研修状況ですが、週２回の日本語の勉強と、５月からは初任者研修を開始しております。生活状況に関しての移動手段でございますが、福祉会からの電動アシスト自転車が貸与されておりまして、通勤や買物等に使用していただいております。４月末には、黒坂の警察署から自転車の交通ルールの指導を受けております。来日から約２か月という経過をしておりますが、困り事の訴えは特に出てないというふうに聞いております。

２つ目の町内事業者向けの取組状況っていうことでございますが、本年５月ですが、商工会員に対しまして、商工会と連名で外国人労働者雇用実態アンケートというのを依頼をしているとこでございます。会員には、６月の上旬までに回答をいただくようお願いをしており、その後は商工会によりアンケートの記入状況についての確認と、今後の意向確認などを個別に行う予定としております。

以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、外国人材の日南病院における課題点についての御質問は、病院事業管理者のほうから答弁をいたします。

以上でございます。

○議長（山本　芳昭君）　福家事業管理者。

○病院事業管理者（福家　寿樹君）　それでは、大西保議員の御質問にお答えいたします。

日南病院では、フィリピンから特定技能介護職の方が現在４名就業しております。院内研修では、事前に準備したテキストを中心に、現在では、業者のほうが実施しておりますオンライン研修、ｅラーニングを中心に活用し、日本語能力検定のＮ３の受験対策を行っております。なお、ふだんの生活環境におきましては、特に不便な点はないと、それぞれのスタッフから伺っております。

以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　出馬されるということで、分かりました。

それで、私はやはり、町民が最終的に選挙で選ばれたわけですけども、前回の選挙で、何と７対３ということで大勝されました。私は、最初のときは、１期目は、前町長が急逝されたんで、町長が、よし出ようということでされて、１期目はされました。参考にですけど、１期目は、割と数値、デジタル、目標に対してデジタルでされてましたけども、参考に、１期目の数字、例えばがん検診率８０％、婚姻何組、それの記憶がございますか、何％の実績か。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　第１期目の目標数値の一つであります、がん検診の受診率っていうところで、８割というところですね、８０％というところで申し上げましたけれど

も、現時点では、なかなか情報がトータル的に集約できにくいっていう環境がありますので、その辺については、内容については継続っていうふうな認識を持っておりますが、数字的なところにつきましては、見直しっていうところも内部のほうでやらせていただいているっていうところであります。国保だとかっていうところの町が直接関与できるところは把握はできますけど、社保だとか、共済だとか、いろんな保険がありますので、そこのところの実績の把握っていうのがなかなか難しいっていうところは現状でありますので、そういったところはありますけれども、最終的には、町民の皆さんが健康でいっていただきたい、そのためにはがん検診を受けていただき、あるいは、健診を多くの皆さんに受けていただきたいという気持ちは変わっておりません。

○議長（山本　芳昭君）　ちょっと、大西議員、もう一度質問してもらっていいですか。

2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　ちょっといいですか、1期目のときに、5つの項目でデジタル的な数字を出されました。その中に、言ってた、例えばふるさと納税1億円とか、思い出されましたか。

○町長（中村　英明君）　それは言いました。

○議員（2番　大西　　保君）　だから、こういうの、結婚、婚姻は何組を目標にされて、実績幾らかということを聞いとんです。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ふるさと納税は、1億円というものを目標にさせていただきました。なかなか実績が上がってないというところはありますが、昨今は企業版のほうも力を入れてるっていうことで、前年度は少し、さらに前のよりも増えてきて、今は6,800万円台というふうに認識しております。

ちょっと結婚については、ちょっと、すみません、今記憶になかったので、申し訳ないですが、いずれにしても、これからの課題というふうには認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　それで、2期目の、私自身、選挙公報、ちょうど2期目の12月の選挙のときに、選挙公報をもう一度確認させていただきました。ほとんど数値化がない。具体的はない。先ほど16項目と言われて、達成が3つで、未達が1つ、あとは進捗状況だと、12は着手したけどということですけど、全く町民に対して分からないんですが、2期目で一番肝腎なの、抜けてませんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　町民の皆さんが一つ大きな関心っていうのは、病院の話というふうには理解をしております。公約上は、プランの検討に入るっていう項目にはしておりますけど、実際その動きをさせていただいているっていうところはありますけど、まだ進捗中っていうところでありますので、そういう状況だろうというふうに思っておりますので、次期の中には、これからの半年間っていうところももちろんありますが、そ

の辺はしっかりとした方向性をつくっていきたいというふうに今は思っております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　町長、16項目の中には病院は全く入ってないんですね、全く、ずうっと見たんですけども。病院という話出たのは、選挙の始まった街頭演説でぽんっと出てきたわけですよ。それで皆さん驚いて、そして、その後12月議会あり、1月、2月ありましたが、3月の施政方針で初めて病院を新築、建築する検討を進めなければならないといった、初めて公式に議会で言われたわけです。それまでなかったわけです。先ほど言いましたように、がん検診であるとか、いろんな目標を達成する計画、そういう思いで、私は常々言っております、計画が一番大事ですよと。計画に仕事の8割をかけるんだよと、常々言っております。決まれば、ＤＯで、するだけなんですよ。そして議会はＣ、チェックですよ。議会はチェックすればいいわけですよ。だから、その計画があまりにも甘過ぎるし、この病院問題について、町長、ここで言ってください。3期目はどうなのか言われませんが、3期目をどうするのか、病院について、それをお願いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　大西議員、私の大区分の町民の健康づくりの項目の中で、第2期の公約の中で、新病院建築プランの検討に入るという項目を入れております。ですから、ないということは間違いだというふうに御理解をいただくと幸いかなと思っております。ですから、そういった意味で、実際に検討も入って、町民の皆さんにもいろいろ御意見いただきながら、あるいは、多くの皆さんに計画に対しての御参画をいただきながら進めてきております。昨年の9月に、ちょっと2年延期をさせてくださいというお願いをさせてもらいましたけれども、内容的には、停滞しているわけではなくて、事務的なことも含めて進捗してるというふうに御理解をいただければというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　ですから、3年半前に、4年前ですね、町長が病院ということで言われたんで、議会のほうも、町長が委員会に諮問するということで、議会としては中心地域という委員会があるんですけど、ちょっと遠慮しながらずっと見ておったわけですよ。途中での報告はいただきました。でも、何か知らないけども、どんどんどんどんずれ込んでいって、結果的には2年過ぎて、今の状況になっております。やはりその計画、もう過去を言ってもいけませんけども、今度3期に向けて、先ほどはっきりと、まだ3期はどうのこうの言われましたけど、やっぱり、今現時点での最大の課題は、町長は何だと思いますか。町政にとって、町長として何をするんだという、3期の。いや、まだ分からんわと、今言いました16項目のうち、3つだけ達成しとるわけですけど、それ以外は、結論から言いますと達成してないことになるわけです。何を重要視されるんですか。1番、2番、3番ぐらい言ってください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　病院に関しては、着実に今進めているというふうに報告をさせていただきます。ただ、会議だとか、いろんな中での区切りっていいましょうか、そういったところもありますので、これからしっかり分かるようにまた報告等もさせていただきたいというふうに思っております。ただ、基本的な考え方とすれば、私自身は新しい病院を建築するっていう方向で今組立てをしてるというふうに御理解をいただければと思います。

また、１６項目めのといいましょうか、たくさんありますけれど、やはり本町の場合は、産業部門でいくと、農林業っていうところの担い手づくりっていうところが、一つは、１００％というふうには思っておりませんけど、着実な歩みを持ってるというふうに思っておりますし、また、所得のほうもやっぱり上がってきてるっていうのは事実であります。総生産額っていいましょうか、町民の総生産額は、鳥取県自体も上がっておりますが、本町のほうも上がっておりますので、要は１人当たりの所得も増えてるという認識をしておるとこでありますが、まだまだという感覚を持っておりますので、特に統計上の話っていうのは、今、令和５年ぐらいまでのしか統計上は出てきてないというところがありますので、これから、来年、再来年になれば、令和６年度とか７年の数字が明確になるというふうには認識しておりますが、そういった意味も含めて道半ばという整理をさせていただいてるというふうに思っております。

あとは、やっぱり行革の推進と人材育成という区分がありますが、そういったところは健全的な指標がありますので、本町としても、今は健全というランクにあるというふうに思っておりますし、また、様々な内部のほうでの人材育成だとかもさせていただいてるっていうふうに思っておりますので、全体的な体力が上がってきてるっていうふうに認識しております。それを、これから町政だとか、そういったところに反映をさせていただくことになろうかなというふうに思っておるところであります。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　私はやはり、中村町政でやっぱりインパクト、何をするんだと、あくまで町民のため、日南町のためになるわけですけども、これほど町長、２期目のときに病院ということで、そういう委員会があるんで、本当言えば、中心地域でいろんな町民からのアイデア、公園であるとか、いろんなことを、これ一旦、病院が決まるまでストップしたわけですね。よく日本では、失われた３０年間言われますけど、日南町もその１０分の１の３年間、失われた３年間があったわけですよ。やっとこさ今、中心地域が動き出したわけですけども。私は、町長の２期目の一丁目一番地だと思っておるわけです。私は、前も言いましたが、町長は任せっきりでしてるんではないかと、委員会に、諮問してるからと。要は、私はよく言うのは、「任せて任さず」という言葉があるんですよ。要するに、逐次状況を聞いて、自らがそこに乗り込んで、任すんだったら、出てきてからこうだああだになってしまって、今そういう状態で、順調に進んで

ると言われましたが、今、３町の会議が、これ何回開かれましたか。要するに、白石町長、新しい近藤町長、中村町長、それから病院の院長さん、今まで何回開かれましたか。つい最近、いつされましたか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　全体の会は１回ではありますが、ただ、部門別いやあおかしいですが、そういうところがありまして、病院の中での会議っていうところは２回されておりますので、そういったところでの今、取りまとめを今していただくっていうことであります。当初よりもちょっと若干、全体の会議のほうは遅れぎみというのは認識しておりますが、そういったところは内容的には整理ができつつあるというふうな考え方を持っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　今、そのプロジェクト自身も、町長が中心に、３町、町長の中でやろうとされてます。それは、今年かぐらいに言われたんですけど。ちょうど１年前、私はこの病院のことで、日野町の経営数字、これ、日野病院入れば誰でも見える、そして、毎月、病院長がコラムを出しとるわけですね。これ見てください、１４年間、右肩上がりなんですね。ところが、昨年１２月、日野町の経営がやばいということで、その情報は御存じでしょうか。日野病院の経営です。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　その数字っていうのは、私自身は掌握しておりません。しかしながら……。日野病院でしょう。

○議員（２番　大西　　保君）　うん。

○町長（中村　英明君）　その辺の数値いうのは承知しておりません。ただ、病院の皆さんともお話しする中での将来像についての在り方については、やはり様々な御意見をいただいて情報収集はしてるつもりであります。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　私は、江府町、日野町、日南町で３町しかない、病院は、江府は診療所ありますけど、やはり日野病院と日南病院なんですね。その日野病院の経営が１２月に厳しいいうことになったと、将来見たときに。そこで、そこの町長と、今、町長、中村町長、日南病院と言われますけど、９月にどのような方向でどうされようとしとるんですか、町長の思いは。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　私の思いとすれば、それぞれが成り立つ形っていうのを模索していきたいというふうに思っております。現状が、日野病院、江府は診療所ですけど、日南病院というところが現存するわけでありますので、それぞれが成り立つっていうか、ウィン・ウィンの関係になることを望むという、日野郡の医療体制にしたいというふうに、私自身は思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　思いはそうですけど、現実、その３町で、町長はこれでやるんだと、自分はプロジェクトリーダーでやるとまで言われましたんで、やはり目標を持って、いつまでだと。もう仕事というのは、目標、納期がないと仕事にならんわけですよ。よく言うのは、ＱＣＤといって、品質とコストと納期のデリバリー、これは民間です。要するに、納期が一番大事です。いつ病院建つんですか。それが、町長が分からなかったら、町民全く分かりませんよ。１０年先なのか、１５年先なのか、それを言ってください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　まずは、やはり、今やってる内部のところをしっかり整理をさせていただきたいと思います。その後の経過につきましては、一般的に言われる基本計画があって、設計に対する設計の基本があったり、その後は、どういいましょうか、実施の設計みたいなところが加わっていきますので、ですから、冒頭、当初は１１年というふうに、当初の段階では１１年というふうに思っておりますが、ですから、今、２年延ばすっていう過程の中でいくと１３年になりますが、早期のやっぱり完成のほうは、望んだ形で臨みたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　思いしか言われてなくて、数字で言われてないんであれですけど。実は、議員の皆さんも参加されたと思うんです、昨年１２月１７日に、日南病院のこれからを考えるシンポジウム、『ともに考える最後の砦「日南病院」』ということで、議員の皆さんも、当然町長もコメンテーターとして、そして、今日おられます中西新事務部長さんも出られて。私、大変この会はよかったなと、本当によかったなと思っておるわけです。逆に言えば、中西さんのような事務部長さんが４年前に来とればこうならなかったんじゃないかいう思いを、そのとき感じたんです。なぜか、すごい熱意があるんですね。町長は、シンポジウムで自分の感想、どうと思われましたか。この時期になぜされたんか、１２月に。そして、私が言うように、これが３年前、４年前であったらもっと進展したんじゃないかなと思うんですが、その辺はどうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　３年前、４年前って話もありますけど、過去の話でありますので。ただ、やはり大事なのは、やっぱり町民、日南病院ですので、自治体病院ですので、町民のための医療機関ということであります。ですから、町民の皆さんにもやっぱりしっかり理解して、これからも応援していただくっていうことが大事なことだろうというふうに思っておりますので、そういった意味で、病院としての在り方についての、町民の皆さんの意思統一じゃないですけど、そういうところのシンポジウムだったというふうに思っておりますし、これからもそういった体制の中で町民の皆さんに応援していただける病院づくりに励んでいきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　それで、町長にお願いしたいんですけども、町民も分からないと思うんですね、今、本当に病院どうなっていくんだ。いや、建てなければならない、いや、老朽化したらこうだと。実はこれ、１年前のこのように全体スケジュールで分かりやすく、最後は総務省までヒアリングに行くんだよと。もう、ほぼ決まったような、６年の１２月ですから、もう１年半以上前ですけども、ここまで出された。そして、新たに、本当に町長、町長の２期目の間にこのような、再度、もう一度スケジュールをつくるかどうか。やっぱり、私言いたいのは、このようなスケジュールがなかったら知らん間に時期ばっかりたつと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　いずれにしても、当然、大規模事業でもありますし、町の方向性を決めるものでありますので、しっかりとした財政も含めた形の中でやっていかないといけないという認識は、以前から当然のことのように思っておりますし、そこが変わるつもりはありません。事業実施に当たっては、やっぱり、そういう強い認識の中で進めていきたいというふうに思っております。ですから、今、日野郡の中でのお話をさせていただいたりしておりますので、その辺の方向性も含めてしっかりとした方向性を早期につくっていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　私は、１年、２年ほど前に計画の中で、隣の島根県の何とか病院だったかな、資料を持っとるんですけど、そこは延期すると。要するに、６０億、７０億の病院建築は無理だということになりました。その辺の状況を、私は以前に町長にも言っておりますが、同じような感じなんですね、日南町も５０億前後になっておりますが。貯金はいつまで続ける予定でしょうか。だから、今年度から新病院建てるために不足分は貯金を充てるということですけど、たしか7,０００万か8,０００万ということですが、いつまで、幾らが目標金額なんですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　もともと５０億っていうことで、昨今の物価高というところも含めてですが、皆さん方にも御承認いただきながら毎年5,０００万を積み立てていくっていう方向性を示させていただいておりますので、実際には、物価高っていう話はあると思いますけど、失礼しました、今5,０００万と言いましたけど、7,５００万でした。ですから、その辺の動きあたりも見ながらとは言いながら、天井っていうわけにはなりませんので、その辺はこれから病院と基本的な考え方を詰めていかないといけないっていうふうには思っておりますが、行政側としても、しっかりその目的にできるようにこれからも努力をしていきたいというふうに思っておりますし、多くの皆さんにも御理解いただければというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　町長やはり、今度、もう３期になります。ですから、具体的に、もう今７０歳いくと、ですから７４歳までなりますんで、言えば集大成をやるために、やっぱり数字とこのようなスケジュール感を持ってそれをやらないかんと駄目だと思うんですが、その辺は、１１月の選挙までにはつくっていただけないか、私の要望ですが、町民のために、町民もどうなのか、みんな、どうなった、どうなったと、いろいろ聞きますんでね。いろんな１６項目、もう分からないですよ、何したかどうか。それよりも、ほんまに町民のために、いうように３つでいいんですよ、まずは病院だと。さては林業だとか、そういうことを３つの柱ぐらいで具体的にされてはどうでしょうかと思うんですが、どうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　御意見いただきましてありがとうございました。分かりやすい形っていうのは、やっぱり大切なことだろうというふうに思っておりますし、また、病院の件につきましては、不安というところのお声も私も聞いておりますので、その辺はしっかりと心に留めて進めていきたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　そこで、通告はしてませんが、いろんな計画という段階で、私は、たまたま、たまたまじゃないですけど、昨日、東芝の方が１年間、日南町に出向的な形で１年間、昨日、委嘱状の交付式があったわけですけども、本当に計画プロジェクト、この中で、この病院について、それ以外のプロジェクトたくさんあると思うんですが、今の町長の思いは、この病院については、その方をアドバイザーに入れるか、入れないか、町長の今の思いを教えてください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　昨日もお話をさせていただきましたが、今進めておるプロジェクトっていうところがありますので、６つのプロジェクトっていうところがありますので、そういったところの伴走っていうところが基本にしていきたいというふうに思っておりますので、現時点で、病院のほうの考え方に、考え方いうか、事業推進に当たっての直接な担当っていうわけにはならないというふうに思っておりますが、いろんな口頭でのお話っていうのはあるのかなというふうには思っておりますので、数字的な話よりも企画立案みたいなところの中の、どういいましょうか、一つとしてお話ができるっていうことはあるかもしれませんが、直接的な担当的なところには位置づけるっていう考え方はありません。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　それと、またお願いをしたいんですが、病院にもお願いしたいんですけど、今、日南病院の建築はどうなってるんだと、よく私も聞くし、今こうなんだと言いますけど、１年目のときは、割と、アンケート結果こうでした、何が、あと、いろんな日南病院も広報されてました。もう、ほとんど今ないわけですね。何か

消えてしまったんかなというような感じがするんですが、その辺の町民の、途中経過でいいから経過はこうだよと、そして、ここを目指してるんだと、分かりやすいように何かしていただけないでしょうか。それでないと、町民はどうなっとんかなという方が結構おられます。それに対してどのように考えておられるか、広報という意味で。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　先ほど申しましたように、町民の皆さんの関心度は高い、一番高いという認識は、もちろん私どもとしても持っております。病院としても、やはり、日南病院だよりだとかっていう広報誌あたりも、しっかり状況っていうか、方向性についての、あるいは、こういう備品も買いましたみたいなところのＰＲも含めてしっかりされてるっていうふうに思っております。ただ、時期的には分かりませんが、おっしゃられたように、シンポジウム的なところは、また計画をしていきたいなというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　町長の出馬について、私の思い、願い、町民の皆さんも皆注目しておりますので、ぜひとも、できれば、つらいと思うんですが、やっぱりデジタル化、数値化して評価ができるように。よく、ほかの例を言ってはいけませんが、鳥取県平井知事は、割と点数で言われるわけですね、自分は９５点だったとか。そのように言うと、ああ、そうか、そこまで達成してるんかなと。やっぱり、先ほど１６項目言われたけども、言葉ばっかりでさっぱり分からんわけですね。やはり、次期選挙公報をつくられるならば、ある程度、大きな柱は３つぐらいにして、これを目指すんだと。自分の集大成だ、これだと、職員さんにも一致団結やっていくんだということをされたらどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　分かりやすいっていうところも大事なことだろうというふうに思っておりますし、評価の区分的には、数値化を出してるところもありますけど、ちょっと時間的なところもあったので省略させていただいたというところはありますけれども、しっかりとして２期目の公約に対しての評価っていうのは、個人としてもそうですし、そういうところはしっかり確認をさせていただきながら、次期に向けての方向性につなげていきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　じゃあ、出馬については、もう一旦これで終わりまして、次、モンゴルとの交流のほうに入っていきます。私は、大変びっくりというか、私にとっては、ああ、やっと町長は目覚めてくれたかなという感じを取りました。なぜかというと、介護人材は進展しないということをはっきりと言っていただきました、そのとおりです。前、３月議会でも言いました、町長は、いやあ、ボールは何ぼでも投げてるよと言うけども、向こうはグローブを持っていないわけですよ。結論から言いますと、や

っぱり進展が見込めないという、そのとおりだと思います。前から言っておりました。

ちょっと遡りますけど、その3月のゾーンモドのウェブ会議には、日南町側は何人、誰々、もしくは、ゾーンモドは誰々、参考に教えていただけませんか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　私のほうは、私と、それから担当課長のまちづくり創造課の課長と職員が加わっております、まち未来創造課の職員ですので、合計3人ということであります。あと、通訳的には県の方にお世話になっておりますし、また、ゾーンモド市のほうは、市長さんが主体的にお話しいただいて、その隣に職員さんがおられましたけど、全体がずっと見てるわけではないので、全体的には、市長さんとお話ししたということでありますので、職員さんが何人かはおられたということは承知しておりますけど、人数的なところにつきましては把握をしておりません。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　分かりました。通訳は県のモンゴルから来た方ですね、通訳された、分かりました。

そこで、モンゴルの市長ですけども、まだ一回も来たことないですね、市長されて。今まで市長は何回来られましたか、前市長から前々市長。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　現在の市長の前、お二人来ていただいたというふうに認識しております。現市長も行きたいというような、機会があれば行きたいという意向は聞いておりますが、ちょっと日程的なことも含めてですが、現時点では、どういいましょうか、具体的なものがあるということではないです。ただ、日本に、私のところに行きたいという意向というか、は確認をしておるとこであります。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　遡りますけども、モンゴルへ一番最初に行って覚書を作ったときは２０１８年、だから、8年、9年前になるわけですけども、まず、目的は何だったでしょうか、目的は。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　相互交流と友好関係強化、ともに発展することを目指すっていうことの覚書の内容と承知しております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　それは手段であって、目的は、外国人の人材なんです。それで、まずは文化交流からやりましょうと。そこを間違うておるんですよ。目的は人材だ。そして、モンゴルから女性が来ていただいて、約6年ぐらいになるんですね。それは、モンゴルの方が日本に来たときに、いろんな、生活面からいろんなことがあるから、日南町として国際交流員としておればいろんなフォローできるということでやっておるわけです。大きく変わったわけです。もう介護人材とか、それ以外も来ない、はっ

きり言って、もう見込みはないんであれば、もう、この文化交流、去年聞いたら、何もしなかったということですが、私は、大変、人の人生でございます。この６年間、本当に雇用であるとか、介護人材ということがあったんで、申し訳ないですけど、言い方は悪いかも分かりませんけど、本当にそういうやり方がいいのか、人の人生のためにも、逆に英断する時期が来たんじゃないかなと私は思うんですが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　人材っていう話は、主としてこちらの考え方だろうというふうに思ってますし、そういう提案もさせていただいてきた経過があるというふうに承知しておるとこであります。ただ、先ほど申し上げましたように、モンゴル国のほうの考え方っていうのは、先ほど紹介をさせていただいたとおりでありますので、とは言いながら、市長のほうも、やはり短期間就労っていうところが、現地のほうでは、現状では考え方だろうというふうに思っておりますが、市長のほうは、やはり、長期的なところっていう視点もある中で、そういったところで自国に帰って活躍していただくっていう在り方っていうのは、基本は持っておられるというふうに確認しております。ですから、すぐすぐっていうわけにはならないと思いますが、モンゴル国のゾーンモド市長も、やはり、そういう視点は残されてるっていうことと併せて、これからも勉強会をしていきたいという継続的な意向は確認しておりますので、長期的な視点になろうかなというふうには思っております。ただ、おっしゃられるように、現実的には、短期的には難しいという、私自身も思っております。ですから、違った部分の中でこれから進めていきたいというふうに、文化交流を中心になろうかなと思いますが、そういう視点の中でこれからの協議を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　私が１期目に行ったときに、ウランバートルです、ウランバートルで日本人学校、そして、二十何人と面接しました、いろんなディスカッションしました。日本も、家族連れで来られた方もおられました、日本に行きたいんだと。若者は５５％失業率だということで、ぜひとも行きたい、それはウランバートル。ゾーンモドは、そんな認知がないんです。ただ日本語学校で行って、いろんな本があり、そして、こういう取組やってるよっていうことが、日本はいいと、漫画を通じてね、いいと思うんですけども、町長自身がこの外国人の雇用とかいうシステムを御存じでしょうか。何が言いたいかいうと、３月も言いました、ゾーンモドには送り出し機関ありますかと言ったら、ないと言われました。そしたら、どこですかと、ウランバートルでしょうと。逆に、送り出し機関を先に決めないと、受入れ機関はどこがするんですか、町長。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　モンゴル国の、どういいましょうか、今の仕組みっていうのは、議員がおっしゃられたとおりだというふうに私も承知しておりますので。ただゾーンモドの場合は、市として、ゾーンモド市としての派遣というところを目指されてるという

ふうに認識しておりますので、ですから、もしそういうことがある程度整うならば、ウランバートルっていうところのもありますけれども、発展的なところにつながる可能性は残してるというふうに私は理解をしております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　町長、もうね、病院問題、いろんな頭を、知恵を出さないかんときに、モンゴル、モンゴルばっかりで、私の質問ばっかりで苦しまなくても、はっきりと、もうモンゴルについては1年ぐらい猶予与えてやめていったらどうでしょう。要するに、鳥取県のモンゴルの親善協会ありますけど、それに年1回か2回行くだけでしょう、町長。実際に米子の交流会にも、日南町は国際交流ほとんど来てないということ聞いております。そういう団体で、日野町も江府町もモンゴル協会入ってないわけです、入っておりますか。日野町も江府町も、この西部管内で、米子市も入れて。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的に、協会については、個人会員だろうというふうに認識しております。議員おっしゃられるように、冒頭申し上げましたように、当面につきましては文化交流というのを中心に、友好関係の維持と情報交換に努めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　えっ、モンゴル協会のあれは個人会員ですか。町からお金出しとるでしょう、予算で。

○町長（中村　英明君）　主体は個人です。

○議員（2番　大西　　保君）　それで町が出しとるんですか。

○町長（中村　英明君）　それは、私が出してる。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。町長、答弁してください。

　中村町長。

○町長（中村　英明君）　協会自体の、モンゴル協会自体の会員制度というのは、基本的には個人会員の集まりの会っていうふうに御理解いただければと思います。本町とすればいろんな経過の流れがありますので、町としては私のほうが出席をさせていただいておりますが、ですから、他町っていうところは、当然加入されておられません。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　モンゴル、モンゴルと言っちゃいけませんけども、私はですね、今回、町長のこのような答弁をされるっていうこと、はっきり言ってびっくりした。今まで何回言っても、いや、まだやる、鳥取城北通じてばっかり言われておりましたんで、進展したなと思っとるわけです。

　ちょっと、それで、私は、２０１８年の予算書のとこをちょっと調査してみますと、そのときには、モンゴルの卒業生を3名日本に来させるような予算もしておったんですよ。それは御存じでしたか、副町長時代です。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。
○町長（中村　英明君）　ちょっと今、現時点では記憶にありません。
○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。
○議員（２番　大西　　保君）　２０１８年の予算書を見ていただいたら分かります。そのときの私が代理で行ったわけですよ。２人、議員が行って、私は、帰ってきてから議会でも報告し、議員の皆さんも質問されたこともあります。そのときに、やはり、もしやるならばということで、やっぱり受入れ機関、それで、特に問題だったのは、日本の受入れ機関、一番最初はどこにしようかと思っとったこと御存じでしょうか。
○議長（山本　芳昭君）　中村町長。
○町長（中村　英明君）　ちょっと承知しておりません。
○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。
○議員（２番　大西　　保君）　ええ、副町長時代で御存じない。受入れ機関ですよ。前町長は、どこに依頼しようとしてたか御存じないですか、もう一度言います。よく分かってるんですよ、前町長はよく分かってるんですよ。日本の受入れ機関をつくらなければならないと。だから、それを聞いとるんですよ。それを分からずで、町長は２回もモンゴル行かれたんですか。
○議長（山本　芳昭君）　中村町長。
○町長（中村　英明君）　多分、境の機関だった、なのかなとは思ったりしますし、また、私のほうでは、今、城北のほうでっていうルートができないかっていう、私の段階でですよ。ですから、御質問のありました、当初の関係については、境港にもありましたので、そういったルートではなかったかなというふうには思っておりますが、間違いでしたでしょうか。
○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。
○議員（２番　大西　　保君）　町長、間違いです。町長がそのような認識だから、一番大事なのは、日本の受入れ会社つくらないかんわけです、システムとして、国が定めてあるんですよ。監理会社として、字は違いますよ、管理する管じゃなく、監督の監と、よく間違う方おられますけども。そこが大事で、以前は、いろんな就業で逃げたり、トラブル起きたりいうことで、その監理会社、そういった逃げた場合はもう、その監理会社はもう免許停止になるわけですよ。そのときは、前町長はそれよく分かっておられて、実は、日南町商工会にお願いしたわけですよ。日南町商工会は、これは大変だということで、境港は、缶詰工場から魚からいっぱい、今、すごい人数が来とるわけですよ。そこにある一番大きなモーレという監理会社、もう２人、それも２人の方が一緒に行ったんですよ。今現在の商工会長と一緒に、３人も。それは大変だ。それを知らずしてモンゴルで二度も行かれて、前回の答弁でも、ゾーンモドで送り出し機関ありますか言ったら、ない。何人日本に来てるんですか、分からん。その程度のレベルだから、私は本当に計画、町長は、ある程度、やれって言ったらそれでいいかも分からんけど、やっぱり

具体的に詰めていかないと、総論だけで、ああ、どうのこうの言うてるような私は感じするんですよ。このまま進めていくと、何年たってもできません。この８年間一人も来ないのに、早く見切り発車しないと、それよりも病院のほうにもっと全勢力を上げてやるんだと。実際、悩まなければ知恵が出ないという言葉あるんですよ。町長、本当に悩んでおられますか、病院で。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　悩むか悩まんかっていうよりも、当然の話だと思います。ですから、再三お話しになりますけど、モンゴルにつきましては、当面は文化交流っていうところで中心にしていきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　そうしましたら、昨年、小・中学校にモンゴルの何か、ウェブ会議とか、ウェブで、モンゴルの、一回見たことあるんですね、テレビで。そういうのをされましたか。以前は、米子の春日のほうにも出向いて行かれました。そのような活動をしておられますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　モンゴルから来られるっていう話の中で、日南町に来ていただいて、小・中学校の皆さんとの交流っていうところは当然あっておりますし、おととしになりますよね、ということでありますし、どういいましょうか、鳥取県の協会につきましては、昨年行かれたりとか、継続した交流っていうのを続けておられますので、そういったところは承知しておるとこであります。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　将来を見て、本当に今、ミャンマーからこれから多くの方が来られますということで、やはり、いろんな方、国から来られるのもいいかも分かりませんけども、もともとモンゴルは、全国から見たら、モンゴルはほかの県には行ってない、都道府県行ってないからということで、当初の町長はそう言われとったわけですよ。もう全くそれが実行されてないもんですから、本当にもうええかげんに判断して、ほかのほうに力を入れられたらいいんかなと、私の意見を言っておきます。もうそれ以上言っていけませんので。ただ、人の人生でございますんで、そこも十分考えてあげないと、おればいいんで、将来、これから、次の外国人のことを言いますけど、将来の学校問題からいろいろ出てきます。ちょっとそれは、もう一旦モンゴルについては終わります。

次に、あかねと病院の外国人の研修状況や生活環境についてお聞きします。

大変うれしかったのは、あかねのほうから、当然、議員全員にはがきが来たと思うんです。要するに、参観しますよ、ミャンマーの方が語学研修や実際の介護研修をやってる姿を見てくださいと。私、施設長に、大変うれしくなりまして、いいことをやっていただきました。なかなかこちらから出向いていくのは難しいなと思っとったところ、実

際に行きまして、見て安心しました。

町長、あかねのほうから何か来ておりませんでしたでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　御案内は、皆さん方と多分同じものだろうと思いますけど、来ております。私のほうはちょっと、この期間については出向くことはできませんでしたけど、担当課長のほうからの報告は受けております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　私は、ずっと見させていただいて、大変、私自身は安心したんですよ。ああ、これだったらよかったなという印象を持ちました。そのときに、我々は３日間のうち都合のいいときということでしたけど、３日間で何人視察あったか、福祉保健課は、いや、分かってなかったらいいですよ、もしつかんでれば教えてください、何名来られたんか。議員は、何名言うといろいろあるんで、人数だけで結構です。分かっておれば教えてください。

○議長（山本　芳昭君）　片岡課長。

○福祉保健課長（片岡　慎也君）　こちらの参観日というところにつきましては、私も参加させていただきましたけども、関係機関のほうに連絡をしておられるということは伺いましたが、具体的に、どこの機関から何人かということは承知しておりません。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　私も、施設長さんに聞いたわけです。こうやって一般的に、我々のように特定にはがきを頂いてよかったなと。事前に通告してください、はい、分かりましたいうことで、イの一番で申し込んだんですけど。そのときに聞いたのは、家族会はどうされましたかということをイの一番に聞いたんですよ。やっぱり家族会の方がどうなのか、一番僕は、我々よりも家族会の方が、いや、もう先にしましたと。ああ、それはよかったねということを私は言いました。実際にいろいろ研修してる姿を見、テキストも見させていただきました。そこで、研修風景を見たんですが、あかねはＮ検の検定をいつ受検するということを福祉保健課は聞いておられますか、今のミャンマーから４名来ておられますけど。

○議長（山本　芳昭君）　片岡課長。

○福祉保健課長（片岡　慎也君）　検定に向けての勉強も開始してるということは、参観のときにも教えていただきましたけども、いつというスケジュールにつきましては、すみません、聞いておりませんので、分かりません。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　病院はいつ検定を受ける予定にされてますか。

○議長（山本　芳昭君）　福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家　寿樹君）　病院につきましては、病院も今現在、Ｎ３の学習を行っており、近々は７月なんですけど、ちょっと早過ぎますので、次の１２月を目途に

勉学のほうをしております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　分かりました。あかねも１２月を目途に、Ｎ検を４、Ｎ４級をということを目標にされてます。そして、あかねのほうの方から最初説明あったのは、介護の介護福祉士の試験を目指すんだと。一応、そこで言われたんは、３年を目安にと、３年、４年、５年なるかも分かりませんけど、そのような方針を言われましたが、日南病院はどのような方向なんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家　寿樹君）　病院につきましても、やはり３年ないし４年をめどに学習のほうを進めていくということでやっております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　私は、やはり通常の技能実習いうのは、製造系であるとか、建設業だとかは、別にＮ４でもいいんですよ。しかしながら、介護にとっては、やっぱり言葉というのは物すごい重要なんで、専門用語も要る。Ｎ２でもなかなか介護福祉は取れない。Ｎ２から１に行くぐらいでないとと。ですが、今、安来におられる方は、今、たしかＮ２まで集中的に勉強されてますから、Ｎ２ですけど、この方たちは来年３月が卒業ですが、介護福祉士の資格を取れそうなんですか、取れそうではないんでしょうか。分かっておれば教えてください。

○議長（山本　芳昭君）　福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家　寿樹君）　２名の学生が今行ってるところで、成績は非常によくというふうに、成績表が年２回送られてきますので、これを見ますと、非常に期待は大きく膨らんでおるところでございます。ただ本当に、外国人の合格率というのは３割ですか、いうことで非常に難しいというところがございまして、予断は許さないんですが、やはり目標はもう合格というところを目指しておりますので、それに期待したいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　安来で今現在、今、２年生ですけど、２年生は今、全部で、安来で、１年生、２年生、何人おるんでしょうか。そのうち外国人は何人ですか。

○議長（山本　芳昭君）　福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家　寿樹君）　２年生が、すみません、ちょっと二十数名、ちょっとすみません、はっきりした数字は覚えてございません。ほとんどが外国人というふうに。１年生につきましては、もうほぼもう外国人が占めておりまして、３０人ぐらい来ておるというふうに伺っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　そのとおりです、私も調べました。日本人はほとんど行かないですね。だから、ＹＭＣＡも２年前にもう閉鎖したと、介護福祉士はですよ。理

学療法と作業療法は、まだ継続してやっておられます。

ちょっとこれ、話は飛びますけど、日本語学校、新しく事務部長が来られましたが、私は日南町の幹部職のスケジュールをいつも週初めに見るんですよ。そうしますと、たまたま5月２７日に事務部長が日本語学校へと書いてあったもんで、参考に、日本語学校はどこのほうに行かれたのかを教えてください。

○議長（山本　芳昭君）　中西事務部長。

○病院事務部長（中西　修一君）　行ったのではなくて、来てもらうということで、実はその日予定を空けておりました。実際は、日本語学校の学校自体ではなくて、そこからまた学生を採る看護学校の先生のほうと面談をしたということで、直接、日本語学校の学校の先生と協議をしたというわけでは、結果としてございませんでした。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　ちょっと参考に。せっかく事務部長さんが、奥出雲病院であるとか、島根県の、当然御存じだと思うんで、日南町のように福祉会と、福祉会というか、老人施設、それから病院、奥出雲周辺で何人ぐらい外国人の方来ておられますか、介護関係。アバウトで結構です。

○議長（山本　芳昭君）　中西事務部長。

○病院事務部長（中西　修一君）　確かな数字までは言いませんが、現在、奥出雲病院には、フィリピンから１４名の、来て勤務をしていただいております。それから、町内の介護施設に、フィリピン以外のところを含めて、１つの施設では２人、横田のほうの施設で２人は承知してますので、約２０名程度の外国人が介護・医療の現場で働いているというふうに承知しております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　情報ありがとうございました。そういったことで、何か難しいことが起きれば、ネットワーク通じて教えていただいて、日野病院も、日翔会とか、病院もありますけど、そういったところでしていただきたいなと。

そして、もう一つは、今回、あかねのほうに、ちょうど去年の３月のときに外国人材のＫＰＩ、５年間の数値のことであじゃこうじゃ言って、病院は何名、あかねは何名ということで、早速、あかねの場合は、３、４、４、４の１５、５年間で１５となりました。そして、寮がなかったら駄目だということで、寮を建築しようと。それで、秋頃にする、だから、秋頃を目指して日本に来てもらおうと思ったところが、もう早く、半年以上早く、当初よりも早く来られました。それで今、民間のアパートに今住んでおられますけど。私は、今回の参観の状況、施設長等とかいろいろ話しした中で、最初の１年間は大変苦しいんですよ、教える側も。でも、１年間教えれば、後は回っていくんです。私はね、今まで何十人以上外国人と接してきましたんで、教育からいろいろ。だから、最初は苦しいけども、後をちょっと回数を早くして、私の提案は、今、施設長、理事長さんにもお話ししたんですけど、３年間で１５部屋満タンできるように、例えば、

４、５、６で１５になるんですよ。そういうことを、町長とか福祉保健課を中心に、せっかく１５の部屋ができるわけですよ、３年間空室にするよりも、そのように三者協議とか四者協議で、やはり私、この参観を見て安心したんで、その辺はどうでしょう、町長。一応、三者協議で思いを密にしてされたらいかがと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　その必要性があるっていやあおかしいですが、基本的に福祉会については、日頃から意見交換だとかさせていただいてるっていうふうに認識しておりますので、そういった、計画変更じゃないですけど、そういうところの思いがあるようでしたら、それはこれからの意見交換の場で共有をしていきたいというふうに考えます。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　こういうことは言ってはいけませんけども、私はなぜ３年間で満タンにしなければならないかと言いますと、これから、今、現時点でもそうですけど、２年間同じ場所を就業したら、３年目は別のとこ行ってもいいことになっとんですよ。極端なこと言いますよ。いろんな情報がこれから入ってきます、携帯を持っとるから。我々も去年、東京へ視察に行きました。もう情報は氾濫しております。給料がいいところ、いろんなとこありますんで、そうなると、極端なこと言ったら、保険とはいいませんけど、ある程度満タンにしといて、補充していく、補充していくぐらいには考え持っとかないと、全ての皆さんが永住するわけじゃなし、ずっとおるわけないんで、そういうことを言っておるんですが、その辺はどうでしょう、私の意見は。早く１５人満タンすべきだと思うんですが、協議をすると言われましたけど。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　一つの在り方というふうに理解しましたので。ただ、国家試験を取るには３年実績というところもありますので、そういったところもかみ合わせながら、多分、現場の皆さんでは計画を当初つくられたというふうに思っておりますので。その辺の多様な考え方の中で再構築っていう必要性があるなら、その内容は協議をしていきたいというふうに考えます。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　先ほど、介護の合格率は３割と事業管理者言われた、そのとおりなんで。本当に皆さんが、要するに、５年がマックスですね、もし取れなかった場合は帰らなきゃならないということになります。そういうこともあるので、それは、やっぱり町が外国人雇用プロジェクトという名の下でやっておるんで、もう一度言います、プロジェクトリーダーは、この外国人は、誰もいないんですか。町長がプロジェクトリーダーですか。もう一度確認します。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　外国人材のものについては、チームという形ではなくて、事業的な推進というところでありますので、トップとか、そういう役割っていうのは設けて

ないということであります。ですから、全体から言えば、最終的に言えば私になるのかもしれませんが、という、ですから、チームということではないということで御理解いただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　というように、やっと、やっとですね、8年ぶりにこのように、実際にミャンマー、それからフィリピンから介護の人材が来て、本当に日南町に、患者さんや施設を利用される方喜ばれるということでいいことだと思うんで、していただきたいと思います。

参考に、つい最近ですけど、新聞に、1週間前ですか、1週間たってませんが、永住という言葉があります。永住許可、これは、今年度中に幾らになるか御存じでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　手数料。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっと承知しておりません。ちょっと勉強不足かもしれませんが、ということです。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　これはもうどこの新聞も出ております。２０２６年度中に適用するということで、今まで永住許可は1万円だったのが２０万円、上限は３０万円、そこまで上げるわけです。なおかつ、在留資格の変更、今までは6,０００円だったものを、1年たつと3万、3年で6万、7万、このように、日本の入国管理局も値を上げていきます。そのときの、いろいろありますけど。言いたいのは、このようないろんな外国人の関係でどんどん情報が変わってきますんで、常日頃、やっぱり情報を取っていただきたい。注意を払っていただきたいことは言っておきます。

次に、最後のとこで、町内の事業者向けに5月にアンケートを取られたということですが、何社に対してアンケートを取られたんですか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　本アンケートにつきましては、商工会からの配付をいたしました。手法としましては、商工会の会報とともに配付をしております。したがいまして、商工会員の約百三十数社にお送りをさせていただいております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　実は、事業者向けの外国人人材の、今まで日南町で、商工会いろいろ、建設業もありますけども、そのような会合を町として持たれたことありますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ありません。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　町長、御存じでない、残念です。もう担当の課長さんも

おられないんであれですけど。実は、私たちが最初にモンゴルに行って、その後、名古屋のモンゴル人の受入れ担当者が、責任者が、防災会議室で、こういう人材のこういう手続がこうですよということで、町内事業者集めて、すごい人数だったそうですよ、防災会議室が。そのデータはないんでしょうか。今ないと、ないというか、してないと言われましたけど、本当に、担当代われば分からないんですか。モンゴル、名古屋ですよ、もう具体的に名古屋、男性が来てるんですよ。手続はこうするんですよ、向こうから出る場合こうですよ、日本の受入れはこうですよ。もうそこまで具体的に言って、それは日本の、日南町の事業者は、うち3人、いや2人、もう建設業からいっぱいおられたんですよ、それを聞いてます。ただ、私は同席してないんで分からないです。それを知らないということはどういうことでしょう。後で結構ですから、もう一度、その事業所なり、もうここはいいですから、担当の方はまだ、今は、現時点ではあるところの課長さんされてるんで、調べて、もうそういうことも、町長はモンゴル、モンゴル言われるけども、モンゴルの受入れ機関が来られたんですよ、名古屋からわざわざ、どうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ごめんなさい、ちょっと最初の質問のときの意図が、私のほうがちょっと勘違いしておりまして。要は、来られてる皆さんの集まりの会が何回あったかみたいなところでちょっと受け取ったもんで、大変申し訳ありませんでした。

町と、それこそ町内企業の皆さんについては、以前あったというのは私も承知しております。それは承知しておりますけど、ちょっと勘違いしました。申し訳ないです。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　それで、今回は総務課を通じて商工会に、いうたら投げたわけですね。アンケート取ってください。町はどのような支援をするんですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　投げたというよりも、幅広く会社の皆さんに意見を、希望を取りまとめるっていう話でありますので、ちょっと、これから取りまとめという時期になりますので、そういった内容を精査しながら、個別な対応っていいましょうか、そういう方向になるのかなと思って、それこそ、多数っていうわけではなさそうだろうと思っておりますけれども。要は、個別的な対応をこれから商工会と一緒になってやっていくっていう考え方を持っております。

○議長（山本　芳昭君）　2番、大西保議員。

○議員（2番　大西　　保君）　私はもう、あまりにも遅過ぎて、8年前にやろうとしたことを、確かに途中でコロナがありましたけど、それは言い訳ですよ。それで、商工会で、現在の商工会長は2回もモンゴルに行っとるんですよ。そして、民間の事業者と公設民営の方の理事長さんも2年前にモンゴル行っとるわけですよ。それ以外のところは、だから現時点で、日南町の事業者で、何事業者で、何人外国人が働いておられるんですか、それぐらい分かっておるでしょうね。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　今把握してるのは、最近の５月２８日現在にしておりますけど、３６人の方がおられるというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　３６人で、何事業者でしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　事業者か、えっと７、例えば町も入ってますので、例えば事業者っていう、一般的に捉えられる営利企業的な企業っていうところでいくと、林業関係の製造業だとか建設業だとか、それから農業にも来ていただいておりますし、どういいましょうか、先ほどありましたように医療機関だとか、福祉会だとかっていうところも、そういった分野の中で来ていただいておりますし、また、本町の中でも職員として働いておられたりとか、そういったところを合わせて、先ほど申し上げました３６人の方が今就労になっていただいているっていうふうに把握をしております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　そこで日南町は、だから、どのような支援をするんですか、事業者に対して、もし希望したら。うち３人欲しいんだといった場合はどうするんですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　今までの仕組みっていうところもありますので、そういったところは参考にしていきたいというふうに思っておりますし、また、寮の整備費あたりの補助もつくっておりますので、そういったところに活用をしていただければというふうには思っておりますが、ただ、いずれにしても、内容のまずは整理をしていきたい、人数的なことも含めてです。その辺を、まず一歩を踏み出したいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　もう本当に、日南町の仕組み、やり方がもう本当にまずいんで、十分な計画をしていただきたい。何でかというと、８年前に、日南町が指定する受入れ監理会社でないと補助は出さないよと言っておったわけですよ、前町長が。要するに、そうでないと、もうあっちこっちの事業者がおって、そこの補助を全部お金出さないかんかというようになるので、そのときは、あくまでターゲットはモンゴルだったんで、モンゴル、そして受入れ機関が、日南町が指定した受入れ機関以外は補助はしないとなっておるわけです。今じゃあ日南病院もあかねも別々です。同じような仕事です、別々、ばらばらです。どこもプロジェクトって言いながら全然音頭が取ってない、ばらばらです。だから、こういったことも本当に無駄な仕事をしとるわけですよ。どっか一本化して、全て、日南町の介護人材とか、介護だけではない、いろんな外国人就労、町内で困ってるところについて把握しないと、誰がするんだと。プロジェクトリーダー

も決まってない。だから、本当にこれから、いわゆる縦割りばっかりで、横のつながりをもっと持って、それこそ、今度東芝から来られた方がおられます。どのように予告し、どうしたらいいか。人材育成も担当されてきたそうですんで、その辺を、英知をするべきだと思うんですが。もう一度、この２年前に鳥取城北の雇用プロジェクトやられて、鳥取城北がまたやるんですか。これだけじゃ、もうやめたらどうでしょうか。もうこんだけ無駄なことばっかりやっとるって、私、２年前に言いました。鳥取城北の営利企業がやって、３年、４年先にやっと事業所へ、病院に来るようなことでは駄目だと言っておりましたんで、その辺はもうちょっと真剣に考えていただけないでしょうか。もう他人任せのような発言だと思うんですが、いかがでしょう、思いを言ってください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　城北につきましては、これから、今後あるかどうかっていうのは分かりませんけれども、その辺は現状ではなかなか難しいという判断はしておりますが、いずれにしても、町内の中で人手不足っていうところが主体的になりますので、それをどういう形でカバーしていくかっていうことだろうというふうに思っておりますので、やっぱり必要があれば、実績っていうところをこれからつくってあげて、生産活動に寄与できるっていう形を取りたいというふうに思っております。ですから、その辺の全体的な整理が必要っていうのはあろうかなっていうふうには考えておりますけれども、最終目的はそこだろうというふうに思ってますので、環境的なことの整備も含めてですが、整理をこれからもしていきたいと思っております。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　この町内事業者の支援については、全く予算のときは出ておりませんでしたので、全協なり、総務常任委員会ですね、説明していただいて、アンケート結果、大変それを質問したいなと思ってますんで、その辺をお願いできませんでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　当然、その辺の報告等、方向性等は報告をしていきたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　２番、大西保議員。

○議員（２番　大西　　保君）　では、町長の出馬ということがメインだったもんで、これから実のある方針を、公約をつくってください。

以上で終わります。

○議長（山本　芳昭君）　以上で大西保議員の一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　ここで暫時休憩といたします。再開を１１時５分からといたします。

午前１０時４７分休憩

午前１１時０４分再開

○議長（山本　芳昭君）　休憩前に引き続き一般質問を行います。

３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　年齢とともに日南町の魅力が分かるようになってきました。町内には隠れた魅力がまだまだあるように思います。不二家のミルキーによって日南町が少し認知されるようになったかもしれません。引き続き魅力発信をしていくべきと考えます。

６月定例会で３つの質問をさせていただきます。

まず、英語教育について。本町の特筆する海外派遣事業も、成果は出ているものの、ケロッグミドルスクールとの姉妹校提携は永年の課題であるが、進捗はどうか伺います。

アメリカ・シアトルに固執せず、イギリス、オーストラリア、カナダ等の国も検討するべきと考えるが、見解を伺います。

次に、この自然豊かな日野郡のサイクルツーリズムについて。日野郡サイクリングルートの狙いは何か、伺います。電動アシストバイクも導入されていますが、利用状況を伺います。今後の取組を伺います。

２０２６年４月、道路交通法改正により、交通ルールなどの安全面について伺います。

そして、役場交流ホールのモニター活用について。モニターの役割をどのように考えているか伺います。利用状況及び活用を伺います。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　櫃田洋一議員の御質問にお答えします。

最初の、英語教育ということの御質問ですけど、後ほど教育長のほうから答弁をいたします。

２つ目のサイクルツーリズムについてということで、日野郡サイクリングルートの狙いについてという御質問でございますが、本ルートですが、現在、ナショナルサイクルルートの指定を目指している鳥取うみなみロードや、国内有数のサイクリングルートであります、聖地、しまなみ海道などを走行するサイクリストの皆さんを日野郡へ呼び込み、郡内を自転車で周遊していただいて、交流人口の拡大と地域のにぎわいの創出のほうにつなげることを主な狙いとしております。

次に、電動アシストバイクの利用状況という御質問でございますが、山里Ｌｏａｄにちなんのほうが実施しております電動アシストバイクの利用状況につきましてですが、令和７年度は１７９件、前年度から４２件増加しており、年を追うごとに着実に利用が伸びてる状況であります。特に、令和７年度に大きく伸びた要因としましては、「駅メモ！」コラボキャンペーンの実施によりまして、ＪＲを利用して県外から来町する観光

客が増加したことが背景にあると思っております。

次に、今後の取組についての御質問ですが、本町としましては、大きく２つの方向で進めてまいりたいと考えております。

１つ目ですが、ＪＲで来町された方の観光二次交通としてのレンタルサイクル事業の一層の推進でございます。本年秋には、大人気の「駅メモ！」企画の第二弾としまして、生山ほたるとイチョウイベントとタイアップし、レンタサイクルのさらなる活用促進をしてまいりたいと考えております。

２つ目は、広域連携によりますサイクリストの誘致であります。本年の１１月には、日野郡３町が連携をしまして、サイクルイベントを実施する予定としております。この取組を通じて、日野郡のサイクリングルートの魅力を売り込んでいきたいと思います。また、鳥取うみなみロードが国のナショナルサイクルルートに認定された暁には、県とも連携をしまして、うみなみロードと日野郡のルートの両方を走行していただく広域的なサイクルイベントの実施について検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、交通ルールなどの安全面についてという御質問でございますが、法改正によりまして、自転車利用者の安全確保の重要性が一層高まっている中で、自治体にも交通ルールの周知や安全啓発にしっかりと取り組むことが求められているというふうに認識しております。まず、町としましては、広報誌やホームページ、必要に応じてチラシ、掲示物等を通じて、自転車の交通ルールやヘルメット着用の努力義務などについて周知を図るとともに、安全に走行しやすい道路環境の整備にも努めてまいりたいと考えております。あわせて、今回の改正によりまして、努力義務ではありますが、レンタサイクル事業者には、利用者へのルールの周知、あるいは、安全指導に取り組むことが新たに求められております。これを踏まえ、山里Ｌｏａｄにちなんにおきましても、貸出しのときに交通ルールの遵守、あるいは、新たな罰則内容なども利用者へ説明するなど、事業者としての周知徹底と安全確保のほうに取り組んでいるところであります。

次に、役場交流ホールのモニター活用というテーマでございますが、モニターの役割についてという御質問です。モニターは、情報を視覚的に提供することが可能であり、文字情報だけでは伝わりにくい内容も直感的に理解ができ、幅広い世代への情報浸透を助けるもの、住民への行政情報の発信において極めて重要な役割を果たすものと考えております。

２つ目の利用状況、活用についてという御質問でございますが、交流ホールのモニターは、交流ホールを使用するときに活用しております。式典などを行うときには、国旗や町旗を映したり、会議の名前や来町された企業の情報を表示して使っております。交流ホールが使われてないときには、町内の会議案内、あるいは議会放送の視聴など、来庁者向けの広報の情報板として活用をしております。また、災害時には、災害対策本部の情報収集や対策協議で視覚的な情報共有手段としての活用をしておるところでございます。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

１点目の英語教育につきましての御質問は、教育長のほうから答弁をいたします。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　櫃田洋一議員の御質問にお答えいたします。

まず最初に、１、英語教育について。①ケロッグミドルスクールとの姉妹校提携の進捗についての御質問ですが、夏の交流の際、あるいは、３月の訪米の際を含めて、担当者同士では姉妹校の提携に向けて話をしておりますが、代表者同士による協議については実現しておりません。現在は、ケロッグミドルスクール１校との交流となりましたので、姉妹校提携については、以前よりも実現の可能性が向上しているのではないかと考えておりますが、今年の夏の交流の際にも、実務者協議が実現するようこちらから働きかけていこうと考えております。今後は、派遣交流だけでなくウェブ交流等を充実させ、お互いにとってメリットになるような交流の在り方について相談と交渉をしていきたいと考えております。

次に、イギリス、オーストラリア、カナダ等の国も検討するべきとの質問ですが、これまで本町では、１１年にわたりアメリカ・シアトルとの交流を継続してまいりました。現在のように、ケロッグミドルスクール日本語クラス１校での交流となったのは、まだ４年であります。同校の日本語クラスとの交流におきましては、日南町での受入れや現地での交流を通じて、相互理解の深化や、国際感覚の醸成といった教育的効果が着実に現れており、本町を訪れることを楽しみにしている生徒さんも多く、これまでの積み重ねが具体的な成果として表れ始めているところであります。

御提案のありました他国との交流につきましては、多様な国際経験の機会を広げる観点から、重要な御指摘であると認識しております。一方で、限られた人的、財政的資源の中で事業効果を最大化するためには、まず、現在の交流をより充実、深化させることが重要であると考えております。このため、現時点において、新たな派遣先の拡大は予定しておりませんが、ケロッグミドルスクール日本語クラスとの交流の質を一層高め、双方の児童生徒にとって実効性のある国際理解教育となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　この姉妹校提携について、明確な返事をいただいていないということなんですけども、それは、もう少し詳しく、実務者協議が進んでないということもそうでしょうけども、もう少し詳しく説明をいただけますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　先ほども言いましたが、先に、シアトルの公立の中学校、ミドルスクールの日本語クラス、第２外国語を日本語にしているっていうクラスが、ケロ

ッグだけじゃなくってたくさんあったわけですね。まとまってそこが日本に来てたというところであります。ですから、なかなか姉妹校というところまでは話が出なかったんですが、私、教育長になってから、向こうのほうから姉妹校の話っていうのがちらっと出てきました。これはというふうな思いで話を進めてきたのが現状です。ですから、まだ4年ということで、話をうちも聞き、そして、どうですかねっていう話は、実務者では話をしてるんですが、その上ですね、代表者、校長先生、あるいは、地元の教育委員会、そういったところまでそういう話が行っていないというところっていうのが一つ大きな原因ではないかなというふうな思いはありますので、このたび、また6月後半に来ますので、そういった話もしていきたいなというふうに思っておるところです。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　日南町から派遣事業で行ってホームステイしたり、そのケロッグミドルスクールの生徒、子供たちっていうんですか、と交流してるので、日本語クラスのほうが英語プラス日本語で話ができるのでコミュニケーションしやすい部分はありますけども、逆に言うと、日本語クラスでなくても、英語で少し学んで、行って、現地で、片言でもいいです、これが欲しい、あれが欲しい、これは幾らですかという、片言で一生懸命コミュニケーション取るのもすごく意味があると思うんですね。ですから、ケロッグミドルスクールに限る必要はないんじゃないかなというのもあるんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　確かにそういう御意見、大事だなというふうなことも思います。ですが、これ、私の個人的な部分もありますし、そういうふうな形で進めていこうというふうには思っているんですが、まだまだケロッグミドルスクールの日本語クラスの生徒さんが、例えば、日南町に来て、こんなことの勉強がしたいとか、あるいは、それが事前に分かるとか、そういったことが、ここに来て日南中学校の子供たちが説明をしてあげられる、そういうふうなことっていう、もっともっとこう充実した、あるいは、本町の子供が3月にシアトルに行ったときに、アメリカのこと、特にこういうことについて勉強がしたいだというふうなことを事前にお伝えしといて、向こうの生徒さんにいろいろと説明を伺うというふうなことでの交流っていうふうなものっていうのをもっともっとしていきたいなという思いで、今年もそういう話をしていこうかなというふうなことを思っておるところです。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　ケロッグミドルスクールからは、４０名ぐらいの大所帯が来られて、それで、日南町のホームステイは１０人ぐらいですか、なかなかホームステイ先も見つからなくて苦労されている状況もあります。そうすると、例えばその一行を、日南邑であるとか、やはり、ある半分は松江、そのうちの3分の1が日南町というよりも、それはそれで意味もあるかもしれませんが、1か所でやっぱり日南町来てもら

って、それのほうが、先ほど教育長が言われた日南町の魅力、こういうところがある、一緒に動いて、日南町の魅力たくさんあります、蛍の時期でもあります、あとは聖滝、ある程度安全面を確保する必要はありますが、それもやっぱりちょっと考えていく必要はあるんじゃないでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　私が言いたいのは、日南町のよさをっていう部分じゃなくて、日本語クラスで勉強をしていて、日本のこんなことが知りたいよとか、こういう、日本ではどういうふうに、どう言やあいいでしょうかね、生活していますかっていうようなことっていうのもあるんではないかなというふうに思うんです。そういう疑問を出してもらいながら、そういうのが、両方が交流するっていうことっていうのは、この現場に、現場といいますか、この現地に来て話もできるでしょうし、日々の授業の中でそういったもので提供してあげるっていうふうなことっていうのもできると思うんですね。そういう、やっぱり交流をしていきたいなという思いがあってのお話です。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　そうしますと、先ほど、教育長来られてから4年というふうに言われましたけども、お互いのネックになっている部分っていうのは、これは何なんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　先ほども言いましたが、校長先生だとか、教育委員会とのやっぱり、まだその上までお話が行っていないというのが大きいではないかなというふうには思っています。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　では、お互いのメリット、ウィン・ウィンの関係というのはどういうことでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　先ほども言ったように、やっぱり、どちらも英語、あるいは日本語で話をするっていうことっていう、その相手国の言葉で話ができるっていうのも、一つは両方とのメリットでもあるというふうに思いますし、自分たちが日々勉強してること、日本側でいうと、日南町でいえば、アメリカの国のことについてもっともっと知りたいこと、あるいは、シアトルのこんなことっていうのを知りたい、あるいは、英語についてこんなふうなことっていうのは、ちょっと事例としてあまり出てきませんけれども、そういう知りたいようなことっていうのが、やはり日々考えて、あるいは、自分が分からない、あるいは、アメリカのほうの子供たちにこういうふうな質問したらいいんじゃないかっていうふうなことを、やっぱり日々の中で考えていって、それが実行できるような形っていうのが一番いいんじゃないかな、ウィン・ウィンだというふうには思います。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　3月の予算審査のときか、あるいは、何かの委員会か、全員協議会か、私ちょっといろいろなものを見るんですけど、議事録にはちょっと載ってないんですけど、ただ、教育委員会の方が、令和8年度の予算として、帯同職員、今までは4名だったのを、これを5名にしたいと。それは、確かに予算書載ってるんですよ、5名で。それは、姉妹校提携を含めた人なので、1名増員したいと、予算書には確かに5名、生徒10名って書いてあるんですね。ただ、議事録には、議事録を調べたんですけど、ないんですけど、これは、だから、令和8年度、だから、令和9年の3月には、本当にもう提携しようと思いであるんだなという、感じるんですが、それはどうなんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　言われたように、5名じゃなくて4名、3人しか、令和8年度、この春のときには行きませんでしたので、3人に4人もついていくのかっていう部分があったので、それについては、先ほども櫃田議員おっしゃったように、締結に向けての話が向こうででもできればなというふうな思いで行かせたというところがありますが、なかなかそこまではいかなかったというのが正直なところであります。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　おっしゃるとおり、学生というか、生徒が3人なので、5人、ただ、これは令和8年度の予算書なんですね。だから、そうなのかなというふうに思ったんですけども。それで、3次募集をしてやっと3名ですよ。その説明の中には、今まである程度の生徒がもう行ったから、既にほとんどの生徒は行ったから、3月は3名しかなかったんだよ。でも、3次募集をしてやっと3名ですよ。そうすると、この事業自体も少し見直す必要もあるんじゃないでしょうか。それはどう思われますか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　櫃田議員言われるように、今の2年、3年生は、約半分は行っております。それで、昨年度の2年、3年生は、約5割を超える子供たちがシアトルに行っております。今の2年生ですね、昨年度の1年生が手を挙げてくれたというところであります。なかなか、3年生になると卒業、あるいは受験のこともありますので、なかなか難しいという部分があるので、1年生、2年生をというふうな思いであったんですけども、なかなか手が挙がらなかったと。ですけれども、3名が手を挙げてくれたということで、我々もほっとした部分があるんですが。なかなか、今からではやはり、櫃田議員がさっきおっしゃったように、難しい部分も出てきたなというふうな思いはあります。ですから、その点は、もう少しやっぱり慎重に考えていかなきゃいけない部分だなというふうなことも思っています。

　他の市町村も、今どんどんとこういう海外のほうの派遣に前向きな態度を取っておられる、西部地区でもほとんどのところが行かせたいという思いで、日南町のほうに、教

育委員会のほうに電話もかかってきます。そういった部分でなかなか、よそはパイが大きいですのでそういう部分があるんですけども、そういう行きたい子供をやっぱりつくっていかなきゃいけないなというふうな思いではあります。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　時期も春休みの3月、ちょっと寒い時期ですよね、よりも、やはり夏、夏休みの8月、それはケロッグミドルスクールのほうが夏休みということで、9月から新学期が始まるので、その前っていうので学校は無理かもしれませんが、ホームステイはより可能であり、より多くのホストファミリーとどこか観光地へ行ったりすることもできるので、8月のをやはり考えていく必要はあるんじゃないでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　そういったことも教育委員会の中では話し合っておるところです。期日もそうですし、なかなか今、日本からシアトルに行くのに、終業式を終わらないうちに行くとか、あるいは今年みたいに小学生は卒業式の日に出発というふうなことで、小学生が二の足を踏んだという部分もあるんですが、そういったことっていうのがこれから起こりますので、今言われる時期のことも検討していく必要があるなというふうには思っています。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　別に生徒は修了式、終業式が終わらなくても、やはり休みであれば行きたいのはあったりするんじゃないでしょうか。それで、今現在はワシントン州シアトルですが、以前、一番最初のカリフォルニア州スコッツバレーとの派遣のときに、これはやっぱり夏に行ってますよね。姉妹校、これは姉妹校ではなくて姉妹都市提携をしてます。なので、やっぱりそこも見ながらやっていただきたいし、令和2年に教育長は、姉妹校提携と国際交流を積極に取り組む子供たちを育てたいというふうにおっしゃってて、私、令和3年、5年前に姉妹校提携の質問をさせていただいたけど、まだこの状況なんですよ。もう少し、何ていうかな、確かに相手があって交渉事だから難しい部分はありますけども、もうケロッグミドルスクールとやっぱりやっていきたいんだけども、そうでなければ違う方向性も考えてもいいんじゃないか、先ほどもケロッグミドルスクールに限るよと、これだけやってきてるんだから、ウィン・ウィンでやっていきたいというふうにおっしゃいましたけど、やっぱり違う方向も見てもいいんじゃないでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　そういう御意図も分かるんですが、私としては、先ほども言ったようにケロッグミドルスクールに固執したいといいますか、そこともっともっと仲よくしたいと。急いで提携を結ばなくっても、交流がウィン・ウィンになれば、そういう部分ではいいんじゃないかなというふうな思いではあります。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　では、継続は力なりということですね。現在、ＣＩＲがイギリス出身、イギリス人です。そうすると、留学先もやはりアメリカに限らず、留学ではないですけども、留学先として人気があるのがやっぱりカナダ、オーストラリア、それから、イギリスはそんなにでもないけど、確かにきれいな英語、ブリティッシュイングリッシュできれいですよね、イギリスの英語は。なので、私も知り合いの方が、お子さんがカナダに留学されて、奥さんがカナダに娘がいるのでカナダに移住しちゃったっていう件もあるので、やはりその辺も検討していくべきじゃないかなと考えますが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　それも一つの案としてお聞きして、話合いはしたいなというふうには思いますが、今のところ、私が先ほどから言ってるようなことっていうのが先行しているというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　先日、教育委員会主催の「イギリス英語の慣用語と俗語を学ぼう！」、非常にいい講義でした。その中でＣＩＲの先生が、やっぱりイギリスでも地域によって方言があったりするので、バイトをしてても分からなかったという言葉もありました。なので、やはり先ほど言われたように現地に行って、それはアメリカもシアトルなのかもしれませんが、やっぱり現地に行って直接会話、オンラインもありますけどもやっぱり直接会話で肌で感じる、言葉が通じなければ自分の英語がなぜ通じないのかっていうのは、感じるだろうし、かなと思います。分かりました、これは。

　一つ、ＣＩＲがこのまま継続というか延長されるのか新たな方が来られるか分かりませんけども、ＣＩＲと行くイギリスツアーっていうのも、ちょっとひとつ検討されてはどうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　青戸教育長。

○教育長（青戸　晶彦君）　それについてもちょっと検討の材料かなというふうなことは思いますが、資金のこともありますので、アメリカよりはもっと高くなるんかなというふうなことも思いますし、その辺は検討の余地があるかなというふうなことだけで、ちょっと今のところはそういう手を広げるっていうところまでは考えていないというところであります。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　では、サイクルツーリズムについて質問します。

　狙いは交流人口の拡大と地域のにぎわいの創出ということですが、達成度はいかほどでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　達成度というのは目標という意味ですか、それとも現状のっていう趣旨ですかね。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　質問が悪くてすみません。特に何％、何割ということではなくて、例えばある目標があったらそれに対してどれぐらい、山でいうと何合目ぐらいで、もう少し先に何か目標があるよという、アバウトな感じでちょっとお聞きしたかったんですが。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　法律上の流れも含めてですが、日野郡の3町の連携会議ということで、２５年の3月ですので、昨年の3月に日野郡の自転車活用推進計画というのをつくっております。その後、そういった背景も含めたり、あるいは、今は最近、米子空港のほうに台湾便だとかソウル便だとかもできておりますので、そういったところの中で日野川だとかたたらだとか自然風景だとか、そういった日野郡特有の景観がありますので、そういったところにサイクリングのほうの事業を進めていきたいというのが目標になっております。具体的な数字っていうところではありませんが、それこそ昨年の秋に台湾の方が来ていただくっていうことでツアーを組んでいただいてお越しいただいたんです、２０人ぐらいだったと思いますが。ただ、当日、大雨だったということでやむなく中止しましたけれども、今年度もそういった取組をこれからしていきたいというふうに思っておりますので、広く外国の方も含めてですが、周辺地域の皆さんの自転車活用っていうか、サイクリングの魅力をこれからもつくっていければなというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　台湾は大きな自転車メーカー、ジャイアントというのがあるんですが、こういうサイクルを目指すところが全国の市町村の中で受入れをしてたりしてるので、やはり台湾との交流というんですが、そういうのは進めていただければと思いますが、電動アシストバイクの利用が１７９件ということですが、これはどのような利用の仕方で、どんな利用でどのような利用、先ほど町長、これからはやっぱり生山駅でそこからというお話もありましたが、この現在というか過去の１７９件はどのような利用だったのでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　課長を指名してもらったほうがいいじゃないの。町長、課長を指名して。

　中村町長。

○町長（中村　英明君）　担当課長のほうから報告をさせます。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　昨年度の実績ベースでいきますと、御承知のとおり本年に入りまして、令和8年に入ってからですが、2月からの駅メモ！という、今、生山駅のコラボイベントを行っております。１７９件のうち、2月で３４台、3月には５０台強と、おおよそ半数近くがその二月で利用されてるというようなことから、二次

交通としては、３０代から５０代半ばの男性が中心というような分析でございますが、大半がこの駅メモ！で利用されております。その他としましては、周辺の道の駅でしたり石霞渓でしたり、そういったところの周遊が主であるというふうに承知してございます。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　この１７９件というのはどのように捉えますか、多いのか少ないのか、まだまだ伸び代があるのか、それともともうある程度、先ほどのコラボがあるので秋にはもう少し増えるんでしょうけど、これはどのように分析されますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　先ほど申し上げましたような件数の内容については、特定の目的っていうか、駅メモ！でとか、それから、冒頭申し上げましたようにこれから第二弾の計画もあったり、イチョウのときっていうところもありますので、ある程度やっぱり来られる皆さんも目的を持って来られるということだというふうに思っておりますので、それに応じての増減はあるのかなというふうに、それが、どういいましょうか、借りていただけるような観光地的なところも皆さんがお越しいただけるっていうところだと思いますので、どおんと上がるとかっていう話ではないと思いますけど、そういったイベントをこれからも魅力あるイベントみたいなところを使っていければ、利用者のほうも増えていくんだろうなというふうには思っておるところであります。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　先ほどのサイクリストの誘致ということですが、どういった方をどのようにいつ頃、何か計画があればお聞きしたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　まだこれから再構築も含めてしていかないといけないというふうには思っておりますので、鳥取県自体も御承知のとおり認証的なところもこれから受けられるっていう動きの中で進めておられますので、そういったところがあれば、かなって実際に来られる皆さんが増えていければ、その中で今度は日野郡ルートみたいなところに、どういいましょうか、足を延ばしていただくような形は取れていければなというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　では、まだどういう方をお呼びするのかっていうのは決まってないということだと思いますが、１１月のサイクリングイベント、これがもしある程度お聞きできればちょっと教えてください。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　昨年計画した内容と基本的には同じだろうというふうに思っておりますので、先ほども言いましたように昨年は雨で中止という形になってしまったので、改めてっていやあおかしいですが、再度こういった取組をしていきたいというふう

に思っております。日野郡連携の中で構築をしていきたいと思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　道路交通法改正ですが、3月、4月は新聞、テレビ等々で目にする機会も多かったんですが、現在あまり目にしないんですが、これは周知、啓発はどのように行っていかれますか。やられるのかやられないかも含めて、しなくてもいいとは言いませんが、現状のままなのか、これはいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　目的いやあおかしいですが、道路交通法の関係でありますので、そこと、それから自転車でありますので、道路上の左側を走行していただくっていうのが基本になってます。ですから、安全対策っていうのが一番大切だろうというふうに思っておりますので、貸出機関の山里Ｌｏａｄにちなんのほうには、貸出しのときにはしっかりとＰＲじゃないですけど、説明っていうのはしっかりしていただくことが大事かなと思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　日野郡広域景観形成行動計画というものが作成されました。この中に日野郡サイクルルートと、あとは大山時間でルートがあるんですね。この設定された日野郡サイクルルートは、国道をずうっと行って多里の辺りまで直線なので分かりますけども、この大山時間における日南町内のルートって、町長分かりますか。私、これを見てなかなか、何となくでしか分からないんですよ。であれば、もう少しこれを、この行動計画を進めていくんであれば、何か分かる形、それは町ではなくて、もしかしたら山里Ｌｏａｄのほうかもしれませんが、でも、ただ恐らくこの図を見たら、どこを走るのか分からないと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　大山時間というところが中心になって、いわゆる商工会の皆さん方が中心になってつくられてるルートっていうふうに認識しておりまして、御案内のように縁起のよい神社巡り、あるいは自然、文学に触れ、自身の再生を楽しめる旅っていうことのテーマが日南町であります。ですから、そういった意味でいくと、どういいましょうか、日野上に上がって帰ったりとか、福栄へ行ったりとか、大石見神社のほうに行かれたりというような石霞渓を通るルートでありますので、町民からいえばある程度はイメージがつくかなとは思いますが、そこはしっかりとＰＲをっていうか、特徴あるものだろうというふうに認識しておりますので、ぜひ、昨年度もされたというふうに聞いておりますので、こういった重ねていくっていうことが大事かなとは思っております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　分かりました。こういういいルートがあるので、そうしたらこれは山里Ｌｏａｄのほうなんでしょうけども、もう少しこういう何か、本当にい

いルートだと思うので広報できればいいと思いますが。道路の環境整備というお話も出ました。これは、どのようにどんな範囲でされるのでしょうか。自転車は自転車でやっぱり公道を走ってると、やはりなかなか車に対するものがあったり、車は車で、自転車がやっぱり公道を走ってると難しい部分もありますが、この道路整備っていうのはどのようなものを考えておられるのでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　今考えておるのが看板だとか、先ほどありましたように景観形成っていうところの中で、色をある程度統一感をつくるとか、そういったところで今計画には上がってる内容であります。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　では、交流ホールのモニターについて質問します。

役割を果たすと考えているとおっしゃいましたが、果たしているということなんですね。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　活用方法については多様なものがあるかなというふうには思っておりますが、先ほど現状の報告をさせていただきました。ですから、特にイベントあたりについてはしっかりとした、極端に言えば、写真を撮るにしてもバックがありますので、そういったところにもつながるのかなというふうには思っております。ですから多様的な、どういいましょうか、利活用ができてるっていうふうには総合的には思ってます。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　毎年9月から１０月に行われてる防災訓練ですが、庁舎交流ホールが本拠地、本部になります。そのときに、やっぱりＮＴＴや国土交通省の協力をいただいて、映像が映ったりしてることもありますが、映像は別のモニター、持込みのモニターで私は映ってるような記憶があるんですね。あそこの庁舎の壁にかかってるモニターは多分文字で、防災訓練かそれぐらいの文字だけの記憶があるんですが、それはどうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　文字ももちろんありますが、画像も一部あったように記憶しております。ですから、ドローンからの映像だとかも含めてですが、あるいは、地域から災害の現場ですみたいなところの写真を、部分的ですけど投映するとか、そんな活用もあったように記憶しております。

○議長（山本　芳昭君）　3番、櫃田洋一議員。

○議員（3番　櫃田　洋一君）　私は、文字だけの記憶なので、定かではないのでちょっと検証ができないので、ちょっとまた何かで確認はしてみたいと思いますが、もっとやっぱり幅広く活用できると思うんです。例えばイベントの案内も何かあればあるし、先

ほど来町企業の情報を映し出すというふうなこともありました。文字でも、右から左へ流れるような文字で出れば、もう少し大きくてもう少し視覚的に映ると思うんですが、そういうことはできますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　機能的には多分できるというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　今、銀行の待合室でも、企業のコマーシャルをモニターで流してる時代なんですね。先日ちょっとびっくり、私もちょっとそういう、公共ではないから民間だからできるんでしょうし、あるいは取引先でもあるかもしれませんが、行政だからそれは難しいかもしれませんが、そういった方向性は可能ですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　あらかじめ誰もが承知した形の中で、例えば民間の一定の費用を頂きながらっていう、あるいは時間的な制約とか、そういったところは必要だろうっていうふうには思ってますが、できないことではないと思います。ただ、今、現時点でやってるのは、広報誌の中の最終ページぐらいのところの中で一定の区画だけで、一定の区画をＰＲをされませんかというような取組はしてますが、実績的にはちょっとあまり覚えてませんが、そういった取組はやらせてもらってるということで報告します。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　私、一つ提案があるんですけども、これを望みますけども、ある記念館、博物館だったかもしれませんが、そこに行ったときに、玄関入り口の上に電光掲示板があって、数日前までに申し込めば、そこに歓迎何とかという団体名が表示されるんですね。それで、そのときは申し込んでなかったんだけども、関係者がいたので少し数分、１０分ぐらいかな、１０分か１５分ぐらいで、歓迎何とかっていうふうな表示をしていただきました。そうすると、その前で記念写真、集合写真が撮れたりするし非常にいい記念にもなるので、これはもし可能であればできればいいし、これこそやっぱりホスピタリティーじゃないでしょうか、どう思われますか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　行政視察でお越しいただくケースがありまして、現在は役場の庁舎の正面玄関の、どちらか、右かちょっと左か覚えてませんが、そこに歓迎どこどこの、例えば何々議会一同様とか、そういうところは掲示をさせていただいて、来ていただく皆さんへのおもてなしの一つということであります。ですから、それをモニターではどうかって話だろうということだと思いますので、それはできないことではないというふうには思っておりますが、以上です。

○議長（山本　芳昭君）　３番、櫃田洋一議員。

○議員（３番　櫃田　洋一君）　分かりました。

では、以上で私の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（山本　芳昭君）　以上で櫃田洋一議員の一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　ここで暫時休憩といたします。再開を午後1時からといたします。

午前１１時５５分休憩

午後　０時５９分再開

○議長（山本　芳昭君）　休憩前に引き続き一般質問を行います。

8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　6月定例会の一般質問をさせていただきます。

第6次日南町総合計画の中の1つ目で、公共交通の今後の取組について伺います。1番目として、ＩＣＴを活用した公共交通システムの構築とは具体的にどのようなものか伺います。2番目に、地域住民による共助交通の支援について、具体的にどのような取組を行っていくか伺います。3番目にＪＲ伯備線の利用促進について具体的な取組を伺います。

大きな項目の2点目で、ファロスファーム株式会社日南農場について伺います。1つ目に、農場開設による本町への経済効果について伺います。2つ目に、固定資産税等の税収見込みについて伺います。3番目に、町道を県道に昇格依頼し、宝谷方面の道路整備を図られないか伺います。

3番目に、町営住宅及び町所有の住宅の維持管理について伺います。1つ目に、きりしま団地の屋根及び外壁の補修計画を伺います。2番目に、きりしま団地の防火水槽施工はいつになるか伺います。3番目に、現在使用されていない日南病院医師住宅をどうするか伺います。

大きな4番目として、ぷららショップ閉店後の空き店舗利用について伺います。1番目に、若年層の福利厚生施設として活用を検討してはどうか、または、歯科診療所として改修し利用してはどうか伺います。2番目に、歯科診療所として改修利用した場合に、現在の歯科医院、旧合銀生山支店、鉱泉館を整備し、温泉と福利厚生施設を整備されてはいかがか伺います。

以上、よろしくお願いします。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　高橋洋志議員の御質問にお答えします。

なお、3の3つ目の区分の、使用されてない日南病院医師住宅について、それと4項目めの1つの歯科の診療所として改修利用のという御質問につきましては、後ほど病院事業管理者のほうから答弁をいたします。

最初に、1つ目の公共交通のシステム構築についての御質問でございますが、町営バ

スだとかデマンドのバスにおきまして、乗車の予約や運行の確認、運休や遅延のお知らせ、運賃のキャッシュレス決済など、利用者がスマートーフォン１台でサービスを受けることができる機能整備を目指しているとこであります。さらには、利用者の家族が代理で予約できたり乗降状況を確認できるなど、離れて暮らしていても安心できる機能なども検討していきたいと思っております。また、運行側におきましても、予約情報をシステムが即座に効率的な運行ルートを生み出し、運転手はその情報どおりに運行に専念できますし、実績の情報により日報の作成、あるいは運行分析などが随時行えるなど、より効率的な業務を行うことができます。現在、その実現に向けて、改めて本町が目指す地域公共交通の将来像についての整理を行っておりまして、今後検討を進めていく中で、議員の皆さんにも御相談をさせていただきたいと思っております。日南町のどこに住んでいても、スマホ１台で必要な場所へ安心して移動でき、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、システムの構築と役割分担で成り立つ交通の実現に向けまして検討を進めてまいります。

次に、共助交通についての御質問ですが、共助交通は地域における支え合いを基盤としまして、住民の移動手段の確保を図るとともに、誰もが安心して暮らし続けることのできる地域づくりを支える観点からも、町全体の公共交通を支える重要な仕組みであると認識しております。その実現に向けましては様々な課題がありますので、各地域の利用者に沿った運行体系の再構築、あるいは運転者の確保など、無理のない持続可能な地域内交通の検討を地域の皆さんと共に進めてまいります。その際、運行に必要な車両、運行費用あるいは運転手の確保など、必要に応じた支援を検討をしていきたいと考えております。

３つ目のＪＲ伯備線の利用促進という御質問でございますが、今年の２月より実施しております人気スマホアプリの「駅メモ！」とのコラボキャンペーンを実施をしております。キャンペーンでは、でんこと呼ばれるキャラクター生山ほたるの限定グッズの販売と、生山駅、上石見駅と、町内３か所ですが、３か所は道の駅、美術館、大石見神社、これを巡るデジタル版スタンプラリーを今月２１日まで開催しているところでございますが、ＪＲ伯備線を利用しての来町も相当数おられます。今後の取組としましては、福万来の蛍イベント、日野上のイチョウのイベントと、生山ほたるとのコラボをさせることによりまして、キャンペーンの期間中に訪れてくれたファンのリピートを狙っていきます。また、ＪＲ等公共交通機関を利用する割合が多いのがインバウンドでございます。福万来の蛍イベントでは、生山駅からシャトルバスを発着させることによりましてインバウンドの誘客を図っております。実際のところ、ＪＲを利用した生山駅の発着のシャトルバスを利用する人のほとんどは東アジアからのお客さんでございます。インバウンド向けの情報発信は、これまで山麓協等の広域連携組織に任せきりでしたけども、今年度は町独自でインバウンド誘客に向けた情報発信を行い、ＪＲを利用した蛍観光の拡大を図っていく予定としております。

続きまして、２つ目の項目ですが、養豚場の開設に伴います本町の経済効果についての御質問です。新たな雇用の場が生まれることによる家計所得の増加に加えまして、稼働後の固定資産税や法人町民税、ふるさと納税などを通して、町税の収入面でも一定の寄与が見込まれると考えております。また、飼料や資材、設備の維持管理等に要する経費が継続的に発生することから、事業者の調達方針にもよりますけれども、関連産業に対しても一定の需要拡大が生じるものと認識しております。固定資産税の税収見込みということでございますが、具体的な税収額につきましては、最終的な投資の規模、あるいは資産評価額、あるいは今後の経営状況等により大きく変動し得ることから、現時点で金額をお示しすることは困難であり、概括的には増収要因となる事業として認識をしておるとこでございます。

次に、３つ目の町道生山印賀線を県道に昇格し整備を図れないかというお尋ねでございますが、県道は市町村間や高速道路、主要国道を結ぶなど、広域的な連携や交流を担う路線が対象とされております。こうした要件を踏まえ県にも確認したところ、町内の地域間を結ぶ本路線につきましては、県道への昇格は困難であるとの判断であります。なお、ファロスファームにつきましては、町道の尾郷印賀線から小原方面を経由するルートを御利用いただくよう、事業者のほうには申し入れているとこでございます。

３つ目のきりしま団地の屋根、外壁の改修、補修計画についてと御質問ですが、町営住宅の屋根及び外壁の補修は年次計画で実施してきておりまして、きりしま団地は令和１０年度着手という計画を立てておるとこでございます。同じく、きりしま団地の防火水槽施工時期についてという御質問です。きりしま団地の付近、この付近への防火水槽設置は、水利も悪く、優先的に設置していく必要があると認識しておりますが、設置するための適地が住宅敷地内や周辺になく、計画が進んでおりません。きりしま団地を含め、広域的な水利として利用できるよう周辺で設置場所を現在検討をしているところでございます。

次に、４つ目のぷらら跡地利用ということで、福利厚生施設または歯科診療として活用してはどうかという御質問です。若者の福利厚生施設につきましては、昨年６月に新青年団が発足するなど若い世代の活動が機運のほうが高まりつつあります。一方で、町内には既存の施設が複数あり、活動内容に応じて使い分けがなされている状況であります。例えば、先日開催されました商工会青年部の総会では、会議は商工会で行われ、懇親会は町内の飲食店のほうを利用されております。また、地域おこし協力隊の親睦会には、改装された日野上の地域振興センターのほうが活用をされております。このように、現時点では既存の施設の活用により一定の対応が図られているところではございますが、今後は若い世代の皆さんとの意見交換を重ねる中でニーズの把握に努め、必要性が認められる場合には、空き店舗の活用も含め検討してまいりたいと考えております。

次に、歯科診療所として改修利用した場合に、現在の歯科医院、旧合銀生山支店、鉱泉館を整備し、温泉と福利厚生施設を整備されてはいかがかという御質問でございます。

ぷららショップの跡地を歯科診療所として改修利用する考えは今のところありません。また、議員の提案されました温泉と福利厚生施設の整備としましての活用につきましては、現在、中心地域整備検討委員会におきまして委員から意見が上がっており、所有者の意向確認も含め議論しているところでございます。いずれにしても、今後の参考にさせていただければというふうに考えます。

以上、高橋洋志議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、3項目めの使用されてない日南病院の医師住宅、4項目めの歯科診療所としての改修利用の御質問につきましては、この後、病院事業管理者のほうから答弁をいたします。

○議長（山本　芳昭君）　福家事業管理者。

○病院事業管理者（福家　寿樹君）　そうしますと、高橋洋志議員の御質問にお答えいたします。

③現在使用されていない日南病院医師住宅についての御質問ですが、現在、医師住宅の空き家は3棟ございます。そのうち2棟が築４６年、1棟も築４１年を経過しております。いずれも家屋全体の老朽化による傷みが激しく、改修は困難な状況でございます。現在、医師住宅に不足は生じておりませんが、今後、解体も視野に入れ、適切な機会を捉えて対応を検討してまいりたいというふうに思っております。

次に、4の歯科診療所としての活用提案についてでございますが、まず現在の診療状況から申し上げます。歯科医師からは、現在の診療スペースにおいて診療機能上大きな支障や不足が生じているとは聞いておりません。また、現状の面積で必要な診療は確保されているものと承知しております。また、現在の診療所と移転先候補とは極めて近接しており、患者さんの通院距離の面では実質的な差はないものと認識をしております。一方で、ぷららショップ跡は現在の歯科診療所よりも広く、来院者用スペースも一定程度確保しやすくなるといった可能性がございますが、診療所としての機能を満たすための大規模改修や設備の更新に加え、家賃あるいは維持管理費など新たなランニングコストが見込まれるものと思っております。これらを総合的に勘案しますと、現時点で直ちに移転を行う合理性は乏しく、歯科診療所をぷらら跡に移設する可能性は極めて低いと判断しているところとございます。

以上、高橋洋志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　まず最初に、公共交通のほうからまいりたいと思いますが、先ほど町長の答弁の中に、スマホ1台で町内各地から利用できるようなシステムを構築したいというふうに御説明がありました。まず、スマホの利用に関しては、昔から懸案である不感地帯は当然ございますし、先ほどキャッシュレス機能を備えたことも考えていくとおっしゃいましたですが、先ほど、先般から日本交通さんと日ノ丸自動車さんによって、路線バスに関してはＩＣＯＣＡとか交通系のキャッシュレス機能は持たさ

れたようでございますが、本町において果たしてキャッシュレス機能を持たせる投資効果といいますか、その辺はおありになると思われますか、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　本町の場合ですが、現在、御承知のとおりたったもカードがありますので、そういったところを中心にしながらのキャッシュレスっていうところを計画の中心に据えておるとこでございます。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　十分検討していただいて、いいことはどんどん取り入れていっていただければと思います。まず、現在、デマンドバス等公共交通、ちゃんねる日南において確認、居場所とか運行状況を確認できるシステムを運用されていると思いますが、現在、利用状況はどのようになっておりますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　すみません、ちょっと質問の再確認をさせていただければと思いますが、高橋議員、先ほどの御質問はつながるアプリっていう趣旨の内容でしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　別に、デマンド及び町営バスに居場所を発信するような機能をつけて運行されているというふうに認識しておりますが、違ってましたですかいね。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　過去に実証中にあったのかもしれませんが、現状、そういったリアルタイムでの位置情報のシステム提供は行ってはございません。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　その後に、予約から運行分析までシステム処理ができるものを想定しておられるということでございますが、もう大分前から、運行状況、安全管理に関するシステムというものは業界では相当進んでおりまして、やはり本町におきましても車両数相当ございます。除雪に関してもそうです。居場所を一元管理できるような安全管理に特化したシステムに変えられて、電話を受けたときにはそちらのほうで、画面上でもう全て把握した上で回答ができるというふうなシステムを構築されたほうがよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっとどこまでができるものかっていうのは、ちょっと検証していかないといけませんけれども、御指摘のありました内容については検討の材料とさせていただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　2番目の支え合いによって運行体系を構築し、公共交通をみんなで支える公共の財産としていくことを目指しておられるということでございま

すが、具体的に先進地といいますか、具体例というのを参考にしながらというところはございますですか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　現在、専門的な先生方の御意見、御指導により、先進地的なところ数か所は承知をしております。そこの視察でしたりというのはまた別で計画中でございますが、先ほどのシステムも含めまして様々なサービスが今ございます。本町にとりましては、まだ一足飛びにいきなりデジタルにして、議員おっしゃいますようにスマホの操作ができないという方にも、優しい形でアナログとのハイブリッドも考えてる中でございますので、いろいろな先進地も参考にしながら検討を進めているところでございます。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　結局、共助交通とかいう公共交通に関してですけども、民間が手を引いていよいよもって困ったところが先進地になってるはずなんですけども、私が思うのに、結局日南町も相当高齢化が進んでおります。高齢の人に高齢の人の助け合いを求めていくということになると思うんですが、賠償責任を安易に個人に対して求めていく施策というのはどうかなと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　おっしゃられるように保険的なところは、一定の料金を頂きながら乗車していただくっていう話になる事業でもありますので、そういった安全ということとかは最重点の内容だろうというふうには思っておりますので、そこには万全な体制を考え方として、方策としては入れていきたいというふうに思っておりますし、その考え方はこれからも継続していきたいと思っております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　先進地も、私も若干知っておるところあるわけですけども、車両の提供とか維持管理費、この面はどのように考えておられるのでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的には、それこそ事業推進に当たっての一定の費用っていうのは当然かかるものだろうというふうに思っておりますので、その辺の中で行政の位置づけがどこまでできるかっていうことは、併せて計画の中でお示しできる形を、そういった計画をつくっていきたいと考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　やはり関係の部署で会議は持たれておると思うので、具体的にやっぱり突っ込んだ話を、実のあるところを成果で出していっていただきたいと思います。

次に、ＪＲ伯備線の利用促進について具体的な取組ということで伺いました。今は駅メモ！を通して取り組んでおられるとか、インバウンド誘客に向けた情報発信を行って

いく予定というふうに御回答いただきましたですが、期間的に蛍にしてもイチョウにしても非常に短期間のことだと思っていて、年間を通していく取組についていかがお考えでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　先ほどのイベント的なお話をさせていただきましたけど、こういったイベントを通してやはり来ていただくっていうのが、これからの利用者数の増には最適な在り方かなというふうには思っておりまして、当然、やくもも新しくなったりとかいうことで、多くの方の高い評価をいただいてるという認識を持っておりますので、ぜひ伯備線というところを、生山駅あるいは上石見駅も含めてですが、御利用いただければ幸いかなというふうに思っております。統計的な話ではございますけれども、平日の平常時につきましても大体五、六十人利用していただいてるということでありますので、学生さんも含めてということではありますけど、さらにこの継続をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　インバウンドの誘客に向けた情報発信ということで、具体的に蛍にしてもイチョウにしてもイベントを開催されておって、インバウンドといったら外国の方の来客のことだと思うんですけども、具体的に何人ぐらい来られているのか把握されていますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　蛍イベントの関係ではありますけども、一昨年が３６人、昨年が５９人という実績を把握しておるとこであります。また、日南町の観光もそうですけれども、西部圏域だとかそういうところでもいろんなイベントを組んでおりまして、御承知のとおり台湾便であるとか、境港のほうにもクルーズ船が来られてるっていうところの中での、そういう実態の中で日南の観光協会だけではなくて、西部圏域の中で一緒にやりましょうっていう動きになっておるとこですので、そういった皆さんが少し利用につながるっていうことは将来的にはあるっていうふうに思っておりますし、そういったところにも尽力をしていきたいと考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　西部圏域というお考えで進められておるようですけども、具体的に「銀河」が生山駅に止まります、週2便ですか、朝6時ぐらいに止まるんですけど、それの帰りの「銀河」の始発は翌日の夕方、出雲駅からの運行のはずです。そうすると、先ほど同僚議員の質問の中にもありましたけども、レンタサイクルとかいうものを利用して、私は、鳥取、日野川、大山時間に取り組む以上に、出雲に向けた取組をしていくべきだと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっと確認の意味も含めてですが、出雲に向けた取組ってお

っしゃられましたが、基本的に、「銀河」ですので、京都から出雲の間っていうのが、今、生山に停車していただいてるというふうな便になろうかなと思っておりまして、結構、「銀河」自体の利用っていうのは結構高いものだというふうに認識しておりますし、生山でも朝方停車していただきますので、トマトあたりの販売っていうところにも、今までもそうですし、これからもこういった町内の産品あたりの紹介はしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　「銀河」が停車するときには、地元の方、朝早くから出て歓迎といいますか、やっぱり日南町、宣伝になるんだいうふうに参加されとる方からも伺ったことがあります。非常に、単線なんでどこで時間を潰すかいうことで選定されたいうこともあるかもしれないですけども、やはり次の日の夕方の運行までの時間を考えると、鳥取県西部圏域よりも、明らかな始発が出雲なんで、出雲に向けた観光の取組っていうものも、隣町と連絡を取りながらやっていくべきだと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっと、御質問の理解はしましたので、それが可能かどうかって話ということはちょっとこれからの課題かなとは思っておりますので、御意見として承りたいというふうに考えます。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　次に、ファロスファーム日南農場についてということで質問させていただきました。大分、造成も終わってまいりまして、いろんな事件もあったわけですけども、順調に、計画より若干遅れながらにしろ整地も進められておりますし、非常に期待をしておるわけですけども、本当に、先ほど御回答いただいた新たな雇用の創出を通じた家計所得、地元の採用ですよね、本当にかなうんでしょうか、私、疑問でしようがない。町税収入の増加、関連産業への需要拡大が見込まれるという回答でございますが、本当に、本当に可能なんでしょうか、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　新たな企業の進出という形でもありますし、規模も大きな事業だというふうに認識しておりますので、要は民間の企業ではありますけれども、雇用でありますとかっていう話につきましては、行政としても協力できるところはしていきたいなというふうに、要はＰＲ的な情報発信的なところが主体的にはなろうかなというふうに思っておりますが、ぜひとも計画どおりに進んで順調な運営、経営をしていただくことを望みたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　やはり地元で実際に住んでいただいて働いていただかないと意味がなくて、以前、最初に町長に質問させていただいたときに、働きに来てくれ

たらいいという回答を１回いただいておりますが、そうじゃなくて、やっぱり住宅整備も含めて地元で住んでいただいて初めて入ってきていただく企業に対しても、ほかの、今既存の企業もそうですけども、やっぱり地元におれるような環境づくり、これ大事だと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　順番的には人材不足の解消っていうか、経営が順調に進んでいただくっていうことが大事だろうと思っています。議員おっしゃられるように町内での住まいっていうところでもありますので、その辺は役場としても、提案的な、町内での提案的な話はこれからも続けていきたいというふうに思ってますし、また、企業のほうもその方向性の中で御尽力いただけるんではないかなと考えておりますので、そういった方向で進めさせていただきたいと思ってます。

○議長（山本　芳昭君）　８番、高橋洋志議員。

○議員（８番　高橋　洋志君）　空き家対策というか、空き家改修とかいうところで結構進められておりますが、やはり住宅整備、空き家改修じゃなくて、新しい住宅地を、更地でも結構だと思うんです、そこら辺で整備を急がれるべきだと思いますが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　今、御承知のとおり中心地域整備のほうの中の住まい分野っていうところもありますので、一般的な住まいの感覚と企業的なところの、どういいましょうか、職員用っていうところはあります。ですから、職員用のところの支援策も持っておりますので、それこそ運営上の在り方によって場所っていうところも指定があるかもしれませんので、そういったところは柔軟に考えていきたいなというふうには考えております。

○議長（山本　芳昭君）　８番、高橋洋志議員。

○議員（８番　高橋　洋志君）　２番目の項目の固定資産税等税収見込みについて伺っておりますが、現状でファロスファームさんに地権が移った時点で、地目は雑種地だと認識はしておりますが、町有の土地もございましたですよね、ああいうところの借地料というところのお話は進んで、実際に徴収されておるんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　借地に関するものについての内容のものは、現在その内容で動いております。付け加えますと、土地の関連はそのように既にそういう動きをして、いわゆる税の収入は入っております。ただ、建物については今後の建築ですので、先ほど冒頭申し上げたとおりで、なかなか現時点で数字をはじき出すというところまではいかないということで御理解をいただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　８番、高橋洋志議員。

○議員（８番　高橋　洋志君）　土地の固定資産税等は頂いていると、借地料も頂いてい

ると。あとは設備を上屋を建てて、養豚場を稼働されていくわけですけども、これ、どうも農地法とかいろいろあって、課税が非常に一般の工場とはまた別な仕組みのように、いうニュースもあったんですけど、これ実際にどのような対象で課税されていくんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　すみません、償却資産というところで、事業者の申請による減免という内容もあったりとかありますけれども、現時点で不明な点が多いっていうところもありますので、概算もなかなか出せないっていうか、そういうところは承知をしておるとこでございます。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　企業版ふるさと納税も大事だとは思うんですけども、しっかり固定で交渉事になると思いますが、税金をきちんと落としていただくということで進めていただきたいと思います。

　次に、再々私も質問しておりました御回答をやっといただけたなというふうに思っておりまして、町道生山印賀線の県道昇格はもう無理だよと、広域連携及び、先ほど理由はいただいたんですけども、これ、企業、誘致企業が入ってきた場合の便宜を図ってもやっぱり駄目なんでしょうか、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　相見課長。

○建設課長（相見　正章君）　町道を県道にできないかという御質問でございますが、県道ですので県知事が県議会に議決をいただいて承認を得て県道になるということで、今のところ県道網というものが確立されており、町内確立されておりまして、先ほども答弁ありましたけども、広域的な連携、交流を担う路線ということで、もともと豚団地もあったわけですし、そう交通の流れが変わるということもないですし、地域間を結ぶ道路ということで、町内を結ぶ道路ということで、町道で管理するのが妥当ではないかというふうに考えます。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　できれば西伯農場と最短距離を結ぶ路線上になるので、私としたらやっぱり町道で整備ができないんだったら県に昇格させて、県のほうに依頼できないかというふうで申し上げていたつもりなんですが、それが駄目ということになると、これ町道で整備していくべき事案になるんじゃないかと思いますが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　既に御案内のようにファロスファームの現地は、小原の側に出ていただくと片側一車線というところが整備されております。御承知のとおり印賀側については多少幅員が狭くて少し法線が厳しい側面があるというのは承知しておりますので、ですから現存する、どういうか、安全な道路っていうところを、小原のほうを利用

していただくってことで業者にもお願いをしておりますので、まずはそこを、当面の段階はそういったところに協力していただけるように、私どもとしても説明をしていきたいというふうに思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　やっぱり企業は大事にしないといけないと思っているので、県が駄目なら町がやるべきだと、私はこれは引き続き、これは企業だけじゃなくて大宮地域の方の動態をよくするのには、動線ですね、やはりあそこの整備というのは大事だと思うので、継続的にアピールはさせていただきたいと思います。それで、実際に通ったら、結局通るルートを、宝谷から入るんじゃなくて生山を経由してくださいということになるんですが、やっぱり町道を維持管理していく上で、橋梁の長期、要は壊れたら駄目なんで制限を逆にかけないといけないと思うんですが、宝谷から入る直角に渡る宝谷橋ですか、橋梁の強度が素人目に見ても１７トン、１４トンぐらいかな。そうするともう大きな車っていうのは、あそこ町が許可しないと入ったらいけなくなるわけで、その辺の標示ですよね、耐荷重何トン、これをあそこに掲示するべきだと思いますが、今、掲示してあったら別にいいんですけど、掲示してないように記憶しておるので、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　相見課長。

○建設課長（相見　正章君）　２０トンを超すような大型車両については個別に通行許可の申請が出てきますので、そういったところで対応させていただきたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　橋梁の荷重を標示するのは別に町の管理側としたら当たり前のことじゃないかと思うんですが、標識をつけるのと一緒です。いかがですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　制度的にはその標示の義務っていうところがないようであります。ただ、いろんな形状とかいろいろありますので、道路の管理者としても安全っていうのは一番最優先だろうというふうには認識しておりますので、その辺は、先ほど申し上げましたように大きな車両のものについては届けっていうところがあるようでしたら、きちんとそのことをしていただくっていうことと、当然会社も明確でありますので、まず事前の情報共有には努めていきたいと考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　次の質問に移らせていただきます。町営住宅及び町所有の住宅の維持管理について伺いました。固有の名称といいますが団地の名前を出しておりましたですが、町長の答弁のほうではあの地域一帯のことを指して回答をいただいたので、これはさすがだなと思ったわけですが、あそこを、あの地域を住宅として整備される上で、当然防火対策については計画されてたと思うんですが、法的にあそこ、消火栓だけじゃなくて防火水槽等、消火に対する防災を図っていらっしゃったと思うんです

が、実際に今、消火栓何本かとか、防火水槽は実際にあの地域にあるんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　消火栓につきましては、1か所設置を既にしてありますという状況でありますし、また、防火水槽につきましては、やはり冒頭申し上げましたように必要性については感じておりますので、ただ、今現時点では場所的なところっていうところを今整理をしていかないといけないっていう状況にありますので、ですから大きなスペースっていうところ、広いスペースがないというのが団地の中ではそういう状況でありますので、少し離れた形の広域的なところのエリアの中で設置できるところを求めていきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　防火水槽の設置に関しては、法的に助成も含めて国の基準がまずあって、自治体ごとに検討される要綱が設定されていると思うんですが、そこら辺には、今あの地域は該当しないんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　団地ですので、新しくもともと造ってきたっていう話のところでありますので、過去の設置のときの計画っていうのはちょっと頭に承知しておりませんので分かりませんけど、いずれにしてもきりしま団地あたりの水利というところも決していい状況ではないという認識を持った中での、今後の計画の防火水槽というところを設置しないといけないっていう環境にあるというのは承知しておりますので、速やかな動きにしていきたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　やっぱり、お住まいの方にはやっぱり安心して生活していただくという環境整備は非常に大事だと思います。やっぱり重大な火災で過去にも水利、水がなくて悲惨な事故が起きたこともございますし、ここは、先ほど回答いただいた病院の医師住宅を含めた形で、あそこ、道も狭うございますし、やっぱり安心して住んでいただく環境づくりを急ぎやっていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　その方向で進めていきたいと考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　そうすると、団地のあの屋根もですけど１０年度着工ということで、１０年度いったら着工で、3年先になるんですか、完成が。現地を見ていただいたら、きりしま団地3段ございまして、一番上の高台のほうは日当たりが非常に悪くなっております。したがって屋根の状況も非常にコケが生えて、屋根、雨どいですか、あれも相当傷んでおります。やっぱり住んでいただく上で環境整備は重要なことだと思うので、これは１０年度と言わず、前倒しはできないものですか、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　そういった実態も含めて、いわゆる町が持っている町営住宅の管理というところのやっぱり計画的に進めていきたいというふうに思っております。ただ、具体的に雨漏りがザーザーするとかっていう話の事例が発生するようであれば、それはまた違う考え方かなというふうに思っておりますので、緊急の対応をまずするっていう形かなというふうには思っておりますので、そういった実態を含めての年次計画をさせていただいておりますので、御理解をいただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　やっぱり問題が把握されたら早急に取り組んでいただきたいというのが私の考えでございます。それと、消火栓が1か所あると言われたんですが、確かに団地の中段に1か所ありますね。問題は、消火栓があれば安心じゃなくて、多分圧力差で水圧出されておると思うんですが、あの団地の高さになると、実際に本当に水というか消火の基準があると思うんですけど、それに対応したものになってるんでしょうか、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　御承知のとおり水圧が低いエリアの一つだろうというのは認識はしておりますが、ただ、それが一般的な水圧に対してどうかっていうのは、ちょっと私個人的には思っておりませんが、設置してある以上は一定の効果っていうところはあるというふうに思ってますし、また、反対側の山沿いに川がありますので、そういったところの水利用っていうところも含めてですが、全体的な中で消火活動ができるっていうことだと、現時点ではそうだと思います。ただ、やはりもう少し充実するほうがいいよねっていうことの中で計画を今進めているということでありますので、御理解をいただければと思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　何を言おうかと思ったんだっけ、ちょっと……。基本的にやっぱり水圧があの1本じゃないと思うので、工事、その防火対策が取れるまで消防の方には……。思い出しました、すみません。あそこの水の量といいますか、川の水の量、あれはほぼないに等しい量です。なので、余計住民の方からは不安視されているものと思っております。ですから、できるだけ早い整備を、この日南病院の医師住宅をどうするかというところにも絡んでまいりますが、ほかの個人の方の空き家に対しては対策等いろいろ言われておりますけど、まず町有になりますよね、あそこ、病院の住宅というのは。町の所有の資産をやっぱり有効に利用していただきたいので、あそこを有力な候補地になると思うんですが、町道を広げた上で速やかに解体されて宅地として、一般に公募してもいいわけですから、そこら辺を考えていくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　いずれにしても、狭い場所で有効な土地がなかなかないってい

うのが現状でありました。ですから、先ほど冒頭申し上げましたように、広域的な水利というところの中での考え方に改めて再検討していきたいというふうに考えておりますので、その中の一つとしてさっきおっしゃられたような、例えばの話ですけど医師住宅っていうところの位置づけは、今後の現場との話合いもしながらですが、有効な考えの一つとして検討の土台には上げていきたいなというふうには思っておりますが、ですから最終的には防火水槽自体ができるっていうか、かなりの面積も要りますのでそういったところも含めて、改めて早急な形の中で着手していきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　早急な対策を取っていただくようにお願いいたします。

続きまして、ぷららショップ閉店後の空き店舗利用についてということでお尋ねいたしました。最近、①番として若年者の福利厚生施設として活用を検討されてはどうかというふうに伺ったわけですけども、本町は高齢の方に対する健康維持に対する取組というのはすばらしい、全国でトップレベルだというふうに私思っておるんですけども、若い方の滞在できるスペース、空間っていうのが本町にはまずないと思っております。その中で、今、社団法人化されたようですが、にちなんスポーツクラブというところが新しい若い方の時間の過ごし方を提供されてきつつあります。そこら辺に、今はトレーニング・ワークアウトということで、6時15分から、火曜日から土曜日までかな、ほぼ毎日やっておられますが、そういう団体に対して、駅前のそのぷららショップの跡地っていうのは結構スペースありますので、まず利用されてはいかがと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　御案内のようにぷららにつきましては、今年に入ってということで半年をたとうとしてるところでありますが、今、商工会のほうで御案内のように入店舗の入店の希望、募集をされてる段階であります。その中で、限定的ではないというふうには思いますけど、対象業種っていうことで飲食、物販、サービス業など、公序良俗に反しない業種っていうところが一つのスタートの時点かもしれませんが、そういうところの中で整理されておりますのが現行だろうというふうに思っております。ただ、空き家が長期的なところになればっていう話はいろんなところがあるかなとは思っておりますが、いずれにしても、駅前というところでの位置づけの広い店舗でもあります。有効な、これから行政も入りながら御支援しながら、こういったところの空きが早く解消できるようにこれから努めていきたいっていうふうには思っておるところであります。御指摘のような若者向けっていうところも一つの案かもしれませんが、できれば経済的なところも視野に入れて入っていただくと、よりいいのかなというふうには思っております。いずれにしても、商工会と皆さんと一緒になって前に進めていけれるように頑張っていきたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　若い方といいますか、結構年齢、上でもいけるんですけど、結局、隣町を見てみますと、健康増進に対しては社会福祉協議会が結構関与をされております。施設的にも非常に大きな施設を大体運営されているわけですが、本町に関しては、まずそういう活躍の場が社会福祉協議会には持たされていないというところで、この辺を含めて、若い方が外に出ていかなくても結構社交の場にもなりますし、そういう面でぷららショップの跡ですと、結構育児を今やられてる方が通っておられるのもあります。そうすると、塾に子供さんを預けといてその間そこを使えるとか、そういうことも考えていけるとは思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　議員おっしゃられる先ほどのイメージっていうのは、例えば健康に対するトレーニングだとか、それに類するような形のものっていうところのお話かなというようにお聞きしたところですけど、そのこと自体が悪いっていうことではもちろんありませんし、一つの昨今の動きだろうというふうには思っておりますが、やっぱり少し、どういいましょうかね、費用もかかるというところの場所でもありますので、ちょっとそのこと自体が悪いという意味ではなくて、広い感じの中で検討する余地があるかなということだと思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　スポーツクラブさんのほう、非常に頑張っておられて、ワーキングアウトということで、5月からはほぼ体育館の2階でやられるようですが、広さ的にもうちょっと手狭のような感じがしますし、普通のトレーニング機器を置くスペースが欲しいという声もやっぱり出てくるんですよね、ああいう事務的なところをやり始めると。やっぱりそういうところに事前に手を差し伸べるとかいうところもあっていいと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　具体的なお話いただきましたので、そこは現場の皆さんとお話の中で進めていけるかどうかは確認をしていきたいというふうに思います。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　生山駅、上石見駅１００年ということで、各駅前に町長も立たれたと思うんですけれども、町並みを見てどのような感想を持たれましたか。まず私、駅、結構行くんですけど、まず活気がない、本当、何じゃこりゃというやなイメージを持っちゃうんですけども、やっぱりランドマーク的な施設というのを駅前にぼんと構えるというのも、若者を定着させるのには一つの手だと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　駅前ですので、一般的にはＪＲを利用した中で観光的な位置づ

けからすると、私も他の駅を利用することがありますので、駅前のというか、駅前の景色っていうのはある程度、この町の活気と連動するようなイメージを持つこともあろうかなというふうに思っておりますので、そういった意味で今、中心地のほうも整備計画の検討をしてもらう中でも、そういったにぎわいづくりの話も出てきておりますので、そういった方向の中で御意見をいただきながら、どういうふうに整備するかっていうところが一番大事だろうというふうに思いますので、その辺は御意見をいただきながら進めていければと考えております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　やっぱり町内で時間を過ごせる施設というのは非常に大事だと思います。温泉というのはやっぱり欲しいですし、いろんな考え方あると思うんですけど、せっかくあの場所に、整備のしようによっては、私も迷っておりまして、ぷららのところに歯医者さん行っていただいて、それ、そうすることによって、歯科医、それから合銀と鉱泉館さん、あの一画を整備したら、非常に日南町って駅降りたときに明るい町に変わるというように思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　議員、冒頭申し上げましたように、中心地の整備検討委員会において委員のほうからも御意見いただいてるという状況にありますので、議員の、どういいましょうか、御提案の内容については今後の参考とさせていただければと思っております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　今一番やらないといけない項目に、私は、同僚議員が最初に質問されましたけども、やっぱり若者が滞在できる空間をつくることも大事ですし、成婚率を上げていかないと、日南町の存続というのはなかなか厳しくなってくると思います。そういう場所を在任期間中にぱっと決定されていかれませんか、いかがですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　若者だけではないんですけれども、基本的に、町の中で住んでる皆さん、あるいは交流する皆さん、関係の皆さんが、この町にやっぱり将来性があったりとか、にぎやかだなとか、気持ちが前向きだなとか、そんなところっていうのはやっぱり大切に、これからよりしていかないといけないというふうに思っておりますので、ぜひともあの建物は、空間っていいましょうかね、そういったところはこれからも大切にしていきたいというふうに思ってますし、どういう方法が取れるかというところは、また専門的なところの知見をいただきながらということではないかなというふうには思っております。

○議長（山本　芳昭君）　8番、高橋洋志議員。

○議員（8番　高橋　洋志君）　ぜひとも、社団法人になっておられますけども、にちなんスポーツクラブの活動にやっぱり若者が滞在できる時間、空間をつくっていただくと

いうのは非常にいいことだと思うので、行政としても、率先といいますかね、やっぱり便宜を図っていただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（山本　芳昭君）　以上で高橋洋志議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩といたします。再開を２時２０分からといたします。

午後２時０８分休憩

午後２時１９分再開

○議長（山本　芳昭君）　休憩前に引き続き一般質問を行います。

ここで執行部から発言を求められていますので、これを許します。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　先ほどの高橋洋志議員の再質問のやり取りの中で、高橋議員からきりしま団地のほうの消火栓の圧力がありますかという問いに対しまして、少し明確でないお答えをしたというふうに思っております。消火栓を１基設置してあります。ですから、基本的には圧がありますということでお答えをさせていただきます。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　そうしますと、７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　午前中には中村町長から次期町長選への出馬表明があり、決意を伺ったところであります。これからの次期町政も見据えながら、本日は日南町の重要な課題について、大きく２点について質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、１つ目の質問事項、公共交通施策について、これについて４点伺います。

１点目は、現行計画の期間満了に伴う次期公共交通総合計画の策定についてであります。本来であれば、令和７年度から新たな公共交通総合計画が策定され、既に計画に基づいた具体的な取組が進められるべきところであります。しかしながら、実質的な計画策定は１年遅れている状況にあります。そこで、次期公共交通総合計画について、現在の策定の進捗状況について伺います。

２点目は、病院への通院に係る公共交通の利用状況について伺います。高齢者をはじめとする町民の命を支える日南病院への公共交通は大変重要な路線であります。また、今後の日南病院の在り方を考える上では医療の広域連携が焦点となっており、日野病院への路線確保についても同様に重要であると考えております。そこで、日南病院及び日野病院を受診する患者の公共交通の利用状況について伺います。

３点目は、障害者等外出支援事業についてであります。障害者等外出支援事業におけるタクシー助成等の利活用が低迷し、本年３月補正予算において減額補正となった要因をどのように分析してるのか伺います。また、制度の周知不足、申請手続の煩雑さ、利用要件の見直しなど、今後の利用促進に向けた具体的な対応策を伺います。

４点目は、自動運転バス導入の可能性についてです。慢性的な運転手不足の解消、運行コストの抑制、ドライバーの負担軽減に向け、循環バスにおいて国等の実証実験を活用した自動運転技術を試験的に導入してはどうか、町長の見解を伺います。

続いて、２つ目の質問事項、スマート農業推進施策について２点伺います。

１点目は、スマート農業機械の導入についてです。日南町においてはスマート農業機械やデジタル技術の導入が進められていますが、これが実際に労働時間の削減、営農規模（経営面積）の拡大、反収（収量）の増加にどのように寄与しているのか伺います。また、費用対効果を含めた計数的な事業評価を行っているのか、現時点における具体的な効果と現場から上がっている課題を伺います。

２点目は、ＲＴＫ不感地域調査についてです。令和７年度に鳥取県と連携して進めたＲＴＫ不感地域調査について、具体的な成果と町内全域における通信カバーエリアの見直しを伺います。また、高精度位置情報を活用したトラクターやドローン等の自動操舵技術の導入により、オペレーターの肉体的・精神的疲労軽減及び作業時間の短縮にどの程度の効果が見込まれるのか、町の試算を伺います。

以上で最初の質問を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　岩﨑昭男議員の御質問にお答えします。

最初に、公共交通施策についてということで、次期計画策定の進捗状況という御質問でございます。現在、陸運支局や鳥取県、大学教授などの有識者やまちづくり協議会等と意見交換を行いながら、今後の公共交通の在り方について検討・協議を進めているところでございます。今後の予定でございますが、本町の方向性が整い次第、９月頃には議会、あるいは公共交通確保対策協議会におきまして報告・協議を行いまして、年内の策定というところの、この年内を目標に目指して進めていきたいというふうに考えております。

次に、病院受診者の公共交通の利用状況についてという御質問でございます。利用の調査というのは行っておりませんで、デマンドバスの予約データ等を参考に分析という形を取りますと、日南病院の受診者のうち約２０％の方、この方がバスやタクシーなどの公共交通を利用されているものと思われます。日野病院につきましては、関係者への聞き取りによりますと、約５％の方が公共交通を利用されているとのことでありました。いずれも正確に調査をしたものではなく、あくまでも間接的なデータ、あるいは聞き取りというものに基づきます推計でありますので、御理解いただければと思います。

次に、３つ目の障害者等外出支援事業についての御質問です。本事業の令和７年度の対象者ですが、５３７人でございます。このうち、タクシー利用の現実的に難しい方と考えられる方でございますが、死亡者が３７人、転出者４人、要介護者のうちの施設入所者が６８人ということで合計１０９人になりますが、この方を除きますと、在宅で利

用の可能性がある方が４２８という数字になります。そのうちの２５２人の方に実際御利用いただいておりまして、おおむね６割の方に制度のほうの活用していただいているという状況であります。一方で、残る４割の方には、まだ十分に利用が広がってないのも事実であります。これまで利用されてない方の一部からお話を伺ったところでは、御家族の送迎で足りている方、あるいは他のサービスにより移動手段が確保されている方がおられる一方で、制度の内容や使い方が十分に伝わってない方、そもそも御自身ではあまり必要性を感じておられない方もいらっしゃるのではないかと考えております。こうしたことから、現時点ではどのような方がどのような理由で利用されていないのかを十分に把握できていない点に課題があるものと認識しております。まずは制度の周知も兼ねて、利用されてないおおよそ４割の方に、状況やお考えにつきまして戸別訪問などを通じて丁寧にお伺いし、その結果を踏まえながら、周知方法あるいは情報提供の在り方なども改善のほうにつなげていきたいというふうに考えております。

４点目の自動運転技術の試験導入ということの御質問でございます。自動運転技術の活用につきましては、慢性的な運転手の不足への対応、あるいは運行コストの抑制、ドライバーの負担軽減などの面から有効な選択肢の一つであると認識しております。また、中心地域整備検討委員会におきまして、一部の委員からも導入を行ってはどうかという御意見もいただいておるとこでございます。一方、現状では、路上駐車車両への対応、あるいは悪天候時におけるセンサーやカメラの認識精度、事故時の責任所在など、解決すべき課題もたくさんございます。また、ドライバーが乗車しないレベルの自動運転技術の導入にはまだまだ時間がかかる見込みであり、運行コストの抑制、慢性的な運転手不足の解消といった点では解決には至らないのではないかと思っております。本町とすれば、導入の可能性について研究のほうをしていきたいというふうに思っております。

２つ目のスマート農業推進の、スマート農業機械やデジタルの技術の導入がどのように寄与してるかという御質問でございます。本町におきますスマート農業機械やデジタル技術の導入状況とその効果、課題についてお答えしたいと思います。

まず、労働時間の削減についてでございますが、本町で取り組んでいる事業者の試算では、ドローン防除により従来の手作業と比較して作業時間が約７割から９割削減されているほか、ラジコンの草刈り機の活用によりましては、畦畔の草刈り作業時間が約６割削減されております。これにより、人手不足の解消、あるいは作業安全性の向上につながっておると考えております。

経営規模の拡大についてでございますが、省力化により生み出された時間を活用して、ある法人では経営面積が導入前と比較して約４割、面積にして７ヘクタール拡大した事例がございます。一方で、中山間地域特有の小規模、不整形な圃場条件により、規模の拡大につながってない事例もあります。

次に、収量についてでございますが、法人によってまちまちではありますけれども、スマート農業機械の導入によりまして作業時間の削減につながり、その分、作物の適正

管理に時間を費やすことができ、水稲におきましては収量が上がったという事例もありますが、下がったという事例は伺ってないため、導入効果が見られていると思っております。

次に、費用対効果の評価ということでありますが、導入後の統一的な計数の評価は実施しておりませんが、導入時には個別の経営体ごとに費用対効果の試算を行っております。効果としましては、ラジコン草刈り機の作業時間の削減が年間約３５０時間、このケースのときには延べ作業面積が約１１ヘクタールという条件であります。人件費換算で申し上げると、約５０万円の削減といった形で把握をしている事例もあります。また、現場からは、主な課題としましては、本町は中山間地域であることから小規模で不整形な圃場が多く、スマート機械の効果が十分に発揮されにくいことから、基盤整備の推進を求める声のほうもあります。また、補助事業の要件として単純な機械更新が認められてないため、一定規模以上の規模拡大が前提となる場合があり、結果として補助を活用しにくいといった意見も寄せられておるとこでございます。

次に、２つ目の令和７年度に鳥取県と連携して進めましたＲＴＫ不感地域調査についての具体的な成果と、町内全域における通信カバーエリアの見通しについてという御質問ですが、まず、調査の結果についてでありますが、県の調査では、電波の不感地域にＲＴＫ移動基地局を設置し、ＲＴＫの有無によるドローン自動飛行への影響の検証をしました。山に囲まれて衛星受信が悪い圃場ほど補正効果が高く、山間部ではＲＴＫを用いることで作業精度が向上することが確認されており、これを本調査の結果と認識をしております。

次に、町内全域の通信カバーエリアの見通しについてでございますが、本町の地形条件では多数のＲＴＫ固定基地局の設置が必要となりまして、基地局１基当たりですが、数百万円規模の初期費用と維持管理を要することから、現時点で一度に町内全域を整備することは難しい状況にあります。また、現状では、担い手からのＲＴＫ基地局の設置に対する要望も多くなく、優先度は総体的に低いと考えております。

自動の操舵技術のオペレーターへの効果につきましてですが、作業の直進性や精度の向上により、重複の作業時間の短縮につながるものと認識しております。また、ハンドル操作の負担軽減によりまして、身体的・精神的な疲労感、これの緩和にも寄与するものと考えております。一方で、これらの効果が諸条件により大きく異なることから、現時点で町独自の統一的な数値の試験は行っておりません。

今後ですけれども、さきに答弁いたしました公共交通におけます自動運転技術や防災分野での活用も含めまして、全体として効率的な整備の在り方について検討、研究のほうを進めてまいりたいと考えております。

以上、岩﨑昭男議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　公共交通施策について、再質問をまずさせていただきたいと思います。その前に、先般も一般質問で公共交通のことを伺いました。そのときに、ホームページの中に、公共交通のページに町内のタクシー事業者の連絡先とかがないと指摘しましたところ、早速の対応をしていただいておりまして、ありがとうございます。

それと、まず、通院での公共交通の利用状況について伺いたいと思いますが、先ほど町長、日南病院で約２０％の方、日野病院では５％ということで、日南病院においてはデマンドバスの予約状況から、そして、日野病院については関係者から聞き取ったとありますが、ちなみに日野病院の５パーというのは、その関係者というのは具体的にどのような方から、どういう形で聞き取られたか、伺います。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　このたびの聞き取りでは、日野病院の事務の関係者の方にお伺いしたところでございます。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　質問のほうで路線が云々というような表現をしとったんであれかもしれませんけど、ちなみに、タクシーの利用とかいう数値っていうのは、町として、あるいは病院として把握はされていない。どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　公共交通全体としては承知をしてございません。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　そういうことですね。この後いろいろと伺っていきますのであれですけれども、私も、特に冒頭申し上げましたけれども、医療関係の広域化の話とかそういう中において、日野病院への通院というのも非常に重要なポイントになってくると思っております。実際私も定期的に日野病院にもかかっておりまして、日野病院の待合を見ますと、結構やはり日南町の方がいらっしゃいます。これは現実であります。その方が自家用車で来られたのか、公共交通使って来られたのか、それはちょっと分からなくって、このたび聞いたわけでございますけれども、確実なデータというのはお持ちでないということですが、私以外にも、同僚議員が以前にも質問したようなことを再度伺いますけれども、根雨駅と生山駅をつないでおります日野町営バスですね、菅福線、これの利用者というのも若干あるんではないかということは何か説明があったような気がしますが、これ辺りの人数っていうのはいかがなもんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　こちらについても具体、数字を承知をしてございません。調査等も行ってない状況でございます。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　続きまして、ＪＲ。いろんな手段で実際、日野病院に行こうと思えば、バスじゃなくってタクシーか、やっぱりＪＲの可能性も高いのかなと思

うわけであります。ＪＲはＪＲで、これも質問が、議員から質問があったんですけども、電車とホームの間の段差があるとか、それから、下りの場合は跨線橋を越えなければならない、高齢者には非常に厳しいのが現状であります。そういうようなとこで、日野病院への通院っていうのが非常に、どうやって皆さん通っておられるかな、正直私も分かっておりませんでして、このような質問をしとるんですけども、執行部側としてもどうも分かってない、これは現状であります。やっぱり日野病院の利用者数っていうのも分からないとくれば、そこら辺も全て今後の話になってくるわけですけれども、そういうようなときに日南町と日野町との間でこの公共交通について協議する場、そういうものは現在ありますでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　一定の意見交換は行っておりますが、具体、連結、具体的接続、ダイヤの接続等であるとかいう詳細な協議を行ってはございません。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　それは担当者レベルでの意見交換ということでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　昨年度からの動きでありますが、日野町とも協議をしかけてる経過はございます。担当者レベルでの意見交換という域を超えませんので、具体的な御提示にまでは至ってはおりませんけども、そういう意味から、先ほどまだできてないということで申し上げましたが、やっぱり課題としては捉えておりますので、ここの接続というのは重要であるというふうに思っておりますので、引き続き両者と関係性を持ちながら、検討は続けてまいりたいと思っております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　今まで申しましたのは、日南町民の方が日野病院を利用する場合のことを伺ったんですけども、逆に、日野町の住民の方が日南病院を利用する、そういうパターンってどの程度あるんでしょうか。お分かりでしたら。

○議長（山本　芳昭君）　福家事業管理者。

○病院事業管理者（福家　寿樹君）　申し訳ございません、詳しい数をちょっと拾っておるわけではございませんが、総じて最近ちょっと感じるところは、公共交通機関、もちろん、使う方は本当に限られた方で、やはり高齢となっても自分で運転して来られる方も一定程度はおられるっていうふうに。というのは、特に今日、金曜日あたりは一番患者さんが多い曜日でございます。診療科目が一番多いんですが、本当にお昼過ぎても結構駐車場がいっぱいなんですね。ですので、皆さんやっぱり自分で運転をして来られているっていう、ちょっと肌感覚でございますが、認識をしておるところでございます。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　日野町は結局どの程度で。全く分からない、ですね。逆のパターンですよね、日野町から、根雨駅から生山駅に７時半ぐらいに着くわけなんで

すけども、ちょっと生山駅から日南病院まで延長してもらうことによって、恐らく日野町の方が日南病院を受診されてるんであれば非常に助かるんじゃないかと思うわけですよ。そういうようなところも含めて、日野町との協議、必要ではないかと思います。やっぱり……。後にします、後です。いいです。そういうような状況ということで、分かりました。

じゃあ、続きまして、障がい者等の外出支援事業ですけれども、これにつきましては資料の提供をありがとうございました。実際、８０歳以上の方とか障がいをお持ちの方とかが対象になっとるわけですけれども、実際の利用者の目的地というのが把握できるようでしたら教えていただきたいんですが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　片岡課長。

○福祉保健課長（片岡　慎也君）　目的地でございますけども、大体町内から町内というような移動が主なものとなりますが、主立った利用枚数の多いところを数件報告させていただきますと、そうですね、日南交通さんの分でいきますと、降りる場所が、一番多いのがパセオ、枚数でいきますと６５枚、それから、霞地内、こちらが６７枚、それから、生山地内が１０７枚、それから、日南病院、１７６枚、それから、関連しまして、日野病院が１５枚、こちらが主なものとなっております。こちらは令和７年度の実績を積み上げて見ております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　すみません、ちょっと聞き取られんかったんですけど、日野病院は何枚。

○議長（山本　芳昭君）　片岡課長。

○福祉保健課長（片岡　慎也君）　申し訳ございません、日野病院が１５枚です。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　実際、公共交通ではないという捉え方かもしれませんけども、先ほど冒頭で病院への通院の関係の人数、これには今の障がい者等の外出支援事業の補助、この件数っていうのは含まれておったんでしょうか。（発言する者あり）

○議長（山本　芳昭君）　岩﨑議員、もう一度お願いします。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　すみません、病院の利用の中で、日南病院２０％、日野病院は５％の方が使っておられるっていうことだったんですけども、その手段の中にこの障がい者等の外出支援の券を持って乗られた方っていうのが含まれとったんだろうかということです。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　含まれていると整理をしてございます。（「いる」と呼ぶ者あり）いるとで。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　そうですね、やっぱりこの補助の関係、タクシー助成の

関係は、対象者も実際にはさほど多くはないというようなイメージを持ちますね。全体の８０歳以上の人口って、結構日南町でもいらっしゃると思うんですよね。ぱっと日南町の人口の表を見ましたら、８０歳以上の方が８９６人ぐらいいらっしゃるんですよね。それプラス障がいをお持ちの方とか介護が必要な方、こういう方がプラスされて来てるんだけれども、実際頂いた資料によると交付対象者は５３７人で、実際には４２８人しか交付をしてないという話なんですね。対象者というのが非常に限られた事業なのかなと思いますが、ただ、やっぱりある限りはしっかりと活用していただきたい。そういうときに使わない人の心理っていうのが、私、思うんですけれども、じゃあ、この券を使って例えば日南病院まで行ったら何ぼ負担せないけんのかが分からない。日野病院まで行ったらどうだろう、米子まで行ったらどうなんだろうと。そういうようなところの不安感があると思うんですよね、実際初めて使う人は。そこら辺りが、私が思うに、目的地別に、かつ事業者によって料金が違いますんで、日南交通さんと夢太陽さんと福祉会さん、それぞれ料金体系が違うんで、補助の額も違うんだけれども、例えば日野病院に行くんであれば、日南交通さんを使って行くんであれば、例えば全体では5,０００円かかりますと。そのうちもうこれだけが補助があって、個人負担は幾らですよというような、ある程度目的地が、先ほど伺いましたら決まっとるわけなんで、そういうようなものをつくって利用者の方に利用促進を図るというのが必要じゃないかと思うんですけども、そういう考え方はございませんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　片岡課長。

○福祉保健課長（片岡　慎也君）　御指摘ありがとうございます。現在運用しております案内チラシがありますけども、そこには制度の仕組みについては解説をしておりますが、言われますように、どこに行ったら幾らぐらいかかるかとかいうような表示は一切しておりませんので、参考にさせていただいて、今後検討したいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　今言ったこと以外にもいろんな利用の促進方法はあろうかと思います。ぜひ有効な補助事業として使っていただきたいという思いで申し上げております。

１点確認でございますけれども、この券を利用して、本人さんは８０歳以上で免許を持っていらっしゃらないというような方がいらっしゃって、その方が買物に行くというときに、その方がちょっと足腰が弱い方で家族がついていかにゃいけんとかいうやなとき、介助者の方がついていくというやな場合には、その介助する方、家族の方っていうのはそのタクシーに一緒に乗ることができるんですか。

○議長（山本　芳昭君）　片岡課長。

○福祉保健課長（片岡　慎也君）　できるというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　ありがとうございました。いずれにしても、利用しやす

い仕組みをまた考えていただければと思います。

次々進ませていただきますけど、次、循環バスの自動運転技術の導入ということで、これも先ほど町長のほうから検討、研究していきますよということでありました。その言葉で結構です。

私もネットで調べて受け売りなところもあるんですけども、県内のほうでは米子市であったりとか鳥取市あたりが実証実験をして、米子市は社会実装ということで実際に今後運用をしていくんだよということもございます。日南町のような同じような地域、全国では何点かありましたね、秋田県の上小阿仁村とかいうのがございまして、ここが結構早い時期にこういうようなことを、実証的な実験をやられたとか、島根県の飯南町あたりもやっておられたんですけども、こちらはもう、技術的には導入できても結局今は休止中だということで、なかなか過疎地域での運用というのは現実的でないというのは承知の上でございます。国の補助事業のほうも、当初は自動運転にあまり、自動運転レベルが高くなくっても実証実験というところで進めておったんですが、現在ではレベル４を目的に、実際に社会実装までいかなければなかなか事業採択にならんというのは理解をしております。

ただ、今後、将来を見たときに、やっぱりこういうのは運転手の不足とか、そういうのは現実的な話でありますんで、やっぱり日南町においても循環バスがどの区間が使えるんだろうかとか、あるいはどの時間帯だったらできるんだろうかとか、どれくらいの回数巡回すればいいのかと、そういうようなところのデータを取っていただいて、将来的な事業展開に向けての検討ぐらいはやっぱりやっていっていただいたらなと思うんですけれども、次の交通総合計画、こちらのほうで、検討事項としてそういうような調査をするというやなことも項目に上げていただいたらどうかなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　計画の中には、多分その前段の会議の中では、項目的にはそういうのはもう当然入ってくるんだろうというふうには思っております。ただ、おっしゃられるように、今、様々な自治体のほうで実証実験等をされておりまして、例えば県内の八頭町は早い中でやっておられまして、ただ、そこから学んだことっていうところで資料頂いとるケースがあるんですが、これからの話ですけど、国産の必要性だとか、あるいは量産ですよね、そうしないとコスト的なところもありますので、そういった課題があるということと、あわせて、国のほうも今、２０２７年度の実装予定ということですので、来年度実装予定のところの、例えば自家用車にしても、路線バスにしても、タクシーにしても、トラックにしても、そういったところで日進月歩の中で進んでるっていうのは国の資料からも読み取れるかなというふうに思っておりますので、そういったところがどんどん具体的な車両等が出てきた中で、本町にとってできることっていうところはやはり一つの魅力だろうというふうに思っておりますので、全線できるかどうか

っていうよりも、例えば巡回バスの路線だとか、そういったところで点の中での、具体性のところについては考えていく余地はもちろんあるというふうに私は思っておりますので、これからの動きと、実際に法的なところも含めてですが、その辺の環境を把握しながら前向きに検討したいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　7番、岩﨑昭男議員。

○議員（7番　岩﨑　昭男君）　ありがとうございます。そういうような、今申し上げました病院への通院の関係とか、あるいは障がい者等の外出支援事業の関係、将来的な巡回バスの自動運転というようなことを含めまして、次期公共交通総合計画の策定について、今からちょっと伺いたいと思います。

冒頭申し上げました、実際1年足踏み状態だったというのが現実であります。8年度も4月以降、既に2か月が経過しましたけども、具体的にどのような進捗があったのか、問います。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　すみません、遅くなりました。協議的なところにつきましてですが、現在ですが、公共交通に期待される効果っていうところで4点で、生活の安心、あるいは交流の活性化、環境への配慮、若い世代への魅力という4つのテーマの中で整理をしておるとこでございまして、公共交通はみんなで支える地域の財産であるという認識の下で将来像のほうを設定していこうという形をしております。目的につきましては、予約から運行管理までの統一コントロールセンターの整備というところの仮説をしながら、実証するための本年度以降のロードマップを含めて制度設計を本年度中に行い、来年度以降、一部の地域で試験運行みたいなところで進めていきたいという予定を進めておるとこでございます。今、路線バスだとか、デマンドバスだとか、いろんな形で試行錯誤してきておりますので、そういう背景を、実践を踏まえて、これからの公共交通の在り方っていうところを、今の段階では二層方式っていうか、中心地は中心地、各地域は各地域に結ぶ路線というところの中で、そういったところを中心に議論を進めさせていただいてるということで御承知いただければと思います。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　7番、岩﨑昭男議員。

○議員（7番　岩﨑　昭男君）　今、町長がお答えいただいたのは、内部での資料、いわゆる計画の策定状況ということでありますですね。まだ公共交通の確保対策協議会、こういうようなところでの何か、まだ特に情報収集のために会を開いたりとかいうようなことは一回もなされてないでしょうか。もう案が出来上がってから協議会のほうを開催するとか、その辺のちょっとスケジュール感のほうをお願いします。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　本年度はまだ開催をしてございませんが、個別、委員の皆様へ相談を今、行ってる最中でございます。それこそ夏ぐらいまでには開催をしたいと思っておりますし、議員おっしゃいましたように、そこでも意見聴取をしたい

と思います。そもそも今、町長も申し上げましたが、何のためにあるべきなのかというそもそもから考え直して、それを暮らしの満足度につなげていく、公共の財産としてというところでのまたリスタートを掲げてございます。そういった中で目指すべき公共交通の在り方としましては、やはり提供する側も今ある資源の中でどうやっていくのか、極論ですが、我々の役場職員も運転手の一員となって務めるというような検討も行っております。そういった中で、各地域でもそれぞれ課題やそういった資源も異なってまいりますので、そういったところを本年度をもって詰めて計画にしてまいりたいという考えでございます。先ほどおっしゃっていただいた自動運転あたりの盛り込みも、中では検討にさせていただきたいと存じます。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　職員が運転するという新たな画期的な話がぽろっと出てきたりもしまして、ちょっと期待をします。

　これまでも何回か公共交通の計画に対しては質問をしておりました。ちょっと繰り返しになるかもしれませんが、再度確認をしたいと思います。最終的に、計画は公共交通確保対策協議会、こちらに諮って策定を決定するというやなことでありますが、以前にも申しました、公共交通に関して有償運送のもう一つの協議会がございます。この違いっていうのは、ＮＰＯの方がメンバーとして入るか入らないかだけの違いなんですよね。それをもう実際に形として、日南町の公共交通を考える上では、現実的には公共交通の確保対策協議会じゃなくって、そういうような地域のＮＰＯも含めたところで公共交通というのを組み立てていかないと駄目ではないかと私は思います。要は、全ての関係者が集まって、情報を共有して方向性を定めるということが正しい方向だと私は思います。この協議会を一本化してスマートな形で、町民から、全体から、関係者から一括で会を持つ、決めるというような形を持ったらば、町側も２つの協議会という会を運営していくんじゃなくって１つで運営できると思うんですが、そこら辺を提案したいんですが、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　これまでの在り方、議員御指摘のとおり進むことができますれば、我々にとっても効率的であり、全体的なお話が一度にできるというメリットはあろうと思いますが、一方で、現行制度、法的なもので指導を仰ぎながら２つが要るよというとこでスタートした事実もございますので、その辺り、効率化できるのかどうかは検討をさせていただきたいと思いますし、改めて、もし統合、新たな形ということであれば、それもまた公共交通協議会等で今後諮ってまいりながら進めていきたいと考えます。御意見ありがとうございます。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　本当に、結構こういう形でやってるとこはあるんじゃないかなと思いますんで、よく調査して、お互いに風通しをよくしたり、あるいは、情報

は二重にならないように、１回で済むというような形を取っていただきたいと思います。

そして、前回、この計画が遅れとる要因の一つとして、国の施策、ライドシェアの拡大、これが一つの要因だよというふうに伺いました。これは町長の答弁ではなくって担当課長の答弁であったんですけども、ここら辺り、ライドシェアが拡大っていうのが具体的にこの近年、どのように変わったのか、それをどのような形で町の計画に反映するための検討をしてるのか、そこについて伺います。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　内部の具体、検討は、重ねてですが、詳細これからでございます。しかしながら、考え方としまして、いわゆるライドシェア、御承知のとおり、個人の所有の車両を使う、また、一定の講習を受けた一般の方が運転をするというような形でどこまでできるのかということでございます。かねてより御質問も頂戴しておりますが、安全性の担保でしたり、責任性というのは伴ってまいりますので、それを一気に皆様に強いるのではなく、多里がもう約２０年、ずっと続けてきていらっしゃいますが、ほかの地域では進まないという現状もあります。それはやはり、そういった部分で国の法律でしたり、それぞれの資源というか、環境もあるわけですので、そういったところは今後、議員おっしゃっていただきましたが、そのライドシェアの考え方は本町でも取り入れながら進めたい一つでございますので、そういったところを突破口に、細かい、今移動できない方への公共の財産として進めていきたいという方向性を持っております。重ねてでございますが、そのやり方をそれぞれの地域でどう展開していくのかというのは、先ほど言ってくださいました、ＮＰＯやほかの皆様も参画する協議の場を設けながら検討していきたいなと考えてございます。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　非常にいい答弁をいただいたんですけども、実際、前、現行の計画になるんですけども、計画で上げとったものを結構、実際には実施できております。唯一できてない、全く手がついてないなと思ってたのがそのことです。地域住民による交通確保、この部分が全く手がついていませんでした。この部分について、担当課長おっしゃいましたけれども、今度の計画の中にもやっぱりこの部分は重要なポイントとして位置づけていかれるという町長の思いはあるのかどうか、ちょっとそこを確認をしたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　根本論の話になりますけど、基本的に公共交通っていうところの業務は、行政としてもしなければならない事業の一つというふうに認識しております。ですから、そういった中で、こういった地域の中でいかにその公共交通、いろんなものを組み合わせて、財源的なところも含めてですけれども、それとやっぱり運転手的なところっていうか、人っていうところも含めてですが、どうあるべきかっていうところだというふうに思っております。全国各地でいろんな取組を、智頭は智頭でされてたとか、

いろんな取組があろうかなというふうに思っておりますので、この町に合った形っていうのを今、どういいましょうか、有識者の皆さんだとか大学の皆さんも含めてですが、様々な情報から取り入れながら、最終的なところで本町に見合った形っていうのを今、内部で検討っていうふうに思っておりますので、そこら辺を最終的に今年度は計画という形で変えていきたいというふうに思っておりますので、ちょっと個別的な要素はたくさんあるかなというふうには思っておりますけど、総体的にできる方法を考えていただくようにお願いをしてる最中であります。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　なぜこの地域住民による交通確保ができなかった、想像ですけども、やはりこういうのって、地域の住民の方の理解と協力がないとできないということが一番難しいところだったんだろうと思います。やっぱりそこら辺りは時間がかかることでありますけれども、計画にしっかり組み入れていただいて、本当の意味での町民のための公共交通計画をつくっていただいて、頑張っていただきたいと思います。

最後に、やっぱり計画策定というときに、いろいろな乗客の乗降のデータ、補助事業を使ってタクシーの利用をされた方、あるいはタクシーの実際に運転されている方、いろんな情報を得ること、どういう場所にどういう方が行かれたか、そういうまず本当にデータを持って計画というのを立てないと、机上だけでこうですよ、こうですよって計画が立つ、これって一番危ないことだと思います。やっぱりここには、公共交通を使って病院、日南病院、日野病院、パセオに行く、生山の地域に行く、そういう方々をぜひアンケートを取っていただきたい、お願いしたいと思います。これをなしに計画が策定されるとなると、全く根拠となるものが見えてこない。誰も納得しません。ぜひやっていただきたい。どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　實延課長。

○地域づくり推進課長（實延　太郎君）　議員御指摘のとおりだと承知しております。現在の利用状況につきましては、あくまでも現在サービスを提供している状況に対する利用ということで実績は当然まとめてございますが、いわゆるロードマップの中で、議員御指摘いただいて十分お答えできなく申し訳ございませんでしたが、日南病院、日野病院、町内外の医療機関への接続のニーズ等も把握するように努めることを明記したいと思っており、進めております。そういったところも、また皆さんの利用状況もお伺いしながら進めて計画立てに反映させてまいりたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　本当に、もう中心地域の構想も動きつつ、病院の場所は決まらないけど、頑張ろうという方向性も出てる。医療連携という大きな流れ、これ、全てが公共交通でつながるものであります。物と物をつなぐ道路、交通機関として重要な計画でありますので、しっかりと練っていただきたいと思います。

続きまして、スマート農業の推進について伺います。こちらにつきましても、担当課

から資料の提供をありがとうございました。結構なまた農業のスマート機械というものを導入をされてるというふうに確認させていただきました。ありがとうございました。

いろいろと効果を求めて、町長、口頭でいろいろと答弁をいただいたんですが、なかなか根拠になるものっていうのがやっぱり、先ほどの公共交通じゃないんですけども、明確でないなというのも感じたところであります。実際、スマート農業の機械を導入して、何のために導入するのかっていうのは、もちろん労力の軽減、労力が軽減した分を面積が増やせるんじゃないか、あるいは品質が向上するんではないかというところが目的であります。手段の一つとしてスマート農業だと認識してるわけですけれども、手段としてのスマート農業の関係で、結局、最終的には、町長も以前も同じような話をしました、これも。もう農家の方が所得が、要は販売額が増えて所得が増えるがもう目的なんですよね。機械を入れたり何するにしても。もう農業所得どうやって伸ばすんだというところで、トマトであったりは１２トンの会とかいろんな会ができて、具体的な数値を示しながらやるような形になっとるんですけども、やはりここでスマート農業によって、スマート農業に限らずですけども、農業所得を把握する方法、これも以前に私は言いましたけども、今回もまた言わせていただきます。農林業センサスによると、所得は分かんないですけど、販売額は全体としての把握もできますし、それから、税金の関係になりますけれども、課税状況調べっていうのがありまして、各町村ごとの農業のこっちは所得も出てきます。それがどのような形での所得か明確ではないんですけども、そういうのも調べていただきながら、農業機械の導入支援をしたり、スマート農業の推進をしたりして、ここまで伸びましたよと、所得が。所得が難しいとすれば、販売額は増えましたよと。そういうのをぜひやってみませんか、町長、本当に。前回は、ああ、それはいい話です、ぜひ私も知りたいという言葉を言われたんですよ。そういうような仕組みを一つ考えてみませんか、本気になって。どうでしょう。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　目的は、議員おっしゃられたように、所得を上げたいっていう話の中でとはいいながら、じゃあどれだけ伸びてますかとか、具体的なところはなかなか把握するのが難しいっていうのが現実です。１つのこの法人はっていうのは、たまたまですが、いろんなケースで直接知り得ることはできますけど、全体をカバーするっていう、税金、例えば税法っていうか、そっちのほうでいくとなかなか分かりにくい、あるいはスピード感が取れないっていうのが現状です。ただ、鳥取県の統計の中で、どういいましょうか、それぞれの市町村の総生産額ですね、いろんなところの。その中の区分として、例えば第一次産業っていうのがあります。その数字は、ちょっと令和５年度が今が最新のデータっていうところでありますので、そこは数字が伸びてるっていうのは確認をしておるとこであります。ですから、令和６年とか７年は米騒動のところもありましたので、多少上がるんだろうなというふうには認識はしておりますが、そういったところで、ちょっと後追いにはなりますけれども、ある程度の公的なところの数値か

らいくと、そういうところかなというふうには思っておるとこであります。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　国が持ってる集計した先ほどの農林業センサスのことやら、税金の関係の集計やら、そういうのって個人はもちろん特定できなくて、町村レベルでの集計になるんですけども、それで十分だろうし、所得がなければ、販売額に対して経費率はこれぐらいだろうって大体決まってますわね。それ掛けりゃあ所得は大体出るんですよ。それくらいのところでやっぱり数値っていうのは押さえていただきたい。もう永久的に、どうだ、もうかっとるか、もうかってません、どう、じゃなくって、やっぱりこれだけの成果が出たんだよということも、町長も町民の方々に対して言っていただきたいしね。私どもこうやって議会の中でいろんな施策のことを議論しながら、どうなんだよと、まあやりましたよと、いいですね、頑張りましたという言葉もたまには聞きたいじゃないですか。どうでしょう、町長。そういうことで、まあいいです。

時間がないんであれですけども、あと、スマート農業の県の補助の関係、１つだけ確認したいんですけれども、リモコン式の草刈り機とかが対象になるわけですけれども、もなるんですけども、最近はやってるとかいうんですけど、急斜面を、親子式の草刈り機みたいなんがあるんですよね。（「ベローン」と呼ぶ者あり）ベローン。ベローンっていうこれは商品名ですけども、こういうのも対象になるんでしょうか。ちょっと細かい話で急にすみませんけど。

○議長（山本　芳昭君）　坂本課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　省力型の草刈り機ということになりますので、対象にはなってくるとは思いますけども、まだ町内ではたしか補助で導入をされたという実績はないというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　いや、本当に草刈りが一番大変で、そういうところの、ラジコンもあるんですけども、やっぱり斜面が４５度以上になると転げ落ちるというような現実もありまして、こういうような機械もやっぱり今後入って、草刈りの省力化に持っていきたいなと思っております。

続きまして、ＲＴＫの不感地域の調査ですが、実際に、県は７年度にいつ頃どこに何台そのようなものを設置したんですか、実証のために。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　令和７年度の試験研究成績というところで県から頂いておりまして、圃場につきましては、阿毘縁地域内の圃場っていうところで研究をされております。ということでありまして、２つの圃場が場所としてありまして、いわゆる基地局を置くケースと置かないケースとか、同じ場所でですよ、そういったところを圃場を２か所つくって、具体的なところの飛行状況だとか、撮影モードの、あるいは解像度あたりを比較しながらということで整理をされておりまして、最終的には成果があったという

ところは報告をいただいておるとこであります。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　その試験的に設置したＲＴＫの局、これを実際に使って自動走行を、ドローンの、何の自動走行を、ドローンの自動走行ですかね、されて、そのドローンっていうのはどなたのドローンだったんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　坂本課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　ドローンにつきましては、こちらは県の試験場等のものを活用して行っておりまして、ＤＪＩ社製のものを活用してやっております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　去年のこの事業の計画では、町内のドローンの所有の法人あるいは農家の方、この方々にドローンにＲＴＫモジュールをつけて飛ばしたりして実証もできるんだよというような話があったかなと思うんですが、これ、それとまたこのＲＴＫ基地局とは違う話だったんでしょうか。この県の進めてた実証実験とは別な話だったんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　坂本課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　この事業しかございませんので、県のほうで不感地域というところの話が出てたとは思うんですけども、実際した調査としましては、山間地域の電波の条件が悪いところにＲＴＫの基地局を設置して機械を操作した際に、ＲＴＫを設置をした場合の衛星の観測数と、それと置かない場合の衛星の観測数というような形で、どちらが精度が上がるかというような調査結果になりまして、実際のところ、日南町内での不感地域の解消に向けたというような調査結果にはなっていないというところでございます。ですので、ＲＴＫの有意性ということは分かったというところはあるんですけども、不感地域でじゃあどうしていくかというようなところまでは踏み込んだ調査になっていないというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　当たり前の結果の分かっとることを県は調査したんだよということですね。何とも情けない話ですね。ちょっと県にこれは、まあもういいです。こっから先、どうですか、その結果を持って８年度はどのような今度動きになってくるのか、伺います。

○議長（山本　芳昭君）　坂本課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　県の事業につきましては、令和７年度で終了ということになっておりますので、今のところこのＲＴＫの事業の検証ということはしないというふうには伺っております。（発言する者あり）はい、そのようになっております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　いや、ますます県のやることは何だいさっぱり計画性がない、単発で終わり、こういうようなことでいいんでしょうかね。実際、いろいろと今

回、スマート農業の関係で見たんですけども、全国の情報を調べた中で、やはりスマート農業の導入の計画とかね、そういうのは県が基本的には持っとって、それこそ面積を拡大、ここまでやるんだよと、あるいはこういう機械を年度ごとにこれこれ入れるんだよと、計画をしっかり持っとるんですよね、県自体がね。それをもって各市町村は動いとるというような姿なんですけど、残念ながら県はそうではない。ＲＴＫの話で、私はすごいこのＲＴＫの事業に期待をしておりました。別に県がせんでも町がすりゃあいいんですけどね、簡単なことなんですよ。既に携帯電話が入るところは、若干精度が落ちるかもしらんけれども、センチメートル単位での走行はできます。やはり一番スマート農業の中で効果を発揮するのは、私はドローンだと思っております。まさに一番の省力化、大規模化に備えての運用ができるものだと。ただ、残念ながら、性能の半分も使ってない。いわゆる自動走行、航行、これができる環境が必要だよと私は思っております。

ＲＴＫの電波が受信できるできないはちょっと置いといても、既に電波が入るとこも結構あります。入らないとこもありますけど、それは本当に別途の手だてをしなければなりませんけれども、あと、機械と電波だけじゃないんですよね。必要なのが詳細なマップ、これがセットになって自動航行っていうのができます。そのマップづくりが、やはりマップづくりまでして町内でドローンの自動航行をやってるとこがあるかどうかという認識はどうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　坂本課長。

○農林課長（坂本　文彦君）　ドローンを使う際に、圃場を確認するという形で、圃場の四隅を撮ったりというような形でマッピングをされるというふうには伺っておりますけども、まだ自動運転で圃場の消毒等、そういったものに使われてるということは聞いてなくて、やはりお二人等で基本的にはやられるというふうに聞いております。また、実際、使用者の農業者の方からも、自動運転の場合は、やはりのり面の、高いといいますか、そこが壁というような形で認識して、そうすると、そこを余裕幅を持って内側を散布してしまうということで、本来圃場の隅までまいてほしいところが自動ではできないというような、機器上の安全性というところでそういったところもあるようで、なので、どうしても手動でやっているというようなお話も伺っております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　実は去年、ＲＴＫの現地で飛ばす実演がありました。それにも私も参加させていただきまして、そのときのメーカーさんが持ってこられた機械っていうのは、その場で航空写真を撮影して、それ自体がもう既に詳細な位置情報を持ったセンチメートル単位の画像なんですよね、写真なんですよね。それでもうポイントして、このエリアは田んぼですよ、はい、ここを散布幅６メートルでやれっていったら、それですぐ済むんですよね。田んぼが２つあってもちゃんと終えます。いろいろと仕組みはあるんですけども、私が言いたいのは、機械を導入するだけがスマート農業ではありませんと。いわゆるそれを運用するための電波であったり地図であったり、そこまで

やって本来のスマート農業の効果が出てくると思うんですけども、そういうような政策を町としても進めるべきではないかと思います。どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　そこまでの到達線っていうのはやっぱり目標値だろうと私も思っておりますし、例えばドローンの自動であれば、今２人でやらないといけないところは１人でできるっていう話にもなろうと思いますし、それが、どういいましょうか、経費節減にもつながるっていうことで、最終的には、議員もおっしゃられたように、やっぱり所得を上げていくっていうことがこれからの在り方の目的になるという考え方は私自身も持っておりますので、作業効率ももちろんそうですし、あるいは作業軽減、そういったところにもつながることがこれから求められてるのかなというふうに思っております。その中で、自動っていうところでありますので、なかなか今の考え方からいくと、空からの衛星からの電波っていうところをうまく活用していくっていうところでありまして、それがより確実性だとか、そういったところになればいいかなというふうに思っておりますが、なかなか今、現時点では、やはり同じ基地局でも固定なのか移動式なのかとか、そういったところもあるでしょうし、農業分野だけではなくて、今、車両の話も出てきていたり、あるいはその力を防災につなげないかとか、そういった幅広い中で研究していきたいなというふうに思っておりますので、どういうことがこれからできるかとか、現状がどうかとか、いつ頃、この辺の性能がどうかとか、そういったところのまずは勉強をさせていただきたい、その場をつくっていくようにしております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　本当にその農地の撮影、測量、これが手間なことと、かつ、そういうドローンが恐らく町内には入ってない可能性もあります。要は機能がない、要は小型なものってそれがついてないんですよね、先ほどＤＪＩって言われましたけど、中山間地域向けの小さい機械にはついてなくって、実演、去年されたのはやっぱりその上の機種、それにはカメラがついてて、写真を撮って、詳細な地図データができるというものでありました。その必要性というのは町長お認めになるわけですけれども、それをつくるのに、マップですよね、マップを町でつくるということが、私は現実的にすぐでもできるんじゃないかと思うんですけども。

もうちょっと具体的に言います。測量のドローンを、得意の産業振興センターに買っていただく、農林課が得意のですよ。買っていただく、それをもって、各集落のドローンで防除、除草されるところの圃場データを撮影してもらえばいいんですよ。そのものを、機能が低い機械でも使えるようなんで、それに反映させていただく、そういうような事業をさくっと組み立てていただけると、本当の意味でのドローンのスマート農業の活躍ができるというようなところですよね。

そういうようなところもちょっと研究をして、本当にこうなったら現実的にすぐできると思うんですよ。そうやっていくことがやっぱり、行政がそういう情報を逆にどんど

ん仕入れて、どうやってスマート農業を進めていこうかというぐらいの動きをしていただきたいなと思うんですよ。こうやって産業振興センターが難しいんであれば、そのマップをつくるための支援を若干していただくとか、そういうようなところの動きもしていただきたい。さっき町長申し上げられましたけども、つくったデータというのはもうセンチメートル単位のデータなんですよね。それって、さっき町長言われたように、防災の関係とか、ほかのものにも町の資産としてそれが使えるじゃないですか。それぞれの、個々の法人やら個人がつくったものっていうのはばらばらなわけですよ。かつ、これからどんどん集約化が進んでいくんであろう、こういう方向しかないわけなんですよね。そういう中において、A法人がつくったものとB法人がつくったもの、これまた一緒に使えるわけなんですよね、実際には。そういうようなところは、やっぱり情報のしっかり使った農業の進め方だと私は思っております。ぜひこういうことをやっていただきたいんです、前向きにというか、もうやりますよぐらいまで言っていただきたいんですけど、町長、どうでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　基本的に先ほど申し上げましたとおりでありますので、まずは研究を、この世界の研究というところを、どこまでが必要で、どこまでが今、動いてるのかみたいなこと、それがどこの事業に、どこの分野に効果があるか、そういったところで、まず、ちょっと私自身もそうですし、行政分野の中でもまだまだ熟知してる状況ではありませんので、まずは研究、勉強をさせていただきたいというふうに考えております。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　今、本当にそういう、スマート農業、何でも使えます。やっぱり一番精度を要するのはドローンだと思いますけども、トラクターにしてもやっぱり結構無駄があるんですよ。同じところに走って、もちろん労力もかかりますし、余計な油もかかります。そういうので本当にうまく利用すれば、費用対効果もすぐ出るもんだろうと私は思っております。頑張って進めていただきたいと思います。

　もう一つ提案ですけども、先ほど言いました親子式の草刈り機がありますが、補助の対象にはなるとは聞いたんですけども、今、役場がハンマーナイフモアですか、貸出用のやつとか、お持ちですよね。そういうのも結構利用されとるということも聞いております。それぞれの事業者が買わなくっても、貸出用で、そういうのを農林課、得意の産業振興センターでもいいです、置いていただいて、貸し出しますよといったら、またこれもいい効率化が図れる、すぐにでも取りかかれるようなもんだと思いますが、どうでしょうか、提案です。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　親子式、私も現物もカタログも見たことがないので、ちょっとイメージがつきにくいっていうところがあって、大変返答に、答えにくいですが、ただ、

そういうものが、機械が生まれてきてるっていうことは、それなりに適地に対しての効果が生まれてるんだということはイメージはできますけど、実際そういうところを、現物を見させていただきながら、求められてるのはやっぱり負担軽減であるとか安全性だとか、これから特に暑い夏っていうところが恒常的になるというところがありますので、極めて効果が生まれるということでありましたら、それはＰＲとかも含めて、していきたいというふうには考えます。

○議長（山本　芳昭君）　７番、岩﨑昭男議員。

○議員（７番　岩﨑　昭男君）　いろいろな提案をさせていただきました。また、この方向性、町長もいろんな前向きな御回答をいただいたなと私自身は捉えております。すぐに結果が出なくても、次の一般質問、その次の一般質問で、またこの情報は追っていきたいなと私は思っております。

という思いを最後、述べさせていただきまして、私の一般質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長（山本　芳昭君）　以上で岩﨑昭男議員の一般質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　ここで暫時休憩といたします。再開を３時５０分からといたします。

午後３時３６分休憩

午後３時４９分再開

○議長（山本　芳昭君）　休憩前に引き続き一般質問を行います。

４番、荒金敏江議員。

○議員（４番　荒金　敏江君）　日本共産党の荒金敏江です。

今回、私は、１、介護保険事業者支援について、２、自衛隊の徒歩行進訓練についての２点について質問します。

初めに、介護保険事業者支援について。①、来年度の介護保険改定に向けて、衆議院厚生労働委員会で改定案の審議が始まっています。社会福祉法などの一部を改正する法律要綱の中の介護保険法一部改正案では、中山間地域や人口減少地域を対象に、特定地域サービスや特定地域居宅サービス等事業を新設すると書かれています。その内容を問います。

②、人員配置基準の緩和を認めるという新設の事業ですが、基準を緩和するのではなく、配置基準を満たした正規の介護保険事業の継続を目指すべきと考えますが、町長の見解を問います。

③、日南福祉会の経営を安定させることが町民の生活を守ることに欠かせないと考えますが、町としての支援をさらに充実させる考えがあるのかを問います。

④、中山間地域介護サービス確保対策事業要綱を見直し、対象地域を広げるべきと考

えます。見解を伺います。

大きな2番です。自衛隊の徒歩行進訓練について。①、今年3月5日に町内で行われた自衛隊徒歩行進訓練はどのようなものだったのか、町が許可した上で実施されたのかを伺います。

②、銃を持っての行進訓練が町内で行われたことを町長としてどう考えるのかを伺います。

③、殺傷能力武器輸出解禁など、一連の政権の姿勢に不安を持つ人々により、全国各地で戦争反対のデモが行われています。若者を再び戦地に送らないために声を上げていくべきと考えますが、町長の見解を問います。

以上で初めの質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村　英明君）　荒金敏江議員の御質問にお答えします。

最初に、介護保険事業者支援についての中の介護保険法の一部改正案の特定地域サービスと特定地域居宅サービス等事業の創設の内容という御質問でございますが、令和9年度からの施行を目指す介護保険法一部改正案には、人手不足あるいは人口減少が深刻な過疎地、中山間地域でも介護サービスを維持することを目的とした新しい仕組みのほうが盛り込まれております。現行の介護保険制度は、全国一律のルールで運営されておりまして、過疎地あるいは中山間地域では深刻な人手不足、あるいは経営悪化など、サービス維持が困難になっていることから、基準緩和等の見直しが検討されておるところでございます。

その中の特定地域サービスですけれども、人員配置基準や運営要件の柔軟化、定額報酬の選択制の導入などによりまして、事業運営の安定化を図る仕組みであります。対象サービスも拡大される方向で検討されておられます。また、特定地域居宅サービス等事業につきましては、なおサービス確保が困難な場合に市町村が主体的に関与し、地域支援事業の枠組みも活用しながら、在宅サービスの提供を維持するという仕組みでございます。

2つ目の人員配置基準の緩和を伴います新設事業の配置基準についての見解という御質問でございますが、介護施設の人員の配置基準は介護保険法に基づいて定められておりまして、利用者が安心して介護サービスを受けられる環境を確保するため、職員1人当たりが対応できる入所者数を制限することで、過度な負担を防ぎ、利用者へのケアが適切に行き届くことを保障する仕組みとなっております。

しかしながら、介護職員の深刻な人材不足や人件費の高騰によりまして、現行の厳格な人員配置基準を維持することが難しくなってきているのが現状であります。こうした課題に対応するため、人員配置基準の緩和を伴う新設事業として、先ほどの特定の地域サービス、これの配置基準につきましては、国が一定の基準を示した上で、鳥取県が条

例で規定することとなっております。基準の緩和に当たりましては、職員の負担あるいは質の確保への配慮が前提であることから、現在提供している各種サービスについて、将来にわたる見通しを十分検証をしていく必要があると考えております。

3つ目の日南福祉会の経営安定のために町が支援充実する考えがあるのかという御質問でございますが、日南福祉会への支援についてでありますが、同法人は本町の介護を支える中核であります。その経営の安定は重要というふうに認識しております。これまでも施設の使用料の負担軽減、あるいは今回の介護人材育成のための職員宿舎建築事業補助などの支援を行ってきておりまして、今後も経営の状況を踏まえ、必要な対応を検討してまいりたいと考えております。

4つ目の中山間地域の介護サービス確保対策事業の要綱ですね、これを見直し、対象地域を広げるべきと考える、見解をという御質問でございますが、中山間地域の介護サービス確保対策事業は、町が県の補助も活用しながら、サービスの確保が困難な地域に重点的に支援を行っております。現時点では、対象拡大に関する具体的な要望は把握しておりません。直ちに見直す考え方はありませんが、今後の状況を踏まえ、現場との意見交換を引き続き行ってまいりたいと考えております。

次に、大きな項目の2つ目です。自衛隊の徒歩の行進訓練についてという御質問の中の、本年3月5日に町内で行われました徒歩の行進訓練についての御質問ですが、当該訓練は自衛隊によります長距離機動訓練でありまして、隊員の気力あるいは体力の錬成及び担当地域の地形あるいは地物の把握を目的としまして、日南町役場から伯耆町の溝口の体育館までの区間で実施されたものと承知しております。

次に、町が訓練を許可したかとの御質問でございますが、自衛隊の訓練実施そのものにつきましては、法令に基づき自衛隊の責任において行われるものでありまして、町がその可否を不許可、却下する性格のものではございません。

一方で、本件におきましては、訓練の起点として役場駐車場の一時使用及びトイレの使用についての申出がありましたことから、施設の管理者として、他の利用状況等を踏まえ、業務開始前の時間帯に限り支障がないと判断し、使用のほうを認めたものでございます。

次に、町内で銃を持って訓練を行うことについてでございますが、自衛隊におきましては、銃は訓練を含む通常の任務遂行におきまして、ヘルメットだとか手袋、水筒等と同様に、携行される標準的な装備の一つであると認識しております。本件のような行進の訓練におきましても、当該装備の携行は訓練の一環として行われておりまして、法令等に基づいて、自衛隊の責任において適切に管理されているものと認識しております。町としましては、こうした訓練の実施に当たりまして、安全確保や周辺への配慮が適切に図られることが重要であると考えております。

次に、3つ目の若者を再び戦地に送らないために声を上げるべきとの御意見についての見解でございますが、反戦デモをはじめとする意思表示につきましては、多様な背景

を持つ方々がそれぞれの考え方や主張を表明するものであり、これを否定するものではなく、尊重されるものと認識しております。

一方で、様々な御意見や主張がある中において、町長という立場は特定の立場や主張に偏ることなく、公平性及び中立性の確保をしながら町政運営に当たることが求められてるものと考えております。このため、特定の主張について、町長として賛否の立場から発言することには慎重であるべきものと考えております。

以上、荒金敏江議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　再質問がありますか。

4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　介護保険事業者支援の1番のところの答弁で、事業運営の安定化を図る仕組みで、特定地域サービスはそういうものだというふうに書かれていますけれども、この事業運営の安定化を図るというのは、どういうふうな対策を取っているという内容なのかを伺います。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　答弁するまでにまだ議論中っていうところでありますので、国のほうで確定してるものではないということで御承知、共通認識の中でお話をさせていただいて、現行の中での資料に基づいて答弁をさせていただいておりますので、これから日々、変わってくるっていうことも当然あり得るという話ですので、御承知おきいただければというふうに思っております。

現在、国のほうで来年度の改定に向けて、その主要な論点というところで聞いておりますが、1、2、3点ですか、1つ目は介護人材の確保と処遇改善、経営安定というところがあります。来年度も、いわゆる賃上げの継続っていうところが焦点になって、基本報酬の引上げっていうところにも踏み込んだ形のものがあるというふうに理解しておりますので、そういったところでの安定化っていうところにつながるものかなというふうには思っておるところであります。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　在宅サービスの、特養ホームなど施設の人員配置基準を緩和して、人員数が足りなくても、あるいは専門職が非常勤や兼務など、そういう要件も緩和することができるということが、この介護保険法の改定案として出されています。国会の中でいろいろ審議されてはいますけれども、その中で、この人員の緩和をどの程度にしていくのかとかいうことを検討していくということで、一つの介護保険法の改正案として国のほうが出しているものですので、それが大きく変わっていくというふうなものではないというふうに考えています。

この在宅サービスや特養ホームなどの人員配置基準を緩和されても、人数が少なくなっても、それを事業として認めていくということについてはどのようにお考えですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　２０００年からスタートしたこの制度でありまして、それと、やっぱり人口の変化っていうところ、サービスを受けられる方もどんどん増えてこられます。２０４０年に向けてというところが、高齢者が人口がピークを迎えますというところの中の、そういったところを焦点に置きながら介護事業者のこれからの、あるいは介護保険の在り方っていうところで、今回見直し等がされております。ですから、今回、人手不足だとか経営安定が難しいというところで、全国一律の基準っていうところがなかなか担保できにくい地域が生まれてきてるっていうところが背景となって、今回議論されてるのが、大都市部あるいは一般的な市ですね、それと、中山間人口減少地域というところで、大きく3つに区分される中で、ということで、そういういわゆる中山間とか過疎地域の特例的な措置としてこういうことが、新しく人員配置基準を緩和するという形の中で、方向性で検討されるというところであります。

詳細についてのまだ数字的なところは把握し切れておりませんが、いずれにしてもこういった中山間地域、過疎地域の中でもサービスが提供できる体制っていうところが主眼になってるというふうに認識しておりますので、特にこういう地域は、そういった仕組みを検討していただいてるっていうことはありがたい方向かなというふうに私は思っております。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　議会だよりのナンバー１８２号の１９ページなんですけれども、私を含む3人の議員が日南福祉会の在宅部門の職員の方との意見交換をしたときの、どんな意見が出たのかということを記事にして出しています。その中で、どこの部署も人手不足のためニーズに十分対応できているとは言えない。ヘルパーの訪問やデイサービスは利用回数を制限せざるを得ない。それから、利用者宅への移動時間が長いことも経営に影響している。また、ガソリン価格の高騰の影響も、1割増えるぐらいの影響が出ている。それから、要支援の方の入浴介助が増えているんだけれども、介護で入浴支援をした場合に比べて、要支援の場合は、その支援の内容にかかわらず定額の報酬になっているので、報酬単価が低くて、それも影響が出ているというふうな意見が出ています。

この要支援の入浴介助というのは、平成２６年の改正で、それまで要支援に対する訪問介護や通所介護などのサービスは、介護保険の中の予防給付ということで行われていたんですけれども、この２６年の改正のときに、訪問介護や通所介護は地域支援事業に移行されるということになりました。ということで、いわゆる資格を持たないボランティアの方でもできるサービスなんだというのが国の言い分で、この地域支援事業のほうに移されたわけですけれども、実際に日南町内でボランティアで要支援の人に対する訪問介護、ヘルパーの訪問やデイサービスをやっていくことはできないので、結局日南福祉会がこの総合事業のほうも受けざるを得なかったということで、単価の低い総合事業のほうを受けるというふうな形になってきています。

特定地域サービスということで人員配置の基準を緩和しても、それでも無理な場合には、特定地域居宅サービス等事業というのをしていってもいいというふうに改正案では書かれているわけですけれども、その中の答弁で、市町村が主体的に関与し、地域支援事業の枠組みを活用しながら在宅サービスの提供を維持する仕組みだというふうに書かれていますが、この地域支援事業の枠組みを活用しというのは、具体的にはどういう中身なんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　片岡課長。

○福祉保健課長（片岡　慎也君）　こちらの地域支援事業の枠組みでございますけども、介護予防・日常生活支援総合事業に準じた財政構造ということで移行するというような書きぶりだったかと思いますので、そういったところを含めましての地域支援事業での運営というような解釈をしております。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　それで、まず一つ、私が問題だと思うのは、先ほどの人員配置が緩和されても、それでも無理だという事業所に対して、その基準については県のほうで人員配置の基準、あるいはどこの地域が特定地域になるのかっていうことを県が決めていくわけですけれども、それにも該当しない場合には、市町村がこの訪問介護、それから、訪問入浴介護、これは日南町では行われてないかもしれませんが、ポータブル浴槽を持っていって、看護師とヘルパーで訪問入浴をさせるというふうなサービスですけれども、それと、通所介護や短期入所、ショートステイというふうなものをできるというふうに、市町村がやれるというふうに思う事業に委託することができる、いわゆる人員配置基準っていうのに関係なく、関係なくというんですかね、それが満たされなくても、町としてできるだろうと思うところには委託することができるというふうになっていますが、それでよろしかったでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　私が持ってる現時点の資料からすると、そのとおりだと思ってます。ただ、詳細についての細かい話は多分これからだろうというふうに思っておりますので、その辺がまだ当然出来上がってるわけではありませんので、仕組み的には、考え方とすれば、議員おっしゃられるとおりというふうに、私もそのように感じております。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　それを解釈すると、いわゆる専門職はいなくても町が委託できる、それから、人員も何人以上はいなければいけないというのが国や県の基準なわけですけれども、それがなくても委託することができる。その上に、今行われている地域支援事業は、要支援の1、2の人の、医療関係でない、訪問看護などを除いたヘルパーの訪問とデイサービスがこの地域支援事業に入っているわけですけれども、要介護の1から5までの人、それもこの総合事業の中の介護予防・日常生活支援総合事業とい

うものに入れることができるということまで書かれているんですけれども、これはそれで間違いないでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　ちょっとそこまでの手持ち資料を持っておりませんので、ちょっと分からないというのが、現時点で私の中では分からないというのでお答えさせていただきたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　４番、荒金敏江議員。

○議員（４番　荒金　敏江君）　改正案の中身を公表されてますので、それの中の第１２２条の２、１２６条関係ですね。その前に第１１５条の４７、第１２号関係というので、具体的に、要介護認定を受けた被保険者のうち居宅において介護を受けるもの、訪問介護、訪問入浴介護、通所介護または短期入所、生活介護というものを地域支援事業に入れることができるというふうに書かれています。

あわせて、要支援の人の訪問介護や短期入所も含めてですけれども、それをそういう資格も問われない、人員の数も問われないという、事業所というか団体というか、そこに事業を委託することができるというふうに書かれています。それと、特定地域居宅サービス等事業に係る費用負担は、この総合事業の中の介護予防・日常生活支援総合事業と同様とするというふうに書かれておりますので、要支援１、２の人をこの総合事業のほうに移したときに、介護報酬の額が非常に少なくなってきたわけですけれども、それと同様のことが、要介護の１から５を受けた人に対する訪問介護やデイサービス、ショートステイまでが単価の安い地域支援事業、介護予防・日常生活支援総合事業というのに組み入れていくことができるという法案だと思うんですが、こういう形っていうのは、今の介護保険を行っている事業者にとって大変な打撃だと思いますが、そのようには考えられませんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　まず、前提として、まだ決まってないっていうところを御確認させていただければと思います。

その中で、今議論されてるっていう、お話しいただきましたっていうところは、その方向で検討はされてるということは言えるかもしれませんが、ただ、詳細について、それから報酬単価がまだ、私どもとしても承知してない段階ですので、どういいましょうか、現行より不利になるとかどうかっていうところは答弁を控えさせていただきます。ただ、やはり介護保険制度っていうところの、どっちみち保険料を払って、サービスがないと困るっていう話、これが原則だというふうに思っております。ですから、その中で、背景で人手不足があったりとか、そういうことが生まれてる現象が現在であるし、これからもそういう、特に中山間地域あたりはそういう現象が今後も生まれてくるっていうことでありますので、サービスを提供するっていうことがまず一つの考え方、中心になるべきだろうと思っております。

その中で、とはいいながら、経営安定っていうところが求められてるというのも事実でありますので、その辺の報酬単価のバランスっていうのは、やはり国のほうでしっかり、どういいましょうか、現状を把握された中での動きだろうというふうに思っておりますので、考え方がですけど、最終的な結果が出てきて、それがプラスになるのかマイナスになるのか、あるいは事業所にとって利益になるかどうかっていうところはちょっと分かりませんので、その辺の発言は控えさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　確かに決まってないっていえば決まってないです。ただ、例えば訪問介護の報酬が非常に引き下げられて、それが日南福祉会の場合は訪問介護の事業所が独立しているわけではないので、経営全体として何とかやっているといえばそうなんですけれども、独立して訪問介護事業所をやっていたところはかなり多くの、全国的には廃業せざるを得なかったっていう状態もあるわけで、そのときにも、訪問介護の事業所はもうかっているっていうんですかね、黒字だっていうふうな数字を国は出して、報酬を下げてしまったわけですけれども、それは都市部のほうで、すごい近いところの訪問が中心だったりするところが主で、実際には、すごくもうかっている事業所もあったので、平均でいうともうかっているという数字は出たんでしょうけれども、実際には赤字で困っているところがたくさんあるのに、そういうところを、どういうんかな、認めずにやってきてるっていうところもあるので、ぜひ人員を確保するということについての働きかけっていうかな、それは必要ではないかというふうに思っています。

認知症の人と家族の会というのが、5月の初めに、こういう制度の見直しがあるということを受けて、緊急の要望書というのを国会議員に送付しています。それで、要望の内容としては、1番に、特定地域を創設し、事業所の介護職員を減らすのではなく、必要な介護職員を確保するための見直しを行ってください。⑵、どの地域に住んでいても、どんな場所で暮らしていても、全国の認定者に公平、平等な給付を維持するための見直しをしてくださいという、この2つの要望を国に出しています。

私自身は介護保険が始まったときに、もうヘルパーで働いていたわけですけれども、そのときに介護保険を始めるということで、介護の社会化ということで、社会全体で支え合っていく仕組みなんだということで、こういう中山間地の者でも、それから、人口の多いところの者でも、同じサービスが受けられるようになるんだという、そういうことで介護保険が始まっていると思うんですけれども、もし特定地域ということで、人員の配置基準が守られない、専門家もいない要介護の人までそういうサービスを受けなくちゃいけないようになるっていうのは、介護保険の原則から大きく外れていくのではないかというふうに思うわけですが、その辺についてはどのようにお考えですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　るる御説明いただきましたが、その内容については私も同感であります。ただ、現実的には、人を確保するっていうところができる地域とできない地

域が生まれてきてるっていう現実があります。本町にとってもそのとおりだというふうに、今後も含めてですが、可能性が高いっていう、あるいはさらに努力をしていかないといけんっていう地域の一つであるというふうに認識しております。

ですから、理想はそのとおりだというふうに思っておりますので、とはいいながら、そこが難しい地域が発生してるっていうことで今回の見直しをされてるというふうに思っております。ただ、やはりサービスの質っていうところは、どう考えるかっていうところは、これから県の事業っていうか、特定地域サービスにつきましては県のほうで条例をつくりながらという話でありますので、その中で、やっぱり誰でもいいかどうか、あるいは有資格かどうかっていうところは別として、安全だとか丁寧なサービスが提供できるっていうことの確保、その前提は必要だろうというふうに私は思ってます。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　西部の町村会などで、今のこの介護保険法の改正案についてのお話っていうのは検討されているんでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　検討はしておりません、現在ですけど。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　中村町長はあかねの郷の施設長もしておられましたし、介護についての見識は高くお持ちだと思いますので、どういうんですかね、西部の町村会の中でもリードして、実際にどういうふうな動きを国がしていくのかっていうことをしっかり捉えて、必要な陳情はぜひしていくようにしていっていただきたいなというふうに思いますが、町長はいかがですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　あくまでも現時点っていう話でありますし、それがマイナスになるという想定がまだ、現場の中でも難しい判断の、今の時期だというふうに思っております。これが法施行される中で、民間の事業者が主体的だろうと思っておりますので、そういったところで市町村あたりの声が上がるようであれば検討の余地、あるいは要望という形を取れないことはないとは思いますが、現時点ではその段階ではないというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　ぜひ動きをしっかりと注目しながら、必要な声は上げていっていただきたいと思います。

3番目に、日南福祉会の経営を安定させることが大事だということで、それに対して、施設の使用料の負担軽減や介護人材育成のための職員宿舎建築事業補助などの支援を行っているという答弁をいただいています。宿舎の建築事業の補助っていうのは本当に大切なことですので、それはしっかりと補助をしていくべきだというふうに思います。

施設の使用料の負担軽減のことですけれども、これは私も今までも一般質問で話して

おります、決算審査とかだったかもしれませんが、してますが、町の施設を指定管理で日南福祉会に管理を任せているということですので、介護保険が始まって日南福祉会に指定管理を始めたときの状態と介護保険の仕組みがどんどん変わってきてまして、とても介護保険の利用料を使ったりすることで経営が成り立っていくという状態ではなくなってきていると思うので、負担の軽減はしているというのは認めますけれども、施設使用料は徴収することをやめるべき、それよりも職員の待遇を改善をして、職員の確保に回すようにすべきだと思いますが、いかがですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　使用料についての見直しは既にやってるというふうに思っております。いわゆる軽減策のほうに切り替えましたということで、御理解をいただければというふうに思います。

ですから、あと、指定管理でありますので、もう既に２０年近くなって、運営をしていただいてるっていうところでありますので、これからさらに設備的なところだとか、そういった更新、大きな修繕等も生まれてくる可能性がありますので、そういったところでは、今の規定の中で町側がやるというような形にはなっておりますので、そういった意味で、長期的な安定運営っていうところが可能っていうふうに読んでいただくとありがたいかなというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　４番、荒金敏江議員。

○議員（４番　荒金　敏江君）　確かに軽減にはしているんですけれども、場合によっては、指定管理をしているところに町も補助をして、指定管理で運営してもらっている施設もあったりするわけですから、ただ軽減というのではなくて、利用料の徴収はやめるべきではないかというふうに私は考えています。

それから、次の４番の中山間地域介護サービス確保対策事業のことですけれども、これは片道２０分以上かかる利用者のところにヘルパーで訪問したり、あるいはデイサービスで送迎をしたりする場合に補助をしていくというものですが、これについても、先ほど紹介した在宅福祉職員との意見交換の中で、これを見直してほしいという意見が出ています。そのことは先ほど紹介した議会だよりにも載せております。２０分以上ということで、これこれの地域はということで規定をされているわけですけれども、すごく大きなくくりになっているので、その地域で指定されていないところでも２０分以上はかかるんじゃないかなというところもありますけれども、それとあわせて、１５分で行けるところというふうな希望も出ています。遠方の利用者っていうのの数が今減ってきているということもありますし、なかなか回数を遠方の利用者の方に利用をしていただくことが十分にはできていないっていう面もあるので、ぜひそこの緩和をしていってほしいという意見が意見交換会の中で職員から出されているんですけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　御承知のとおり、この補助事業につきましては、どちらかいうと単町的な意味合いからスタートして、県の補助もその後頂くような形で、今現在は進行してるというふうに認識しております。当然、不利的な条件の中の事業ということが前提になって支援をしていきましょうっていう話です。ですから、多分一定の制限はしておりますけど、どういいましょうか、一人一人積み上げていく中で、あまり事務の手数をかけないっていうところも一つの在り方だろうというふうに思っておりますので、そういった意味で一定の区切りをさせていただいてるというふうに思っております。

ですから、スタートした中でいろいろ値上がりもあったりとかいろんなことがあって、あるいは御紹介いただきましたように、職員の希望っていう話も、御意見っていうところも承知はしておりますけど、今後、代表って言やおかしいですけど、福祉会の代表の方等も含めてですが、常に意見交換はしておりますので、この事業に対しての御意見等は賜っていきたいというふうに思っております。必要があれば、改正はする必要性は感じておりますが、まずはその辺の福祉会としての、会としての考え方というのを整理をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　確かに一定の成果っていうんですかね、そういうのがあって、遠方の利用者でも利用ができてるっていう面はあるとは思います。他の保険者の関係では、遠いところの利用はお断りというか、そういう要望があったときには、もう施設入所に切り替えるというふうな対応をせざるを得ないところもあるというふうな話も伺っていますので、ぜひこの制度は続けていくべきだと思いますし、改善できるところは改善できるように対応をしていっていただきたいと思います。

次に、自衛隊の徒歩行進訓練についてです。3月5日に町内で、それこそ鉄砲を持ってたくさんの自衛隊の人が、役場から生山の町なかを通って行進をされたというのでびっくりしたというふうな声を聞いています。確かに訓練の実施を町としていいか悪いかというふうな判断はできないのかもしれませんけれども、これについては、トイレや駐車場の使用というのは連絡があって認めたというふうに、同僚議員の資料請求の中に書かれておりました。それと同時に、2月4日付で、こういう形で行進訓練をしますという通知が自衛隊から町に出されていて、2月5日に受け付けたという文書もその資料請求の中にありました。

2番目の答弁の中で、安全確保や周辺への配慮が適切に図られることが重要であるというふうに答弁されていますけれども、確かに鉄砲は弾は入っていなかったようですし、でも、それを見た人からするととても怖いというか、そういうふうに思われたと思うんですけれども、こういう行進を行うという通知を受け取った場合に、それをその地域の住民の方に知らせるということはしておいたらよかったなと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　今回の訓練ですけれども、いわゆるトイレの使用だとか駐車場の一時的な利用要請があったということで、そういったところの町への要請っていうところがありましたので、それについては時間的な配慮も含めて、大丈夫だという判断の中で利用を認めたというところでありますので、ですから、そういった意味で、このたびの訓練についての周知っていうところは、基本的には行ってないということが現状であります。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　でも、資料請求のところでは、確かに電話でトイレを利用したい、その間、駐車場の利用もっていうことで、それは許可をしたっていうふうに書かれておりましたが、それにあわせて、こういう形で行進をするという通知が、先ほど言ったように2月4日付の通知が出されて、2月5日に町として受け付けているという書類も添付されていたんですが、そのことが、その周辺の地域だけでもよいとは思いますけれども、周知されていたら、住民にとっては安心というのか、びっくりしないで済むっていうところがあると思いますが、そういうことはしていただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　実施訓練計画的には、御案内を自衛隊のほうからいただいているっていうことはそのとおりだというふうに思っておりますが、どういいましょうか、自衛隊からのそういったエリア的なところの、ＰＲじゃないですけど、周知っていうところは求められてないっていうところがありますんで、当然、行進に当たっての注意事項、自分たちの中の注意事項ですね、訓練をするがための注意事項っていうところは記載がありますので、そういったところの中で安全な訓練をしていただくっていうことかなというふうに思っております。

　ですから、今回の場合は溝口までの間っていう話で、日南町だけすりゃいいかっていう話はもちろんあるかもしれませんが、やはり恒常的なところっていうことではなくて、安全な歩行の訓練ですので、そこまで、早朝7時ぐらいからということでありますので、他の地域は昼間になるというふうに思っておりますが、そこまでの必要性については、ちょっとまた検討をしていきたいなというふうには思っておりますが、今後のこういった訓練の在り方ということでの中では整理をしていきたいというふうに思って、自衛隊のほうともその話は議題の一つに、相談をしていきたいと思います。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　3番のところですけれども、今、自衛隊に対してもですし、国の姿勢というんですかね、そういうので、やはり戦争ができる国に向かっているというふうに思える動きがあるわけで、それは見解の違いがあるかもしれませんけれども、そういうことの反映になるのかもしれませんけど、自衛隊への名簿の提供についての資料請求の中でも、令和6年度は２６名の対象の人がいて、そのうち名簿の提供をし

ないでほしいという除外の申請をされた方が4名で、提供したのが２２名ということですが、7年度については２０名の対象者に対し、提供しないでほしいという除外申請をした人が9名で、提供をしたのが１１名ということで、半数近い人が自衛隊への名簿の提供をしないでほしいっていうふうに言っておられます。

やはり、それこそ私が若い頃には、自衛隊は給料をもらいながらいろんな資格が取れるからみたいな話があったりもしましたけれども、今、自衛隊、国を守るというか、災害時の救援活動とか、そういうのだけではなくて、本当に、それこそ鉄砲を使っての訓練もされているのかなというふうに思いますが、そういう方向に向かっているということに対する心配というんですかね、そういう懸念が広がっているんじゃないのかなというふうに思いますが、その辺は町長はどのようにお考えですか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　訓練の内容は、多分従前と変わらないっていうふうに認識しております。世論の考え方っていうのは、様々な御意見があったり、考え方があろうかなというふうには尊重しますけれども、個人的にはその辺を、冒頭申し上げましたように、賛否っていうところの考え方は控えさせていただきます。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　私が3番目に質問したところに戦争反対のデモが行われているというのを書いたために、特定の主張っていうふうに考えられたのかもしれませんけれども、若者を再び戦地に送らないという、それが町民の生活、若者だけではなくて、それを送り出す家族も戦争の中で大変悲しい思いをしている人がたくさんいるわけで、そういう時代をもう絶対に起こしてはいけないんだということ、そういう思いがあるかどうかっていうことをお尋ねしたんです。

日南町は非核平和宣言の町ということでホームページも掲載されていますし、そういう町の町長として、若者をもう二度と戦地に送ることはしないという、そういう決意を示していただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　自衛隊の役割っていうところがありますよね。それが戦地に送ることっていうことですか、という投げかけをさせていただければと思いますが、私はそうではなくて、考え方はいろいろ、個人個人あろうかと思いますし、お父さん、お母さんも考え方があろうかと思います。ただ、おっしゃるとおり、社会の背景がどんどん変わってきたり、あるいはそれに伴って日本国の考え方っていうところも少し変えていかないといけない時代に入ったということは承知しております。

場合によっては、なるかならんかは別として、憲法の話も出てきてるっていう状況で、今、どういいましょうか、日本の中でいろいろ変わってきてるっていうふうに承知しておりますので、その中で、やはり自衛隊をなぜ持つかっていうところと、国は何を求めるかっていえば、やっぱり平和だろうというふうには認識しております。そのための手

法として、手法って言やちょっと語弊がありますが、在り方として自衛隊というところがあるっていうふうに認識しておりますので、ですから、戦地に送るっていうだけが求められてる仕事ではないというふうに認識しております。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　確かに自衛隊ということで、いわゆる災害復旧とか、そういうふうな働きをしているということを否定するものではありませんし、そういうことの恩返しをしたいっていうことで、自衛隊に入ったっていうふうなことがテレビで放映されたりもしております。でも、私自身は、やはり海外にも出ていくということを今の高市政権はそれを否定していないというふうに思いますし、それから、いろんな、例えば元の自衛官の方なんかも、いわゆる日本の国の中で活動していくのは、自衛隊としてやっていけることだけれども、もしこれが海外にも行くっていうことになったら、それは自衛隊とは言えなくなるっていうふうなことを言ってる人もいますし、殺傷できる兵器を輸出することも認めたりというふうな、そういう動きに対して私はやはり恐ろしいなというふうに思っておりますので、ぜひ平和な日本をつくっていくっていうことを大切に考えて、町長にも行動していっていただきたいなと思いますので、最後に一言、お願いします。

○議長（山本　芳昭君）　中村町長。

○町長（中村　英明君）　私から、先ほども申し上げましたように、やっぱり目的っていうのは、日本っていうのは平和っていうところの考え方っていうのが基軸になってるというふうに認識しております。そのための在り方っていうのはいろいろな考え方があろうかなというふうに思っておりますので、町長としてっていう話になれば、平和の日本をつくっていただきたいというふうなことになろうかなと思いますし、また、現時点での目的になってるというふうに認識しております。以上です。

○議長（山本　芳昭君）　4番、荒金敏江議員。

○議員（4番　荒金　敏江君）　ぜひ私も平和な日本をずっと続けていきたい、戦後で守っていきたいっていうふうに思っております。その決意を言って、私の質問を終わります。

○議長（山本　芳昭君）　以上で荒金敏江議員の一般質問を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（山本　芳昭君）　以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会にしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本　芳昭君）　異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって会議を閉じ、散会とすることに決定しました。

ついては、6月3日の本会議は別に通知をいたしませんので、定刻までに御参集いただきますようお願いします。

本日はこれで散会いたします。長時間お疲れさまでございました。

午後４時５７分散会
